

岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書

令和6年12月

岡 山 市

目 次

第1章 調査概要	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査内容	1
1 調査対象ごみ	1
2 調査対象地域及び調査時期	1
第3節 調査手順	3
1 調査場所	3
2 作業場所	3
3 調査手順	4
(1) 調査検体の搬入	4
(2) 調査検体の縮分方法	4
(3) 事前計量作業	6
(4) 組成調査作業	6
4 組成調査項目	7
第2章 家庭ごみ組成分析調査結果	11
第1節 地域的なごみ排出特性の把握	11
1 可燃ごみの排出特性	11
(1) 本市全域	11
(2) 西部地域	16
(3) 東部地域	21
(4) 可燃ごみの排出特性の総括	26
2 不燃ごみの排出特性	29
(1) 本市全域	29
(2) 西部地域	34
(3) 東部地域	39
(4) 不燃ごみの排出特性の総括	44
3 プラスチック資源の排出特性	47
(1) 本市全域	47
(2) 西部地域	56
(3) 東部地域	65
(4) プラスチック資源組成調査結果の比較	74

第2節	現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	76
1	可燃ごみの状況把握	76
2	不燃ごみの状況把握	78
3	プラスチック資源の状況把握	80
4	小型家電製品の混入状況	82
第3節	容器包装廃棄物の混入状況の把握	84
1	可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	84
2	不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	86
第4節	再資源化及び減量化の可能性に関する検討	89
1	可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	89
2	不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	92
第5節	ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	95
1	可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	95
	(1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量	95
	(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量	96
2	不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	97
	(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量	97
	(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量	98
3	プラスチック資源の1袋当たりの投入量・投入容量	99
	(1) プラスチック資源の1袋当たりの投入量	99
	(2) プラスチック資源の1袋当たりの投入容量	100
第3章	家庭ごみ組成分析調査結果の総括	101
1	地域的なごみの排出特性の把握	101
2	現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	101
3	容器包装廃棄物の混入状況の把握	106
4	再資源化及び減量化の可能性に関する検討	106
5	ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	106
6	今後の課題	107
(参考)	ごみ組成分析調査の流れ	108

調 查 概 要

第1章 調査概要

第1節 調査目的

本調査は、岡山市（以下、「本市」という。）内の家庭から排出されるごみの組成を調査することにより、資源化物がどの程度混入しているかを確認し、排出実態から見たごみの減量化・リサイクルの可能性を検討することを目的として実施している。また、調査結果の経年変化等を検証することにより、本市が実施している啓発活動の効果を確認することも目的としている。なお、本調査は、事業系ごみは調査対象外としている。また調査結果は、以下に示す項目で整理を行っている。

- ① 地域的なごみの排出特性の把握
- ② 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握
- ③ 容器包装廃棄物の混入状況の把握
- ④ 再資源化及び減量化の可能性に関する検討
- ⑤ ごみ袋1袋あたりに投入されるごみ量等の把握

第2節 調査内容

1 調査対象ごみ

本調査では、本市から排出される家庭ごみのうち「可燃ごみ」、「不燃ごみ」と令和6年3月から回収を始めた「プラスチック資源」の3種類について調査を行った。

なお、「資源化物」、「粗大ごみ」については、今回の調査対象外とした。

2 調査対象地域及び調査時期

家庭ごみの調査対象地域及び調査時期は、表1-1、図1-1に示す通りとした。

表1-1 調査対象地域及び調査時期

項目	旭川西部地域	旭川東部地域
調査対象地区	大窪地区、平田地区、津島地区	西大寺中野地区、福泊地区、御成町地区
可燃ごみ	収集日：令和6年10月8日(火) 調査日：令和6年10月8日(火) (※津島地区の収集日のみ別日程で、令和6年10月7日(月)に実施)	収集日：令和6年10月8日(火) 調査日：令和6年10月9日(水)
不燃ごみ	収集日：令和6年10月9日(水) 調査日：令和6年10月10日(木) (※津島地区の収集日のみ別日程で、令和6年9月18日(水)に実施)	収集日：令和6年10月9日(水) 調査日：令和6年10月10日(木) (※西大寺中野地区の収集日のみ別日程で、令和6年10月2日(水)に実施)
プラスチック資源	収集日： 大窪地区 令和6年10月7日(月) 平田地区 令和6年10月3日(木) 津島地区 令和6年10月4日(金) 調査日：令和6年10月11日(金)	収集日：令和6年10月7日(月) 調査日：令和6年10月11日(金)

※以下、特に断らない限り西部地域とは旭川西部地域、東部地域とは旭川東部地域のことを指す。

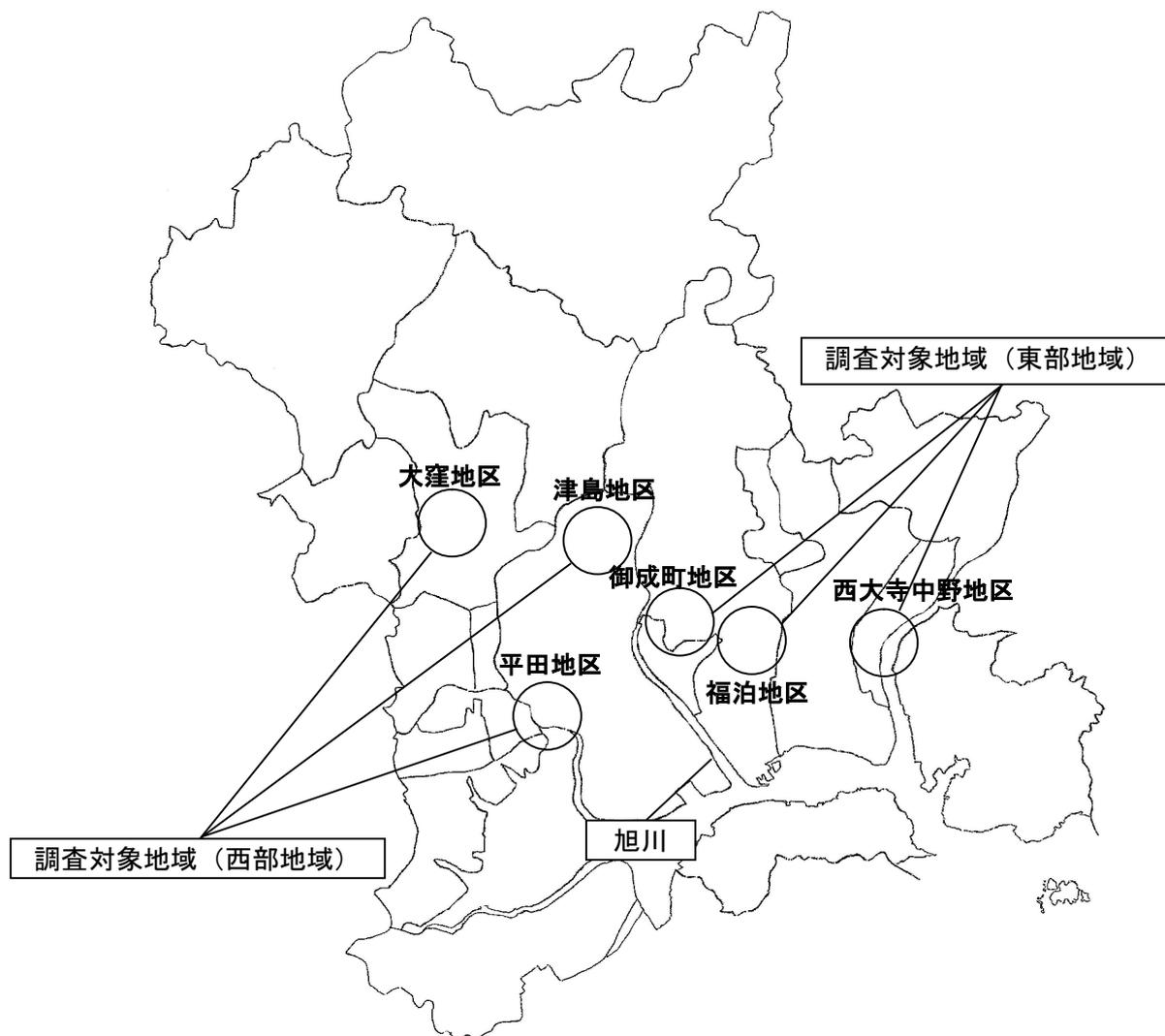


図1-1 調査対象地域

第3節 調査手順

1 調査場所

本調査は、岡山市東区浅越 625 浅越スポーツパーク（旧浅越最終処分場計量所跡地）にて実施した。

調査実施場所を、図 1-2 に示す。



図1-2 調査実施場所

2 作業場所

本調査は浅越スポーツパーク（旧浅越最終処分場計量所跡地）の屋外を利用して実施することとしたため、ごみの飛散や臭気対策、雨よけ、調査検体の事前保管などを目的としてテントを設営し、組成調査もテント内で実施するものとした。同時に、設営したテントの周囲はシートなどで覆い、風による転倒を防ぐ目的で各所に重りで固定した。

3 調査手順

(1) 調査検体の搬入

今回の調査も、紙類やプラスチック類の汚れの状況や、生ごみの排出状況なども調査することとしたため、パッカー車による通常の収集では、収集時にごみ袋の一部が破碎または攪拌されてしまい、調査目的の一部である汚れの状況などが分からなくなると考えられたことから、軽トラックにより調査検体の確保を行うこととした。なお、調査検体の確保に当たっては、事前に町内会等へ了解を得た地区のごみステーションに排出されたごみを、本市の職員が回収する方法を採用している。

上記のようにして得られた調査検体は、地域性の偏りを少なくするため、一旦、図 1-3 に示す場所に地域毎に搬入するものとした。

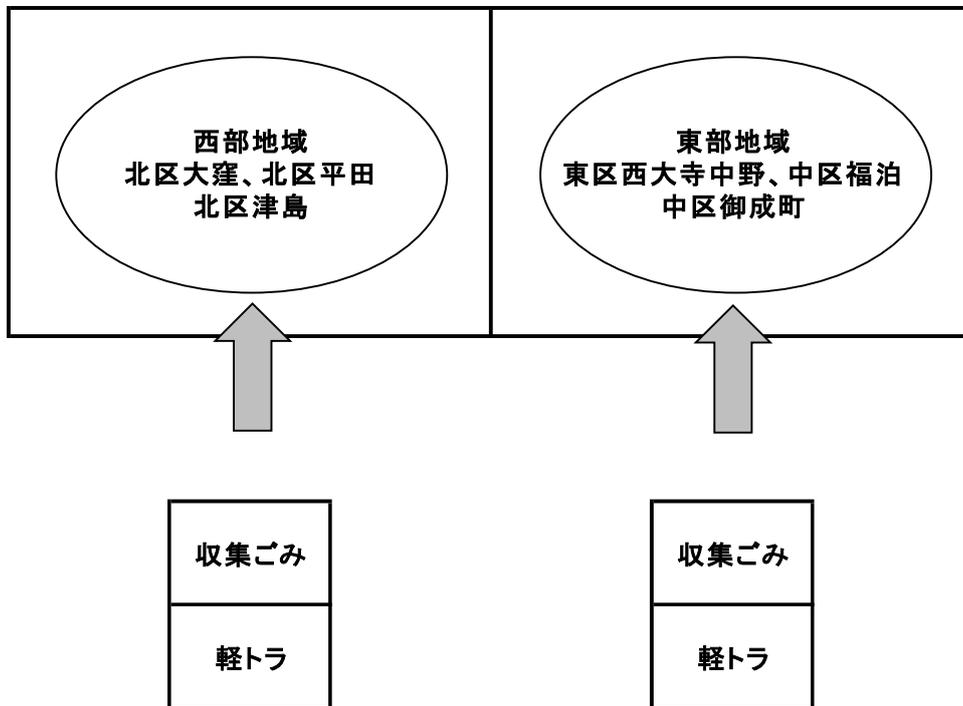


図1-3 調査検体の搬入場所

(2) 調査検体の縮分方法

一般的に調査検体の縮分¹⁾を行う場合、一旦ごみ袋からごみを出し、全てのごみを混合攪拌した後に四分法²⁾により、縮分したごみを組成調査する方法を採用するが、本調査においてこれを採用した場合、汚れの状況確認が困難となるため採用しなかった。

そこで本調査では、ごみ袋1袋あたりに何kgのごみが入っているのかを確認する目的と併せて、「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」については、図 1-4 に示すような方法で、「プラスチック資源」については図 1-5 に示すような方法でそれぞれ縮分を行った。

まず、浅越スポーツパーク（旧浅越最終処分場計量所跡地）へ搬入した可燃ごみ袋及び不燃ごみ袋（150～200kg 程度回収したもの）を、地区ごとに大袋（450袋）、中袋（300袋）、小袋（200袋）、特小袋（100袋）、超特小袋（50袋）の5種類に分類し、それぞれ一列に並べる。その後、すべての種類の袋について奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区分言い、各地区で約70kg程度になるようにした後（第2次抽出）、それらを合計した約210kgを最終調査検体とした。

なお、「プラスチック資源」については地区ごとに収集袋を一列に並べ、奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区行い、各地区で約10kg程度になるようにした後（第2次抽出）、それらを合計した約30kgを最終調査検体とした。本方法を採用することにより、収集地域の偏りを極力少なくしている。

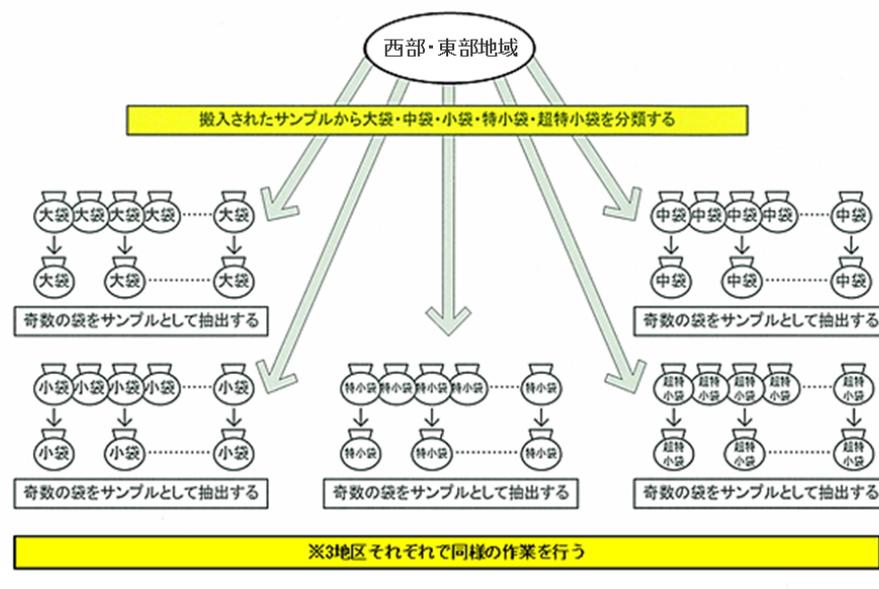


図1-4 「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」の縮分方法のイメージ

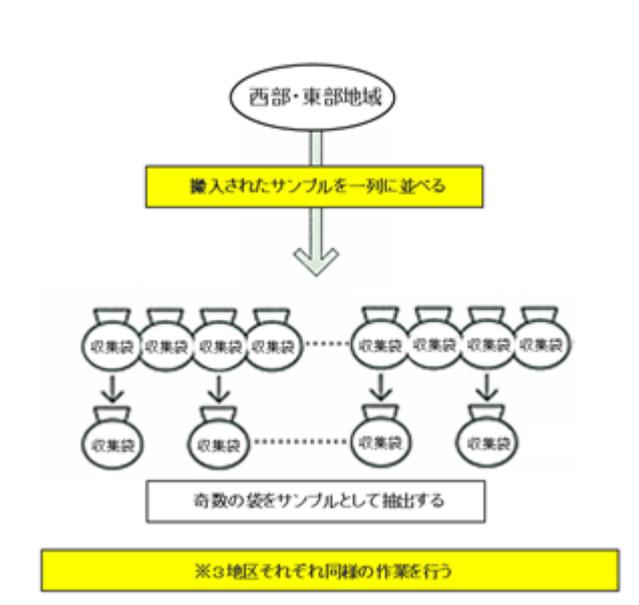


図1-5 「プラスチック資源」の縮分方法のイメージ

(3) 事前計量作業

前述した第1次抽出段階で抽出した全てのごみ袋を1袋ずつ計量し、見掛け比重³⁾やごみ袋1袋当たりの投入状況の確認を行った。

(4) 組成調査作業

本調査では、次項に示す組成調査の項目を分類し、それぞれ重量の計量と容積の確認を実施した。

-
- 1) 縮分：多量のサンプルから全体を代表するサンプルを抽出することを示す。
 - 2) 四分法：対象となるサンプルを十分に混合した後、4等分して対角を1組として、一方を残し、一方を捨てる操作を繰り返すことにより、均一にサンプルを抽出する方法を示す。
 - 3) 見掛け比重：空間部分を含んだ状態の1m³当たりの物質の重量を示す。

4 組成調査項目

今回実施した組成調査の項目を表 1-2 に示す。

表1-2 組成調査項目（1）

	大分類	中分類	小分類	具体例
1	可燃物類 (紙類)	飲料用紙パック (アルミ不使用)	飲料用紙パック (アルミ不使用) 500ml以上	
2			飲料用紙パック (アルミ不使用) 500ml未満	
3		ダンボール	ダンボール	
4		新聞紙・チラシ	新聞紙	きれいな新聞紙
5			再利用した新聞紙	水分等を含んだ新聞紙
6			チラシ	きれいなチラシ
7			再利用したチラシ	水分等を含んだチラシ
8		書籍・雑誌類	書籍・雑誌類	教科書・カタログ
9		雑紙	紙箱類	キャラメルの箱・紙袋
10			紙包装類	包装紙
11			OA用紙	OA用紙
12			シュレッダーくず	シュレッダーくず
13			その他の雑紙	ダイレクトメール・手紙・はがき 等
14		リサイクルできない紙	紙おむつ以外	飲料パック (アルミ使用)・汚れた 紙・紙コップ・紙皿・感熱紙・テ ィッシュペーパー・アルミはく・ 石鹼の箱
15			紙おむつ	
16	可燃物類 (厨芥類)	食品類	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
17			食べ残し	調理後の食べ残し
18			調理くず	可食部分 使い残した食材など
19		不可食部分 魚の骨、卵の殻など		
20	食品以外	食品以外の厨芥類	ティーバッグ等	
21	可燃物類 (布類)	リサイクル可能	リサイクルできる布類	Tシャツ・タオル・和服・下着・ シーツ
22		リサイクル不可	リサイクルできない布類	汚れた布類・小物・わた入りのも の・毛糸
23	可燃物類 (木・竹・ わら類)	剪定枝	剪定枝	
24		草	草	
25		その他	その他の木・竹・わら・花	木材・割り箸・鉛筆・わら
26	可燃物類 (ゴム・皮 革類)	ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	ゴム手袋・皮製の鞆・皮靴

表1-2 組成調査項目（2）

	大分類	中分類	小分類	具体例
27	可燃物類 (プラスチック類)	医療系	在宅医療廃棄物	ビニールバッグ類・チューブ・カテーテル類・注射筒等
28		ゴムを含むもの	ゴムを含むもの	合成樹脂製品・スリッパ・長靴など
29		有料指定袋 (収集袋)		
30		その他プラスチック類	分別回収対象外プラスチック類かつ 上記以外のプラスチック製品	プラスチック複合製品かつ可燃部分が全体の大部分を占めるもの (使い捨てライター・ボールペン (インクの残っているもの)・マジックなど)・ビデオテープ・カセットテープ
31	可燃物類 (その他)	その他可燃物	上記のもの以外	髪の毛・爪・皮膚・かいろう・保冷剤・乾燥剤など
32	不燃物類	金属類	スチール缶	飲料缶・菓子缶・缶詰缶
33			スプレー缶	
34			汚れたスチール缶	
35			アルミ缶	飲料缶
36			汚れたアルミ缶	
37			その他金属類	なべ・食用油缶・ペンキ缶
38		ガラス類	リターナブルびん	ビールびん・一升びん・牛乳びん・コーラびん
39			汚れたリターナブルびん	汚れのひどいもの
40			ワンウェイびん	調味料のびん・インスタントコーヒーのびん・ドリンク剤のびん
41			汚れたワンウェイびん	汚れのひどいもの
42			その他ガラス類	油びん・化粧品びん・汚れたびん・窓ガラス・耐熱ガラス・ガラスコップ
43		その他	陶磁器類	植木鉢・茶碗
44			小型家電製品※	延長コード類含む
45			複合素材	鏡
46			医療系	
47			乾電池	
48			ボタン電池	
49			リチウムイオン電池	充電式及びバッテリーなど
50	水銀入りの体温計・血圧計			
51	蛍光灯			
52	その他	その他不燃物	上記以外のもの	可燃物ではないもの

表1-2 組成調査項目（3）

	大分類	中分類	小分類	具体例	
53	プラスチック類 (分別回収対象)	レジ袋	リサイクルできるレジ袋	きれいな袋	
54			リサイクルできないレジ袋	汚れのひどい袋	
55		発泡トレイ	リサイクルできる発泡トレイ	食品用のきれいなもの	
56			リサイクルできない発泡トレイ	汚れのひどいもの	
57		発泡スチロール	リサイクルできる発泡スチロール	きれいなものかつ長さが50cm未満のもの	
58			リサイクルできない発泡スチロール	汚れのひどいもの、規格(長さが50cm未満)を満たしていないもの	
59		透明トレイ	リサイクルできる透明トレイ	食品用・透明卵パック・弁当がらなどで食べかす等除去されたきれいなもの	
60			リサイクルできない透明トレイ	汚れのひどいもの、規格(長さが50cm未満・厚みが5mm未満)を満たしていないもの	
61		その他のプラ製容器包装	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	シャンプー・洗剤・化粧品等容器・薬の容器・おかし・冷凍食品・インスタント食品等の袋・詰め替え用洗剤の袋などで中が洗われているきれいなもの	
62			その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	汚れのひどい容器等、規格(長さが50cm未満・厚みが5mm未満)を満たしていないもの	
63		容器包装以外のプラスチック類	リサイクルできるもの	プラモデル等のおもちゃ・除湿剤容器・脱臭剤の容器・CD・DVD・ストロー・スポンジ・バケツ・洗面器・クリアファイル・ハンガー・レジャーシートなど	
64			リサイクルできないもの	汚れのひどいもの、規格(長さが50cm未満・厚みが5mm未満)を満たしていないもの	
65		プラスチック類 (分別回収対象外)	ペットボトル	リサイクルできるペットボトル	飲料用・醤油用(きれいなもの)
66				リサイクルできないペットボトル	タバコ等が混入したもの ペットボトルのリサイクルマークがないもの
67	選別残渣	選別残渣	選別残渣	回収できないものなど	

※ 小型家電製品については、名称と個数を別途記録した。

家庭ごみ組成分析調査結果

第2章 家庭ごみ組成分析調査結果

第1節 地域的なごみ排出特性の把握

本節では、今回実施した家庭ごみの組成分析調査のサンプルの特徴を整理している。

なお、令和6年3月からの「プラスチック資源」分別回収の実施に伴い、本年度は昨年度までと分類の項目が異なっている箇所がある。そのため、経年比較を行うにあたり、一部の表及び図にて「可燃物類（ゴム・皮革類）」「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計を「プラスチック類・ゴム・皮革類」として示している。

1 可燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-1に示した。本市全域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(31.5%)、「厨芥類」(42.6%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(17.1%)の3種類であり、全体の約91.2%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(25.8%)、「厨芥類」では調理くず(不可食部分)(23.0%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(7.2%)の構成割合が高かった。

次に、本市全域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(36.8%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(49.6%)の2種類であり、全体の約86.4%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(22.0%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(15.6%)の構成割合が高かった。

図2-1に重量比と容積比の比較を示した。重量比では「厨芥類」の構成割合が高く、容積比では「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成割合が高いという傾向は、過去の調査結果と同様であった。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-2、図2-2～3に示した。本年度の調査結果は、重量比においては、「厨芥類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「布類」、「不燃物類」の構成比が減少していた。容積比においては、「紙類」、「厨芥類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」「布類」の構成比が減少していた。

表2-1 組成分析調査結果 1 (本市全域：可燃ごみ)

項目	全域 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	132.25	1.704	31.54	36.77	0.078
飲料用パック (アルミ不使用)	-	2.82	0.114	0.67	2.47	0.025
500ml 以上	1	2.55	0.105	0.61	2.27	0.024
500ml 未満	2	0.27	0.009	0.06	0.20	0.028
ダンボール	3	2.47	0.071	0.59	1.52	0.035
新聞紙・チラシ	-	7.18	0.163	1.71	3.52	0.044
新聞紙	4	0.46	0.005	0.11	0.11	0.092
再利用した新聞紙	5	5.00	0.113	1.19	2.44	0.044
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	1.73	0.045	0.41	0.97	0.038
書籍・雑誌類	8	0.22	0.002	0.05	0.04	0.130
雑紙	-	11.46	0.335	2.73	7.22	0.034
紙箱類	9	9.78	0.320	2.33	6.91	0.031
紙包装類	10	0.04	0.004	0.01	0.08	0.013
OA用紙	11	1.03	0.007	0.25	0.14	0.159
シュレッダーくず	12	0.02	0.0004	0.00	0.01	0.043
その他の雑紙	13	0.59	0.004	0.14	0.09	0.144
リサイクルできない紙	-	108.11	1.020	25.78	22.01	0.106
紙おむつ以外	14	74.45	0.830	17.75	17.91	0.090
紙おむつ	15	33.66	0.190	8.03	4.10	0.177
可燃物類(厨芥類)	-	178.77	0.392	42.63	8.46	0.456
食品類	-	168.90	0.367	40.28	7.92	0.460
手付かずの食品	16	22.28	0.076	5.31	1.64	0.293
食べ残し	17	35.06	0.039	8.36	0.84	0.899
調理くず (可食部分)	18	15.02	0.042	3.58	0.91	0.358
調理くず (不可食部分)	19	96.55	0.210	23.02	4.53	0.460
食品以外	20	9.87	0.025	2.35	0.54	0.395
可燃物類(布類)	-	12.06	0.092	2.88	1.98	0.132
リサイクル可能	21	0.94	0.007	0.22	0.14	0.143
リサイクル不可	22	11.12	0.085	2.65	1.83	0.131
可燃物類(木・竹・わら類)	-	7.54	0.085	1.80	1.84	0.088
剪定枝	23					
草	24	1.55	0.013	0.37	0.28	0.117
その他	25	5.99	0.072	1.43	1.55	0.083
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.01	0.010	0.24	0.21	0.103
可燃物類(プラスチック類)	-	6.21	0.185	1.48	3.99	0.034
医療系	27	0.11	0.004	0.03	0.09	0.027
ゴムを含むもの	28	2.06	0.020	0.49	0.43	0.102
有料指定袋	29	3.93	0.160	0.94	3.45	0.025
その他プラスチック類	30	0.12	0.001	0.03	0.02	0.149
可燃物類(その他)	31	13.32	0.047	3.18	1.01	0.283

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-1 組成分析調査結果2（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	3.25	0.014	0.77	0.31	0.224
金属類	-	0.63	0.006	0.15	0.12	0.111
スチール缶	32	0.03	0.0002	0.01	0.00	0.125
スプレー缶	33					
汚れたスチール缶	34	0.22	0.002	0.05	0.04	0.120
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36	0.09	0.002	0.02	0.03	0.058
その他金属類	37	0.30	0.002	0.07	0.05	0.141
ガラス類	-	1.35	0.003	0.32	0.07	0.400
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	0.49	0.001	0.12	0.02	0.427
汚れたワンウェイびん	41	0.79	0.002	0.19	0.04	0.390
その他ガラス類	42	0.07	0.0002	0.02	0.00	0.350
その他	-	1.26	0.005	0.30	0.12	0.234
陶磁器類	43	0.05	0.000	0.01	0.00	1.000
小型家電製品	44	0.54	0.004	0.13	0.08	0.143
複合素材	45	0.48	0.001	0.11	0.03	0.388
医療系	46					
乾電池	47	0.17	0.0003	0.04	0.01	0.567
ボタン電池	48	0.02	0.00001	0.01	0.00	1.909
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52	0.36	0.001	0.09	0.03	0.257
プラスチック類(分別回収対象)	-	61.91	2.021	14.76	43.61	0.031
レジ袋	-	4.43	0.172	1.06	3.70	0.026
リサイクルできるレジ袋	53	0.12	0.012	0.03	0.25	0.010
リサイクルできないレジ袋	54	4.32	0.160	1.03	3.45	0.027
発泡トレイ	-	1.81	0.289	0.43	6.24	0.006
リサイクルできる発泡トレイ	55	0.05	0.009	0.01	0.19	0.006
リサイクルできない発泡トレイ	56	1.76	0.280	0.42	6.04	0.006
発泡スチロール	-	0.05	0.005	0.01	0.10	0.010
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.00	0.000	0.00	0.01	0.010
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.04	0.004	0.01	0.09	0.010
透明トレイ	-	3.61	0.282	0.86	6.08	0.013
リサイクルできる透明トレイ	59	0.07	0.007	0.02	0.14	0.010
リサイクルできない透明トレイ	60	3.54	0.275	0.84	5.93	0.013
その他のプラ製容器包装	-	21.95	0.724	5.23	15.62	0.030
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	0.63	0.044	0.15	0.95	0.014
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	21.32	0.680	5.08	14.67	0.031
容器包装以外のプラスチック類	-	30.07	0.550	7.17	11.87	0.055
リサイクルできるもの	63	2.06	0.080	0.49	1.73	0.026
リサイクルできないもの	64	28.02	0.470	6.68	10.14	0.060
プラスチック類(分別回収対象外)	-	2.64	0.083	0.63	1.78	0.032
ペットボトル	-	2.64	0.083	0.63	1.78	0.032
リサイクルできるペットボトル	65	0.88	0.024	0.21	0.52	0.036
リサイクルできないペットボトル	66	1.76	0.059	0.42	1.26	0.030
選別残渣	67	0.06	0.0001	0.01	0.00	0.550
総合計		419.36	4.634	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

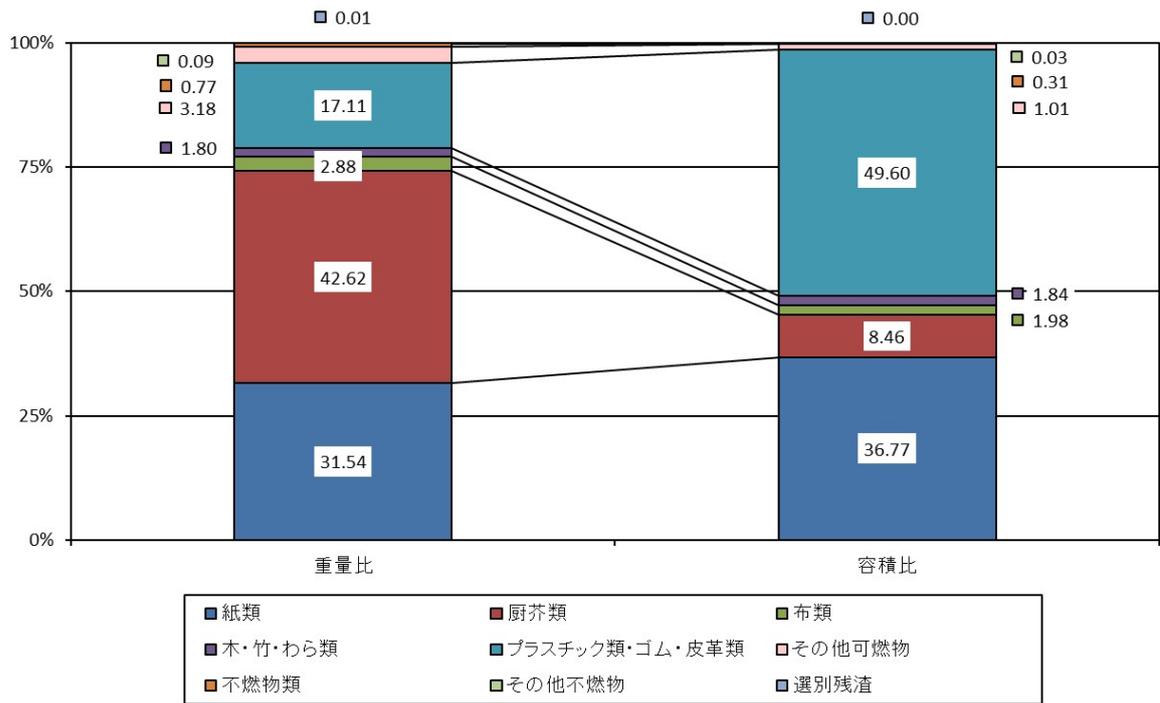


図2-1 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較 (本市全域：可燃ごみ)

表2-2 大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域-可燃ごみ(重量比)(%)					全域-可燃ごみ(容積比)(%)				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
紙類	28.76	32.28	30.91	32.46	31.54	27.81	26.50	33.79	31.41	36.77
厨芥類	36.59	33.67	34.92	32.57	42.62	7.85	6.41	6.40	6.13	8.46
布類	5.25	4.05	6.30	5.89	2.88	3.51	2.60	4.04	4.62	1.98
木・竹・わら類	1.67	3.46	2.18	1.60	1.80	1.39	3.49	1.79	1.25	1.84
プラスチック類・ゴム・皮革類	24.36	22.20	20.66	22.18	17.11	57.06	59.05	52.44	54.68	49.60
その他可燃物	1.66	0.41	1.14	2.87	3.18	1.14	0.22	0.42	0.88	1.01
不燃物類	1.14	1.07	0.52	1.87	0.77	0.70	1.02	0.14	0.95	0.31
その他不燃物	0.48	0.00	0.00	0.55	0.09	0.52	0.00	0.00	0.08	0.03
選別残渣	0.09	2.86	3.37	0.01	0.01	0.02	0.71	0.98	0.00	0.00
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

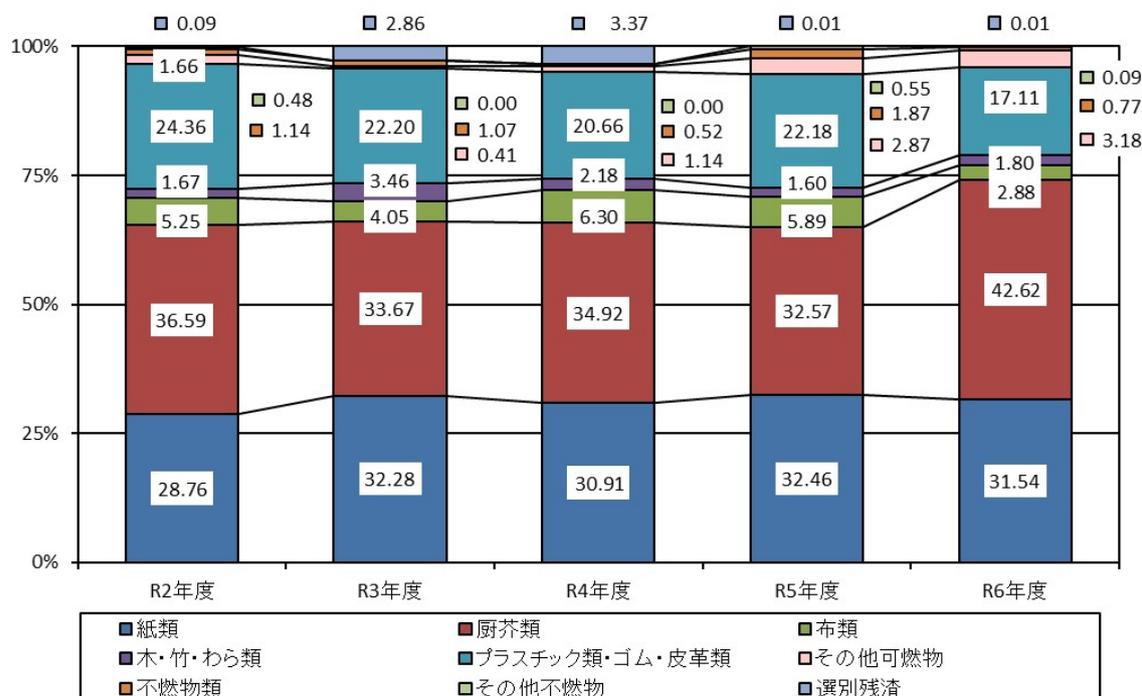


図2-2 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

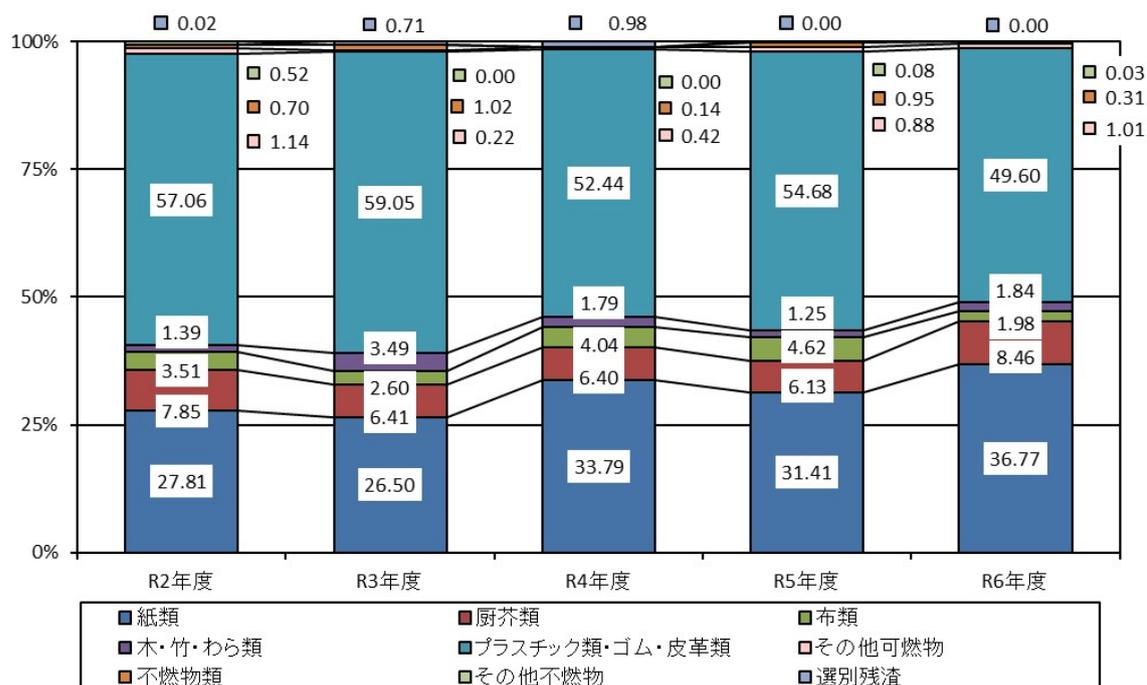


図2-3 容積比の大分類組成分析調査結果の比較 (本市全域：可燃ごみ)

(2) 西部地域

今回実施した西部地域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-3 に示した。西部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(31.6%)、「厨芥類」(41.4%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(18.9%) の 3 種類であり、全体の約 91.9%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙 (26.1%)、「厨芥類」では調理くず (不可食部分) (24.0%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類 (8.0%) の構成割合が高かった。

次に、西部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(36.3%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(49.7%) の 2 種類であり、全体の約 86.0%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙 (23.7%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装 (16.3%) の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図 2-4 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-4、図 2-5～6 に示した。本年度の調査結果は、重量比においては、「紙類」、「厨芥類」の構成比が増加し、「布類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。容積比においても「紙類」、「厨芥類」の構成比が増加し、「布類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-3 組成分析調査結果 1 (西部地域：可燃ごみ)

項目	西部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	66.44	0.844	31.62	36.28	0.079
飲料用パック (アルミ不使用)	-	1.20	0.045	0.57	1.94	0.026
500ml 以上	1	1.06	0.040	0.50	1.72	0.026
500ml 未満	2	0.14	0.005	0.07	0.22	0.027
ダンボール	3	1.29	0.028	0.61	1.20	0.046
新聞紙・チラシ	-	2.47	0.050	1.18	2.15	0.049
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	1.47	0.031	0.70	1.33	0.047
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	1.00	0.019	0.48	0.82	0.053
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	6.72	0.171	3.20	7.33	0.039
紙箱類	9	5.32	0.160	2.53	6.88	0.033
紙包装類	10	0.03	0.003	0.01	0.13	0.009
OA用紙	11	0.92	0.005	0.44	0.19	0.204
シュレッターくず	12					
その他の雑紙	13	0.46	0.003	0.22	0.13	0.154
リサイクルできない紙	-	54.77	0.550	26.06	23.65	0.100
紙おむつ以外	14	40.69	0.465	19.37	20.00	0.088
紙おむつ	15	14.08	0.085	6.70	3.66	0.166
可燃物類(厨芥類)	-	86.91	0.186	41.36	8.00	0.467
食品類	-	82.17	0.175	39.11	7.53	0.470
手付かずの食品	16	7.96	0.026	3.79	1.12	0.306
食べ残し	17	17.50	0.020	8.33	0.86	0.875
調理くず (可食部分)	18	6.25	0.019	2.97	0.82	0.329
調理くず (不可食部分)	19	50.47	0.110	24.02	4.73	0.459
食品以外	20	4.74	0.011	2.25	0.47	0.430
可燃物類(布類)	-	6.73	0.067	3.20	2.86	0.101
リサイクル可能	21	0.81	0.006	0.38	0.24	0.144
リサイクル不可	22	5.92	0.061	2.82	2.62	0.097
可燃物類(木・竹・わら類)	-	4.12	0.047	1.96	2.03	0.087
剪定枝	23					
草	24	0.49	0.003	0.23	0.14	0.153
その他	25	3.63	0.044	1.73	1.89	0.082
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.78	0.008	0.37	0.36	0.093
可燃物類(プラスチック類)	-	2.75	0.098	1.31	4.23	0.028
医療系	27	0.11	0.004	0.05	0.17	0.027
ゴムを含むもの	28	0.41	0.004	0.20	0.18	0.100
有料指定袋	29	2.20	0.090	1.04	3.87	0.024
その他プラスチック類	30	0.04	0.000	0.02	0.01	0.210
可燃物類(その他)	31	4.93	0.022	2.34	0.95	0.224

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-3 組成分析調査結果2（西部地域：可燃ごみ）

項目	西部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	1.01	0.004	0.48	0.17	0.249
金属類	-	0.23	0.002	0.11	0.10	0.101
スチール缶	32	0.03	0.0002	0.01	0.01	0.125
スプレー缶	33					
汚れたスチール缶	34	0.06	0.001	0.03	0.03	0.105
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36	0.02	0.0003	0.01	0.01	0.050
その他金属類	37	0.13	0.001	0.06	0.05	0.108
ガラス類	-	0.12	0.0003	0.06	0.01	0.484
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	0.11	0.0002	0.05	0.01	0.700
汚れたワンウェイびん	41					
その他ガラス類	42	0.02	0.0001	0.01	0.00	0.160
その他	-	0.66	0.002	0.31	0.06	0.437
陶磁器類	43	0.05	0.0001	0.02	0.00	1.000
小型家電製品	44	0.33	0.001	0.16	0.03	0.415
複合素材	45	0.19	0.001	0.09	0.02	0.378
医療系	46					
乾電池	47	0.08	0.0002	0.04	0.01	0.560
ボタン電池	48	0.00	0.0000	0.00	0.00	1.000
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52	0.36	0.001	0.17	0.06	0.257
プラスチック類(分別回収対象)	-	34.91	1.014	16.61	43.62	0.034
レジ袋	-	2.40	0.087	1.14	3.72	0.028
リサイクルできるレジ袋	53	0.02	0.002	0.01	0.06	0.016
リサイクルできないレジ袋	54	2.38	0.085	1.13	3.66	0.028
発泡トレイ	-	0.96	0.140	0.46	6.02	0.007
リサイクルできる発泡トレイ	55	0.03	0.005	0.01	0.22	0.006
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.93	0.135	0.44	5.81	0.007
発泡スチロール	-	0.02	0.001	0.01	0.03	0.023
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.00	0.0004	0.00	0.02	0.010
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.01	0.0003	0.01	0.01	0.040
透明トレイ	-	2.34	0.170	1.11	7.30	0.014
リサイクルできる透明トレイ	59	0.05	0.005	0.02	0.20	0.011
リサイクルできない透明トレイ	60	2.29	0.165	1.09	7.10	0.014
その他のプラ製容器包装	-	12.37	0.379	5.89	16.30	0.033
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	0.23	0.019	0.11	0.82	0.012
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	12.14	0.360	5.78	15.48	0.034
容器包装以外のプラスチック類	-	16.83	0.239	8.01	10.26	0.071
リサイクルできるもの	63	1.44	0.225	0.69	9.68	0.006
リサイクルできないもの	64	15.39	0.014	7.32	0.58	1.140
プラスチック類(分別回収対象外)	-	1.18	0.034	0.56	1.44	0.035
ペットボトル	-	1.18	0.034	0.56	1.44	0.035
リサイクルできるペットボトル	65	0.55	0.014	0.26	0.58	0.040
リサイクルできないペットボトル	66	0.64	0.020	0.30	0.86	0.032
選別残渣	67					
総合計		210.11	2.326	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

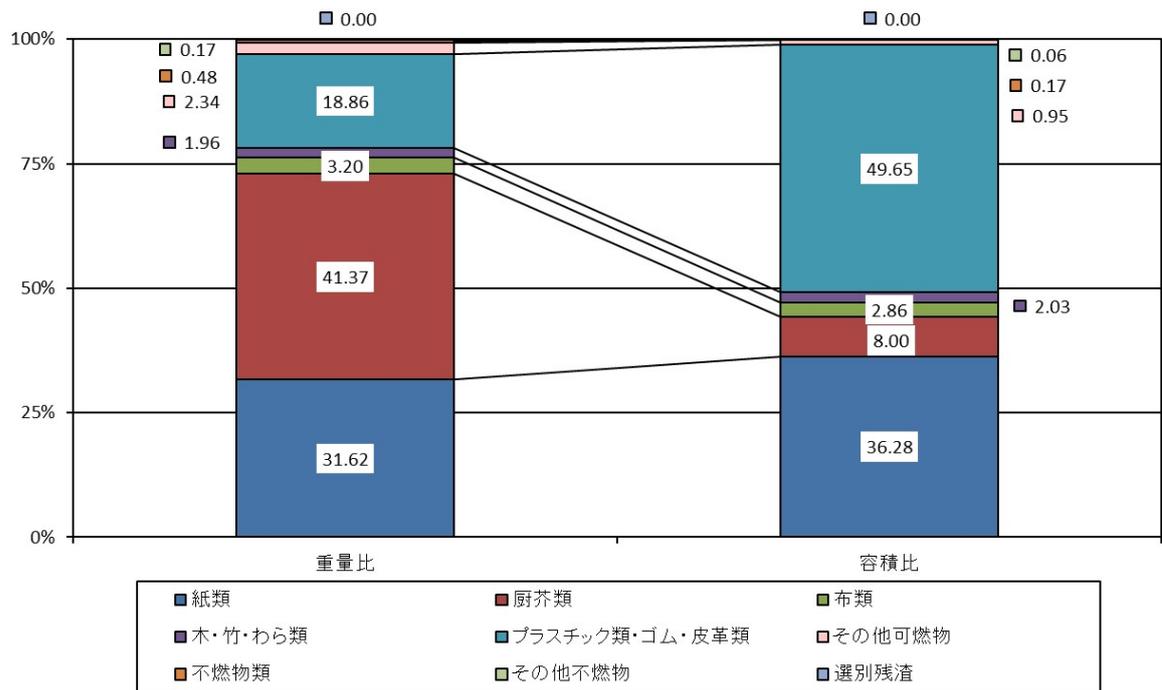


図2-4 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：可燃ごみ）

表 2-4 大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

項目	西部-可燃ごみ(重量比)(%)					西部-可燃ごみ(容積比)(%)				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
紙類	29.14	29.71	31.70	29.26	31.62	27.51	25.11	32.20	29.56	36.28
厨芥類	35.46	34.44	33.18	33.11	41.37	6.58	6.04	6.41	6.39	8.00
布類	3.38	3.90	7.09	7.86	3.20	2.44	2.68	3.94	4.97	2.86
木・竹・わら類	1.62	4.08	2.10	1.31	1.96	1.42	4.38	1.38	1.02	2.03
プラスチック類・ゴム・皮革類	27.06	24.36	19.02	24.12	18.86	60.16	60.12	53.88	57.07	49.65
その他可燃物	2.36	0.45	1.25	1.91	2.34	1.53	0.17	0.46	0.54	0.95
不燃物類	0.90	0.88	0.43	1.32	0.48	0.35	0.78	0.19	0.30	0.17
その他不燃物	0.02	0.00	0.00	1.09	0.17	0.00	0.00	0.00	0.15	0.06
選別残渣	0.06	2.18	5.23	0.02	0.00	0.01	0.72	1.54	0.01	0.00
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

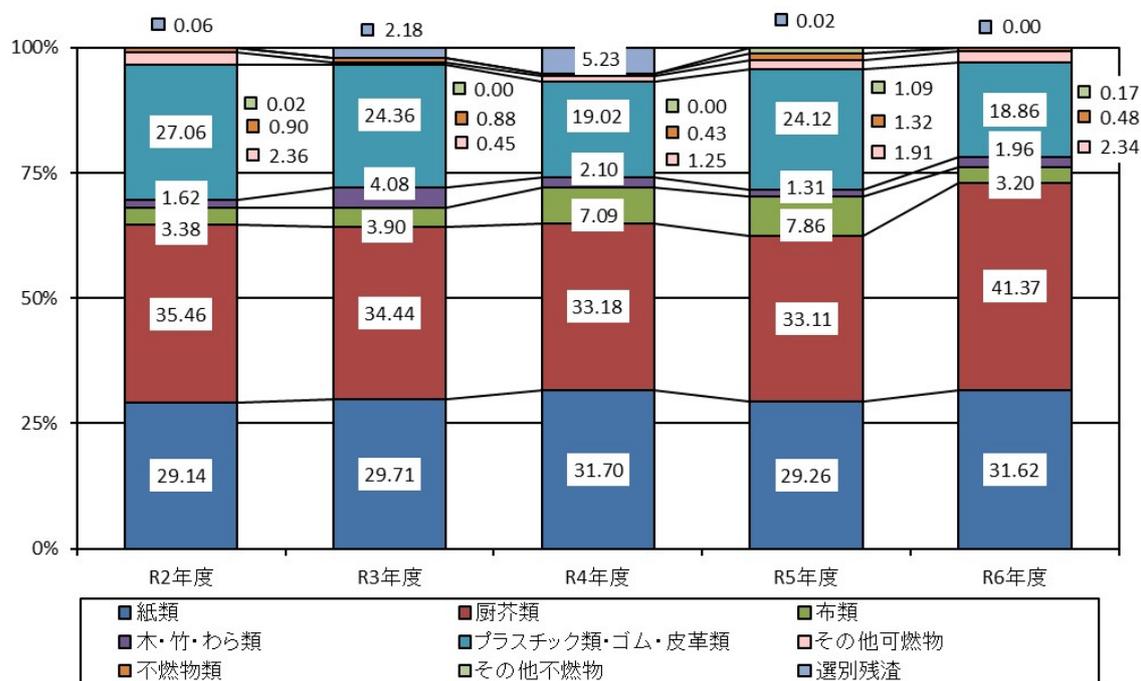


図2-5 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

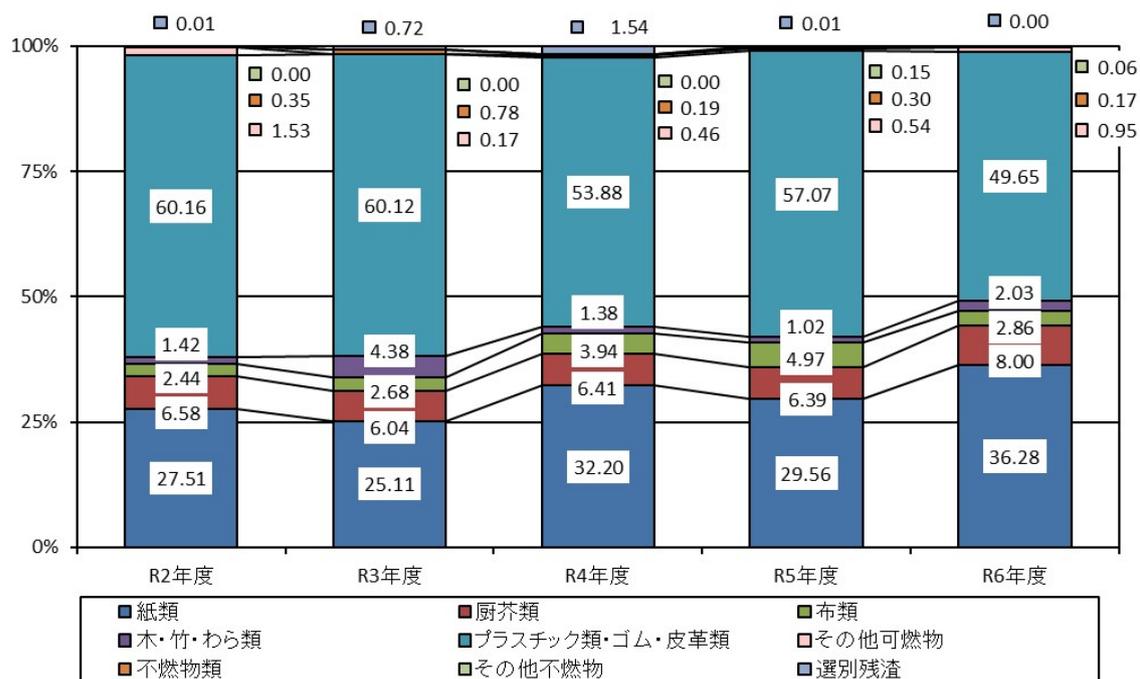


図2-6 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

（3）東部地域

今回実施した東部地域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-5 に示した。東部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（31.5%）、「厨芥類」（43.9%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（15.4%）の 3 種類であり、全体の約 90.8%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙（25.5%）、「厨芥類」では調理くず（不可食部分）（22.0%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類（6.3%）の構成割合が高かった。

次に、東部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（38.0%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（48.5%）の 2 種類であり、全体の約 86.5%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙（20.8%）が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装（15.3%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図 2-7 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-6 及び図 2-8～9 に示した。本年度の調査結果は、重量比においては「厨芥類」の構成比が増加し、「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。容積比においては「紙類」、「厨芥類」の構成比が増加し、「布類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表 2-5 組成分析調査結果 1 (東部地域：可燃ごみ)

項目	東部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	65.81	0.861	31.45	38.04	0.076
飲料用パック (アルミ不使用)	-	1.62	0.069	0.77	3.06	0.023
500ml 以上	1	1.50	0.065	0.71	2.87	0.023
500ml 未満	2	0.13	0.004	0.06	0.19	0.030
ダンボール	3	1.18	0.043	0.56	1.88	0.028
新聞紙・チラシ	-	4.71	0.113	2.25	5.00	0.042
新聞紙	4	0.46	0.005	0.22	0.22	0.092
再利用した新聞紙	5	3.53	0.082	1.68	3.62	0.043
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.73	0.026	0.35	1.15	0.028
書籍・雑誌類	8	0.22	0.002	0.11	0.08	0.130
雑紙	-	4.74	0.164	2.26	7.25	0.029
紙箱類	9	4.46	0.160	2.13	7.07	0.028
紙包装類	10	0.02	0.001	0.01	0.02	0.032
OA用紙	11	0.11	0.002	0.05	0.09	0.056
シュレッダーくず	12	0.02	0.000	0.01	0.02	0.043
その他の雑紙	13	0.13	0.001	0.06	0.05	0.118
リサイクルできない紙	-	53.35	0.470	25.49	20.78	0.114
紙おむつ以外	14	33.76	0.365	16.13	16.14	0.092
紙おむつ	15	19.59	0.105	9.36	4.64	0.187
可燃物類(厨芥類)	-	91.86	0.206	43.90	9.11	0.446
食品類	-	86.73	0.192	41.45	8.49	0.452
手付かずの食品	16	14.33	0.050	6.85	2.21	0.287
食べ残し	17	17.56	0.019	8.39	0.84	0.924
調理くず (可食部分)	18	8.77	0.023	4.19	1.02	0.381
調理くず (不可食部分)	19	46.08	0.100	22.02	4.42	0.461
食品以外	20	5.13	0.014	2.45	0.62	0.366
可燃物類(布類)	-	5.34	0.025	2.55	1.11	0.213
リサイクル可能	21	0.14	0.001	0.07	0.04	0.137
リサイクル不可	22	5.20	0.024	2.49	1.06	0.217
可燃物類(木・竹・わら類)	-	3.43	0.038	1.64	1.68	0.090
剪定枝	23					
草	24	1.06	0.010	0.51	0.44	0.106
その他	25	2.37	0.028	1.13	1.24	0.084
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.23	0.001	0.11	0.06	0.165
可燃物類(プラスチック類)	-	3.45	0.087	1.65	3.83	0.040
医療系	27					
ゴムを含むもの	28	1.65	0.016	0.79	0.71	0.103
有料指定袋	29	1.73	0.070	0.83	3.09	0.025
その他プラスチック類	30	0.08	0.001	0.04	0.03	0.128
可燃物類(その他)	31	8.39	0.025	4.01	1.11	0.336

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-5 組成分析調査結果2（東部地域：可燃ごみ）

項目	東部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	2.24	0.010	1.07	0.46	0.214
金属類	-	0.40	0.003	0.19	0.15	0.117
スチール缶	32					
スプレー缶	33					
汚れたスチール缶	34	0.15	0.001	0.07	0.05	0.128
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36	0.08	0.001	0.04	0.06	0.060
その他金属類	37	0.17	0.001	0.08	0.04	0.186
ガラス類	-	1.23	0.003	0.59	0.138	0.393
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	0.39	0.001	0.18	0.04	0.386
汚れたワンウェイびん	41	0.79	0.002	0.38	0.09	0.390
その他ガラス類	42	0.05	0.0001	0.03	0.00	0.540
その他	-	0.61	0.004	0.29	0.17	0.156
陶磁器類	43					
小型家電製品	44	0.21	0.003	0.10	0.13	0.070
複合素材	45	0.29	0.001	0.14	0.03	0.395
医療系	46					
乾電池	47	0.09	0.0002	0.04	0.01	0.573
ボタン電池	48	0.02	0.00001	0.01	0.00	2.000
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52					
プラスチック類(分別回収対象)	-	27.00	0.960	12.91	42.43	0.028
レジ袋	-	2.03	0.085	0.97	3.76	0.024
リサイクルできるレジ袋	53	0.09	0.010	0.04	0.44	0.009
リサイクルできないレジ袋	54	1.94	0.075	0.93	3.32	0.026
発泡トレイ	-	0.85	0.149	0.40	6.59	0.006
リサイクルできる発泡トレイ	55	0.02	0.004	0.01	0.18	0.006
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.83	0.145	0.39	6.41	0.006
発泡スチロール	-	0.03	0.004	0.02	0.17	0.008
リサイクルできる発泡スチロール	57					
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.03	0.004	0.02	0.17	0.008
透明トレイ	-	1.27	0.112	0.61	4.95	0.011
リサイクルできる透明トレイ	59	0.02	0.002	0.01	0.09	0.009
リサイクルできない透明トレイ	60	1.25	0.110	0.60	4.86	0.011
その他のプラ製容器包装	-	9.58	0.345	4.58	15.25	0.028
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	0.40	0.025	0.19	1.11	0.016
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	9.18	0.320	4.39	14.15	0.029
容器包装以外のプラスチック類	-	13.25	0.265	6.33	11.71	0.050
リサイクルできるもの	63	0.62	0.020	0.29	0.88	0.031
リサイクルできないもの	64	12.63	0.245	6.04	10.83	0.052
プラスチック類(分別回収対象外)	-	1.46	0.049	0.70	2.17	0.030
ペットボトル	-	1.46	0.049	0.70	2.17	0.030
リサイクルできるペットボトル	65	0.34	0.011	0.16	0.47	0.031
リサイクルできないペットボトル	66	1.12	0.039	0.54	1.70	0.029
選別残渣	67	0.06	0.0001	0.03	0.004	0.550
総合計		209.25	2.262	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

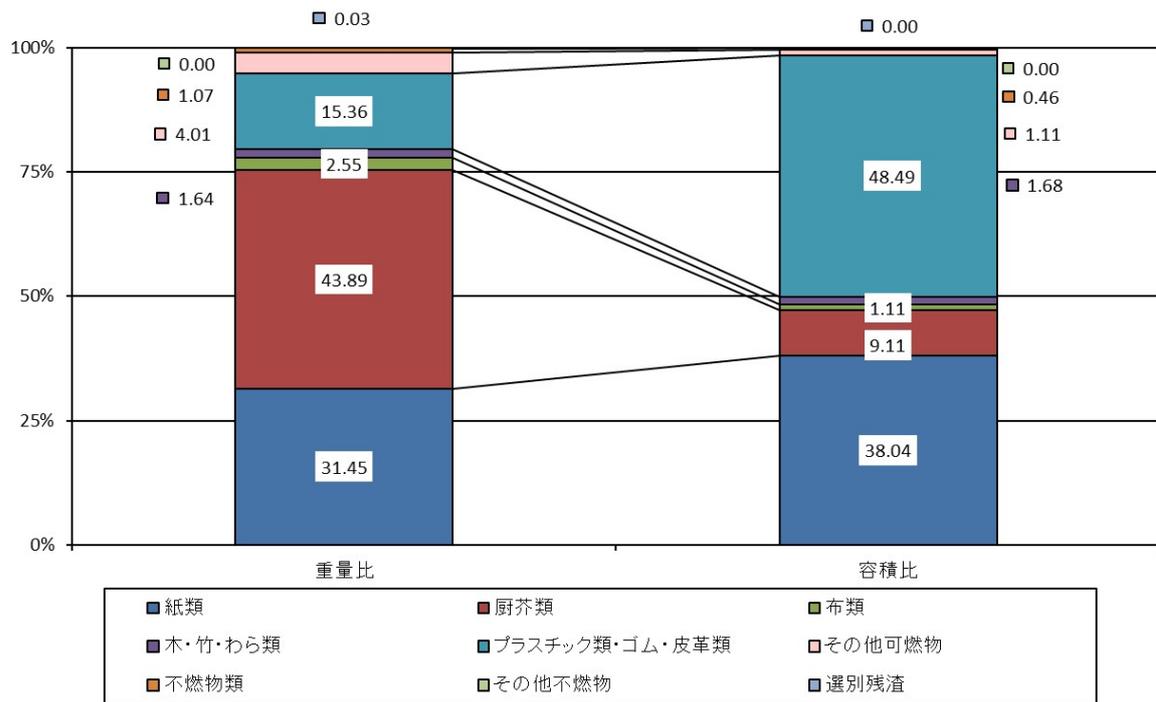


図2-7 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：可燃ごみ）

表2-6 大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

項目	東部-可燃ごみ(重量比)(%)					東部-可燃ごみ(容積比)(%)				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
紙類	28.37	34.87	30.01	35.64	31.45	28.18	28.11	35.63	33.40	38.04
厨芥類	37.77	32.89	36.92	32.03	43.89	9.49	6.83	6.39	5.84	9.11
布類	7.17	4.21	5.40	3.93	2.55	4.89	2.50	4.16	4.24	1.11
木・竹・わら類	1.71	2.83	2.26	1.88	1.64	1.35	2.46	2.27	1.50	1.68
プラスチック類・ゴム・皮革類	21.58	20.03	22.53	20.24	15.36	53.08	57.82	50.76	52.11	48.49
その他可燃物	0.94	0.37	1.01	3.83	4.01	0.63	0.28	0.38	1.24	1.11
不燃物類	1.38	1.25	0.62	2.43	1.07	1.15	1.30	0.09	1.66	0.46
その他不燃物	0.96	0.00	0.00	0.02	0.00	1.20	0.00	0.00	0.01	0.00
選別残渣	0.12	3.55	1.25	0.00	0.03	0.03	0.70	0.32	0.00	0.00
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

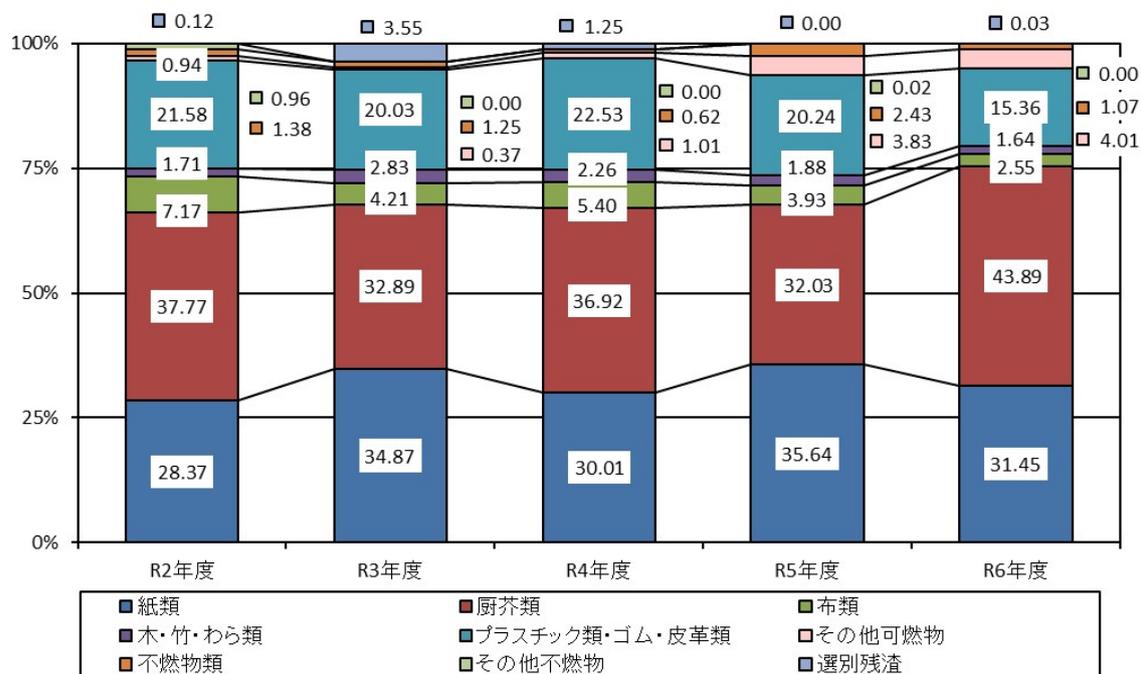


図2-8 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

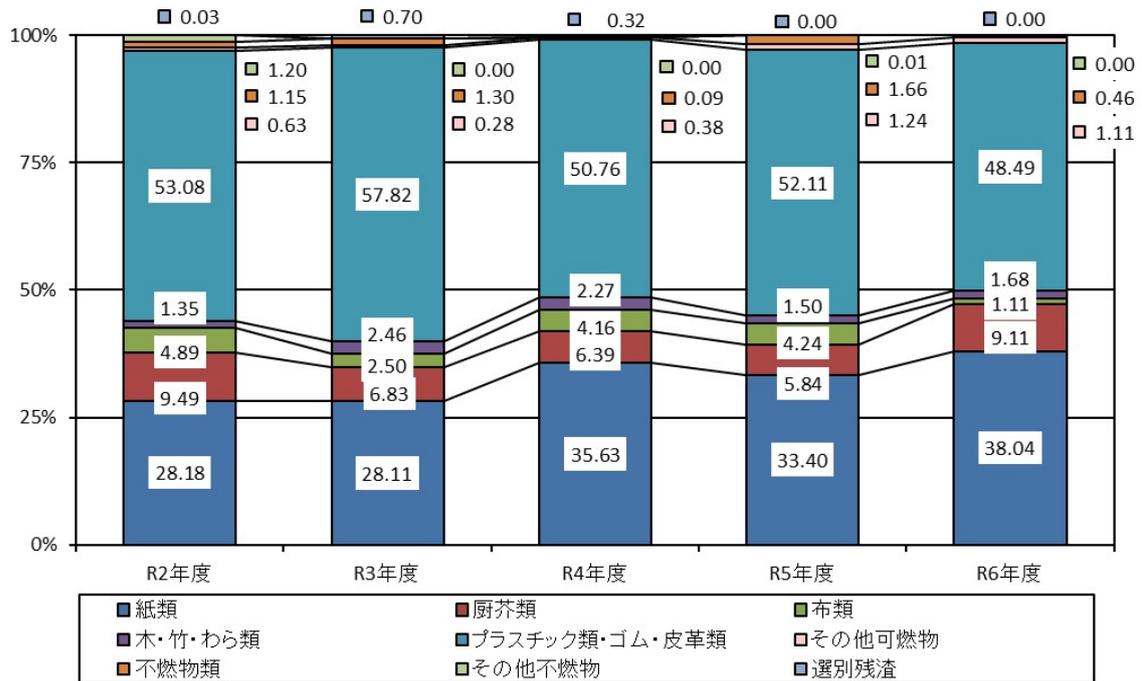


図2-9 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

（4）可燃ごみの排出特性の総括

令和2年度～令和6年度の本市全域（令和6年度分は西部地域・東部地域も掲載）の構成比を比較した結果を図2-10～11に示した。

今回の調査では、重量比では「厨芥類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「布類」、「不燃物類」の構成比が減少していた。また、容積比では「紙類」、「厨芥類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「布類」の構成比が減少していた。

図2-12に可燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、例年と比べ「厨芥類」が多い結果となった。

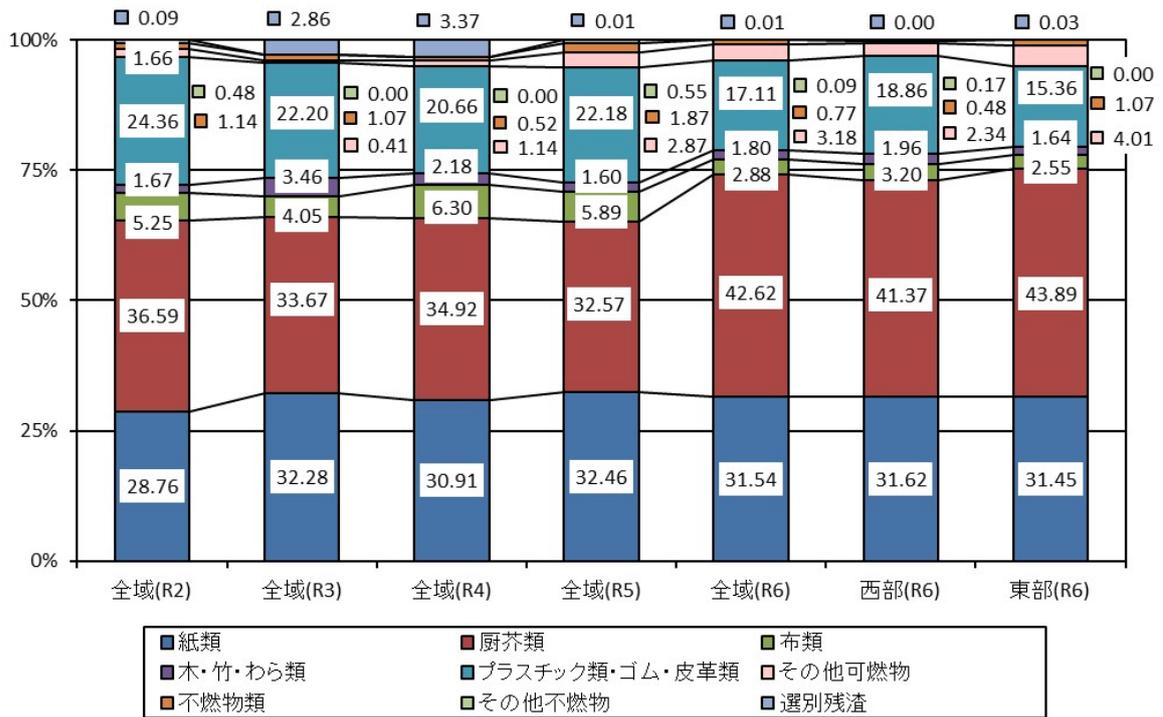


図2-10 大分類組成分析調査結果の比較 (重量比：可燃ごみ)

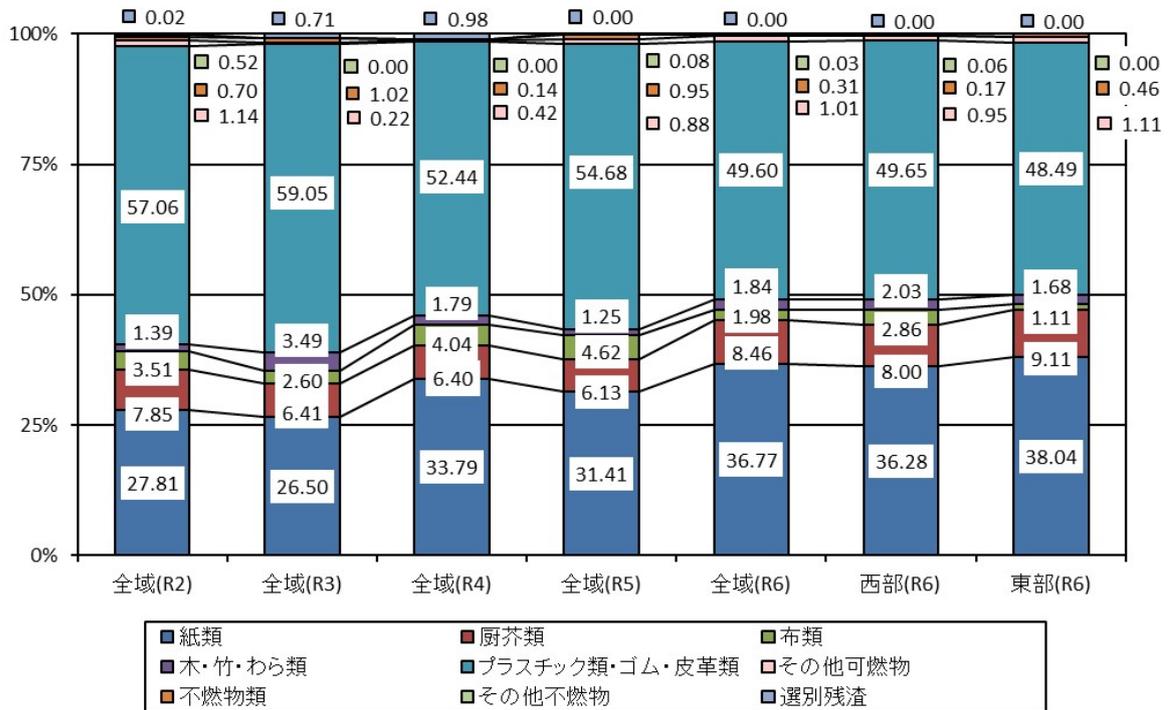


図2-11 大分類組成分析調査結果の比較 (容積比：可燃ごみ)

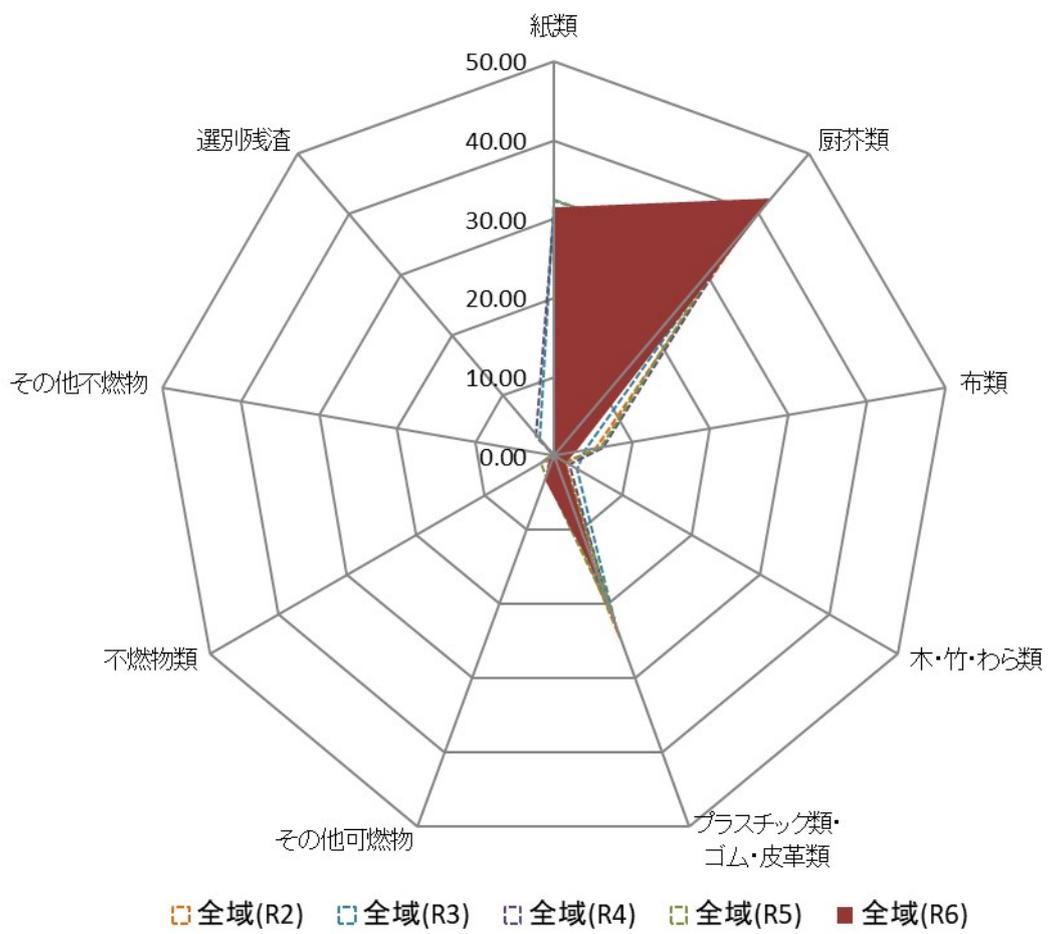


図2-12 可燃ごみの特性比較（重量比：全体図）

2 不燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-7 に示した。本市全域の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「不燃物類」(84.7%) の 1 種類であり、全体の約 84.7% を占めていた。「不燃物類」を個別にみると、その他金属類 (26.1%)、陶磁器類 (17.6%)、小型家電製品 (15.6%)、その他ガラス類 (13.9%) の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(23.2%)、「不燃物類」(66.0%) の 2 種類であり、全体の約 89.2% を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類 (12.5%) が、「不燃物類」ではその他金属類 (22.2%)、小型家電製品 (16.5%) の構成割合が高かった。

図 2-13 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比共に、「プラスチック類・ゴム・皮革類」と「不燃物類」でほとんどの割合を占めていた。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-8、図 2-14~15 に示した。本年度の結果は、重量比では「不燃物類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。また、容積比では「不燃物類」、「紙類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-7 組成分析調査結果 1 (本市全域：不燃ごみ)

項目	全域 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	5.71	0.249	1.35	8.00	0.023
飲料用パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-	2.12	0.138	0.50	4.43	0.015
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	1.64	0.093	0.39	2.99	0.018
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.48	0.045	0.11	1.45	0.011
書籍・雑誌類	8	0.12	0.001	0.03	0.03	0.118
雑紙	-	1.24	0.065	0.29	2.09	0.019
紙箱類	9	1.08	0.055	0.26	1.77	0.020
紙包装類	10	0.16	0.010	0.04	0.32	0.016
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	2.23	0.045	0.53	1.45	0.049
紙おむつ以外	14	1.84	0.038	0.44	1.23	0.048
紙おむつ	15	0.39	0.007	0.09	0.22	0.055
可燃物類(厨芥類)	-	4.38	0.014	1.04	0.46	0.306
食品類	-	4.38	0.014	1.04	0.46	0.306
手付かずの食品	16	2.42	0.012	0.57	0.40	0.196
食べ残し	17	1.87	0.002	0.44	0.06	0.983
調理くず (可食部分)	18					
調理くず (不可食部分)	19	0.10	0.000	0.02	0.00	0.950
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	3.05	0.022	0.72	0.72	0.136
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	3.05	0.022	0.72	0.72	0.136
可燃物類(木・竹・わら類)	-	3.30	0.032	0.78	1.02	0.103
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	3.30	0.032	0.78	1.02	0.103
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.51	0.013	0.36	0.43	0.113
可燃物類(プラスチック類)	-	3.12	0.124	0.74	3.98	0.025
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋	29	2.05	0.120	0.49	3.85	0.017
その他プラスチック類	30	1.07	0.004	0.25	0.13	0.267
可燃物類(その他)	31	6.28	0.010	1.49	0.32	0.627

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-7 組成分析調査結果2（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	357.15	2.056	84.65	66.04	0.174
金属類	-	124.22	0.838	29.44	26.90	0.148
スチール缶	32	0.66	0.009	0.16	0.30	0.070
スプレー缶	33	9.90	0.079	2.35	2.54	0.125
汚れたスチール缶	34	3.26	0.050	0.77	1.61	0.065
アルミ缶	35	0.09	0.004	0.02	0.13	0.023
汚れたアルミ缶	36	0.17	0.005	0.04	0.17	0.034
その他金属類	37	110.14	0.690	26.10	22.16	0.160
ガラス類	-	75.11	0.292	17.80	9.39	0.257
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	1.89	0.008	0.45	0.24	0.248
汚れたワンウェイびん	41	14.41	0.040	3.42	1.27	0.364
その他ガラス類	42	58.81	0.245	13.94	7.87	0.240
その他	-	157.83	0.926	37.41	29.75	0.170
陶磁器類	43	74.11	0.270	17.57	8.67	0.274
小型家電製品	44	65.97	0.515	15.64	16.54	0.128
複合素材	45	16.72	0.140	3.96	4.50	0.119
医療系	46					
乾電池	47	1.02	0.001	0.24	0.04	0.930
ボタン電池	48	0.01	0.00001	0.00	0.00	0.833
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52	2.20	0.003	0.52	0.11	0.651
プラスチック類(分別回収対象)	-	32.60	0.584	7.73	18.74	0.056
レジ袋	-	0.74	0.087	0.17	2.79	0.008
リサイクルできるレジ袋	53					
リサイクルできないレジ袋	54	0.74	0.087	0.17	2.79	0.008
発泡トレイ	-	0.01	0.001	0.00	0.03	0.007
リサイクルできる発泡トレイ	55					
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.01	0.001	0.00	0.03	0.007
発泡スチロール	-	0.09	0.011	0.02	0.34	0.009
リサイクルできる発泡スチロール	57					
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.09	0.011	0.02	0.34	0.009
透明トレイ	-	0.011	0.001	0.00	0.03	0.011
リサイクルできる透明トレイ	59					
リサイクルできない透明トレイ	60	0.01	0.001	0.00	0.03	0.011
その他のプラ製容器包装	-	5.65	0.095	1.34	3.05	0.059
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61					
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	5.65	0.095	1.34	3.05	0.059
容器包装以外のプラスチック類	-	26.11	0.389	6.19	12.50	0.067
リサイクルできるもの	63	4.51	0.064	1.07	2.06	0.070
リサイクルできないもの	64	21.60	0.325	5.12	10.44	0.066
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.08	0.001	0.02	0.03	0.075
ペットボトル	-	0.08	0.001	0.02	0.03	0.075
リサイクルできるペットボトル	65					
リサイクルできないペットボトル	66	0.08	0.001	0.02	0.03	0.075
選別残渣	67	2.53	0.004	0.60	0.13	0.603
総合計		421.91	3.113	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

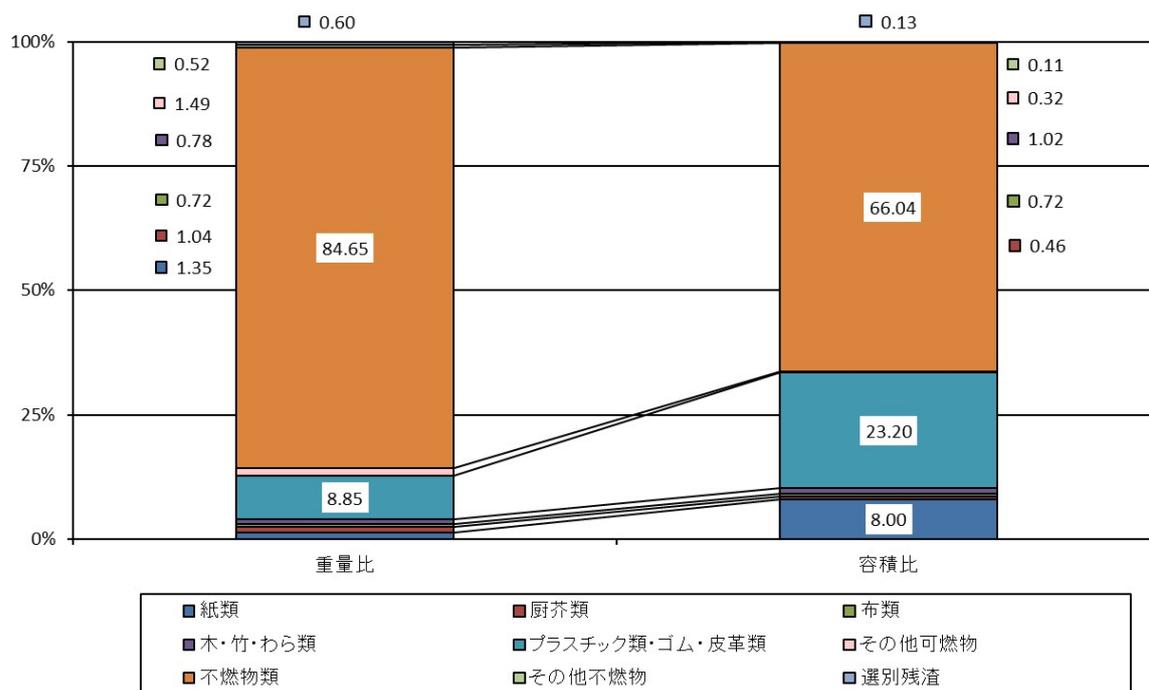


図2-13 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：不燃ごみ）

表2-8 大分類組成調査分析結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

分類	全域-不燃ごみ(重量比)(%)					全域-不燃ごみ(容積比)(%)				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
紙類	0.70	0.67	0.73	0.92	1.35	2.54	4.29	4.67	6.68	8.00
厨芥類	0.64	1.82	1.49	1.06	1.04	0.13	0.20	0.28	0.22	0.46
布類	0.15	0.15	0.14	0.56	0.72	0.15	0.18	0.25	1.13	0.72
木・竹・わら類	0.45	0.31	0.42	1.19	0.78	0.08	0.21	1.80	1.20	1.02
プラスチック類・ゴム・皮革類	7.21	8.69	7.65	10.46	8.85	20.25	23.00	20.31	26.20	23.20
その他可燃物	0.35	0.44	0.43	0.44	1.49	0.07	0.06	0.11	0.09	0.32
不燃物類	89.09	85.60	88.08	80.64	84.65	76.29	71.47	72.10	63.12	66.04
その他不燃物	1.10	0.26	0.84	0.21	0.52	0.42	0.19	0.44	0.08	0.11
選別残渣	0.31	2.06	0.22	4.52	0.60	0.07	0.40	0.04	1.29	0.13
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

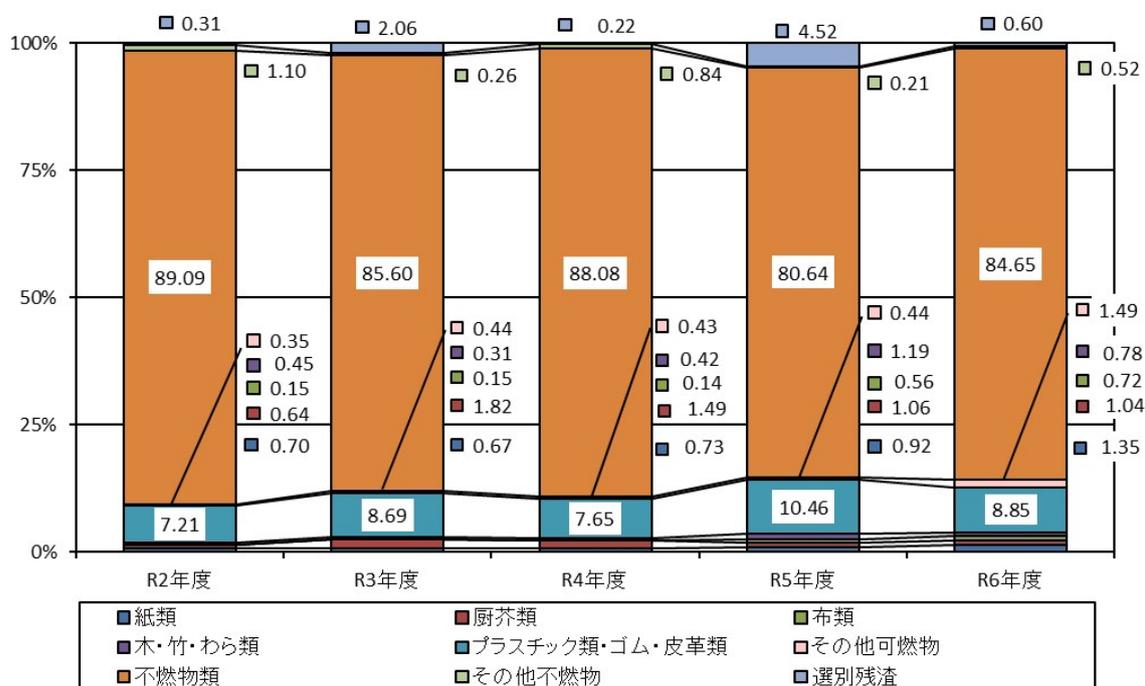


図2-14 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

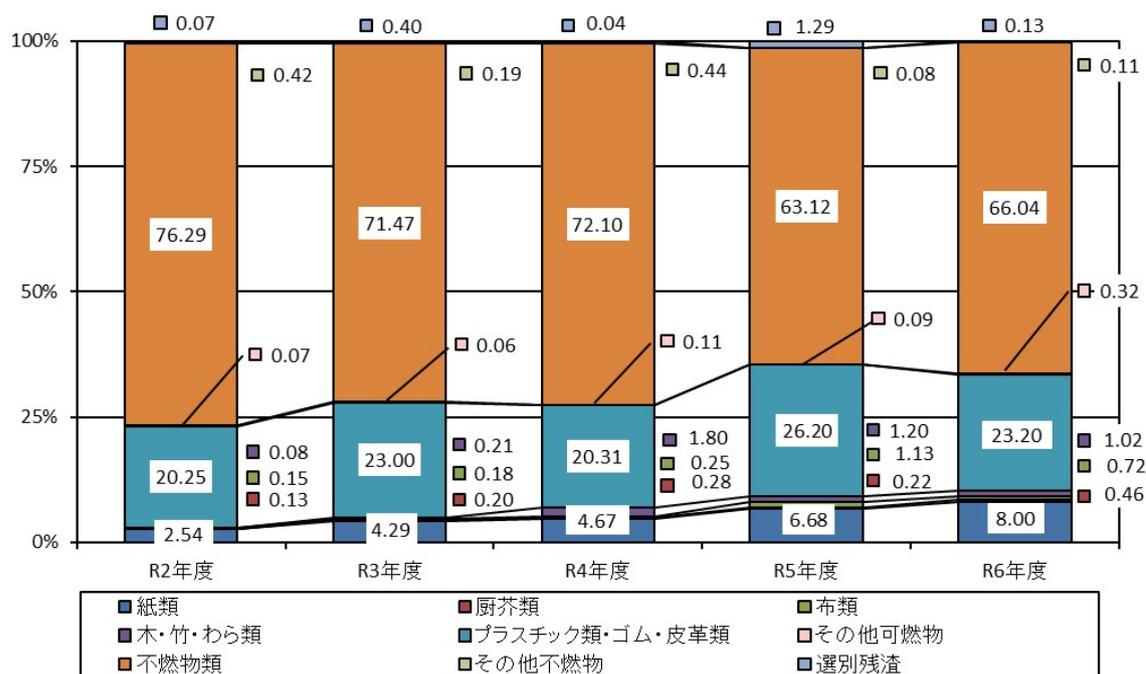


図2-15 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

（2）西部地域

今回実施した西部地域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-9 に示した。西部地域の重量比で 10% 以上の大分類の組成項目は「不燃物類」（87.3%）の 1 種類であり、全体の約 87.3% を占めていた。「不燃物類」を個別にみると、その他金属類（28.4%）、陶磁器類（19.9%）、小型家電製品（14.6%）、その他ガラス類（11.8%）の構成割合が高かった。

次に西部地域の容積比で 10% 以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」（23.2%）、「不燃物類」（68.1%）の 2 種類であり、全体の約 91.3% を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類（12.6%）が、「不燃物類」では、その他金属類（24.8%）、小型家電製品（14.4%）の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された（図 2-16 参照）。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-10、図 2-17～18 に示した。本年度の調査結果は、重量比で「不燃物類」の構成比が増加していた。また、重量比で「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-9 組成分析調査結果 1 (西部地域：不燃ごみ)

項目	西部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	2.12	0.112	1.01	7.52	0.019
飲料用パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-	1.01	0.071	0.48	4.76	0.014
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.76	0.046	0.36	3.08	0.016
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.26	0.025	0.12	1.68	0.010
書籍・雑誌類	8	0.12	0.001	0.06	0.07	0.118
雑紙	-	0.77	0.033	0.37	2.21	0.023
紙箱類	9	0.61	0.023	0.29	1.54	0.027
紙包装類	10	0.16	0.010	0.08	0.67	0.016
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.22	0.007	0.10	0.48	0.030
紙おむつ以外	14	0.22	0.007	0.10	0.48	0.030
紙おむつ	15					
可燃物類(厨芥類)	-	2.62	0.007	1.24	0.47	0.373
食品類	-	2.62	0.007	1.24	0.47	0.373
手付かずの食品	16	1.66	0.006	0.79	0.40	0.276
食べ残し	17	0.95	0.001	0.45	0.07	0.953
調理くず (可食部分)	18					
調理くず (不可食部分)	19					
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	0.53	0.005	0.25	0.36	0.098
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	0.53	0.005	0.25	0.36	0.098
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.40	0.002	0.19	0.10	0.263
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	0.40	0.002	0.19	0.10	0.263
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.06	0.010	0.50	0.67	0.106
可燃物類(プラスチック類)	-	1.40	0.061	0.67	4.11	0.023
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋	29	1.09	0.060	0.52	4.02	0.018
その他プラスチック類	30	0.31	0.001	0.15	0.09	0.240
可燃物類(その他)	31	0.52	0.001	0.25	0.08	0.430

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-9 組成分析調査結果2（西部地域：不燃ごみ）

項目	西部（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	183.75	1.016	87.32	68.10	0.181
金属類	-	65.30	0.431	31.03	28.87	0.152
スチール缶	32	0.33	0.004	0.16	0.27	0.083
スプレー缶	33	3.63	0.028	1.72	1.88	0.129
汚れたスチール缶	34	1.40	0.020	0.66	1.34	0.070
アルミ缶	35	0.09	0.004	0.04	0.27	0.023
汚れたアルミ缶	36	0.12	0.005	0.06	0.31	0.026
その他金属類	37	59.74	0.370	28.39	24.81	0.161
ガラス類	-	36.16	0.139	17.18	9.35	0.259
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	1.78	0.007	0.84	0.50	0.240
汚れたワンウェイびん	41	9.47	0.027	4.50	1.81	0.351
その他ガラス類	42	24.91	0.105	11.84	7.04	0.237
その他	-	82.29	0.446	39.11	29.88	0.185
陶磁器類	43	41.88	0.130	19.90	8.72	0.322
小型家電製品	44	30.73	0.215	14.60	14.41	0.143
複合素材	45	9.13	0.100	4.34	6.70	0.091
医療系	46					
乾電池	47	0.56	0.001	0.27	0.04	0.930
ボタン電池	48					
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52	2.15	0.003	1.02	0.20	0.710
プラスチック類(分別回収対象)	-	15.71	0.274	7.47	18.37	0.057
レジ袋	-	0.31	0.037	0.14	2.48	0.008
リサイクルできるレジ袋	53					
リサイクルできないレジ袋	54	0.31	0.037	0.14	2.48	0.008
発泡トレイ	-					
リサイクルできる発泡トレイ	55					
リサイクルできない発泡トレイ	56					
発泡スチロール	-	0.09	0.010	0.04	0.67	0.009
リサイクルできる発泡スチロール	57					
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.09	0.010	0.04	0.67	0.009
透明トレイ	-					
リサイクルできる透明トレイ	59					
リサイクルできない透明トレイ	60					
その他のプラ製容器包装	-	1.85	0.039	0.88	2.61	0.047
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61					
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	1.85	0.039	0.88	2.61	0.047
容器包装以外のプラスチック類	-	13.47	0.188	6.40	12.60	0.072
リサイクルできるもの	63	1.87	0.028	0.89	1.88	0.067
リサイクルできないもの	64	11.61	0.160	5.52	10.73	0.073
プラスチック類(分別回収対象外)	-					
ペットボトル	-					
リサイクルできるペットボトル	65					
リサイクルできないペットボトル	66					
選別残渣	67	0.18	0.0002	0.09	0.01	0.895
総合計		210.43	1.492	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

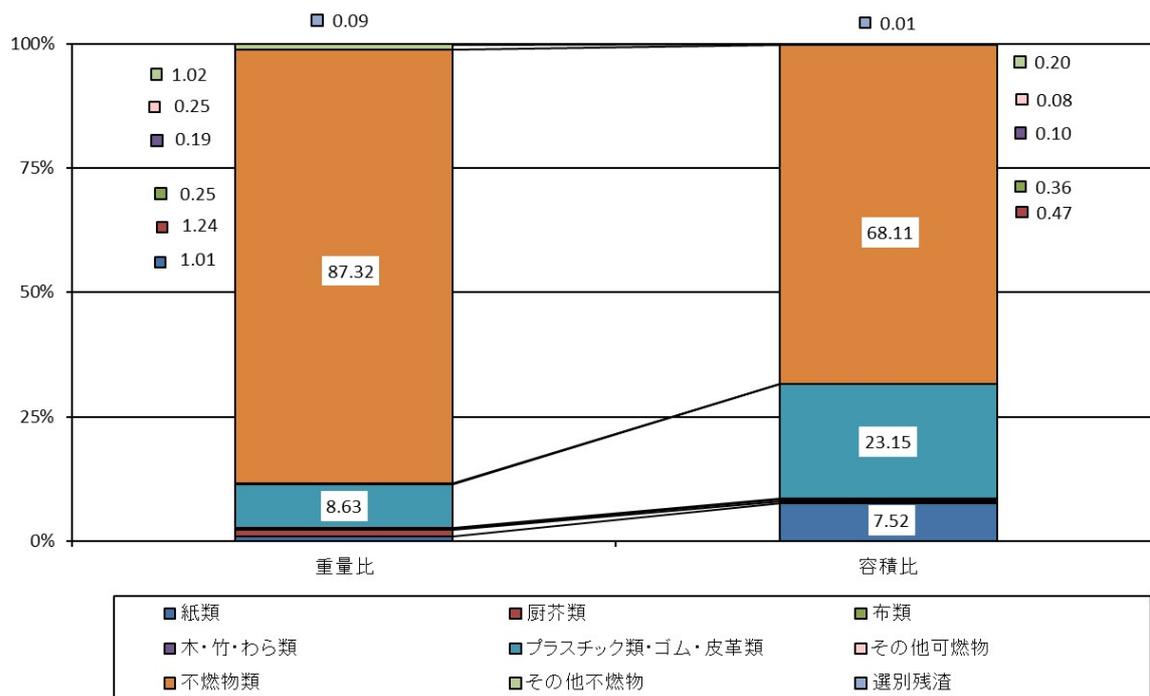


図2-16 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：不燃ごみ）

表2-10 大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

項目	西部-不燃ごみ(重量比)(%)					西部-不燃ごみ(容積比)(%)				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
紙類	0.82	0.56	0.72	0.95	1.01	3.03	3.30	4.25	6.55	7.52
厨芥類	1.23	2.89	1.92	0.31	1.24	0.26	0.28	0.42	0.06	0.47
布類	0.25	0.05	0.11	0.16	0.25	0.22	0.03	0.15	0.22	0.36
木・竹・わら類	0.11	0.58	0.76	0.67	0.19	0.04	0.40	0.68	0.37	0.10
プラスチック類・ゴム・皮革類	6.11	9.02	8.99	10.01	8.63	17.82	21.48	20.79	24.60	23.15
その他可燃物	0.59	0.32	0.36	0.79	0.25	0.12	0.04	0.12	0.13	0.08
不燃物類	88.78	82.72	86.92	79.88	87.32	77.97	73.66	73.39	66.01	68.11
その他不燃物	1.49	0.30	0.14	0.21	1.02	0.46	0.19	0.18	0.12	0.20
選別残渣	0.62	3.56	0.08	7.03	0.09	0.08	0.62	0.02	1.94	0.01
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

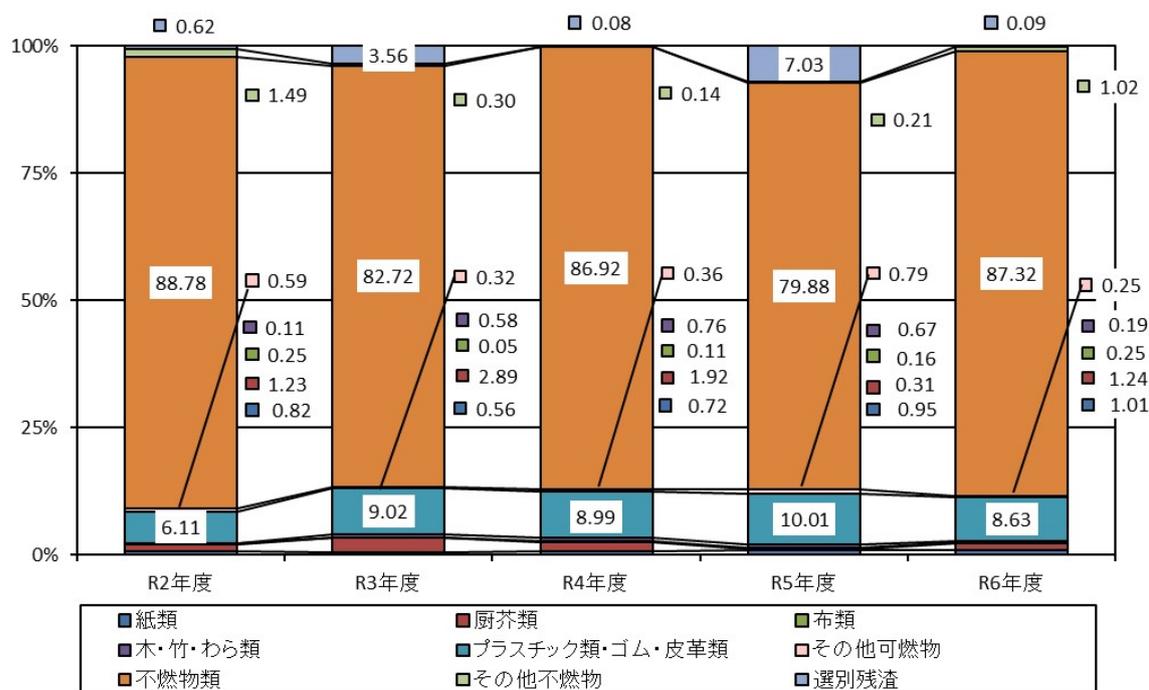


図2-17 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

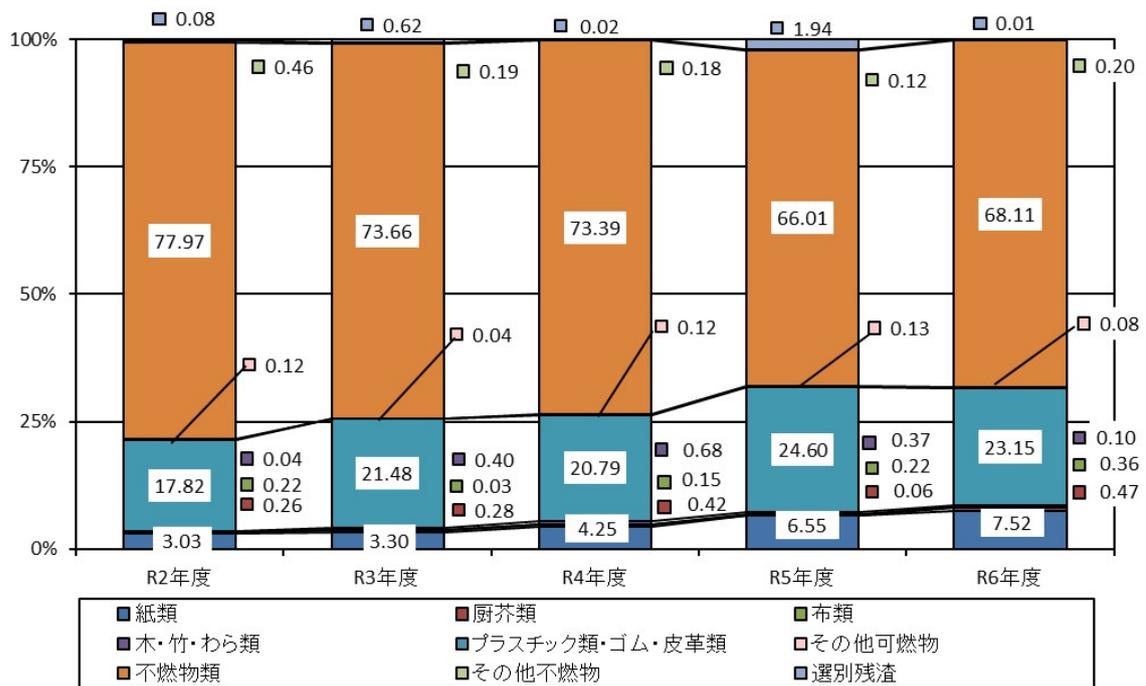


図2-18 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

(3) 東部地域

今回実施した東部地域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-11 に示した。東部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「不燃物類」(82.0%) の 1 種類であり、全体の約 82.0%を占めていた。「不燃物類」を個別にみると、その他金属類 (23.8%)、小型家電製品 (16.7%)、その他ガラス類 (16.0%)、陶磁器類 (15.2%) の構成割合が高かった。

次に東部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(23.2%)、「不燃物類」(64.2%) の 2 種類であり、全体の約 87.4%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類 (12.4%) が、「不燃物類」ではその他金属類 (19.7%)、小型家電製品 (18.5%) の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図 2-19 参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-12、図 2-20～21 に示した。本年度の調査結果は、重量比では「その他可燃物」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。また、容積比では「紙類」、「不燃物類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-11 組成分析調査結果 1 (東部地域：不燃ごみ)

項目	東部 (不燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	3.59	0.137	1.70	8.45	0.026
飲料用パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-	1.11	0.067	0.52	4.13	0.017
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.89	0.047	0.42	2.90	0.019
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.23	0.020	0.11	1.23	0.011
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	0.47	0.032	0.22	1.97	0.015
紙箱類	9	0.47	0.032	0.22	1.97	0.015
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	2.01	0.038	0.95	2.34	0.053
紙おむつ以外	14	1.63	0.031	0.77	1.91	0.052
紙おむつ	15	0.39	0.007	0.18	0.43	0.055
可燃物類(厨芥類)	-	1.77	0.007	0.83	0.45	0.242
食品類	-	1.77	0.007	0.83	0.45	0.242
手付かずの食品	16	0.76	0.006	0.36	0.39	0.120
食べ残し	17	0.92	0.001	0.43	0.06	1.017
調理くず (可食部分)	18					
調理くず (不可食部分)	19	0.10	0.0001	0.04	0.01	0.950
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	2.53	0.017	1.19	1.05	0.149
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	2.53	0.017	1.19	1.05	0.149
可燃物類(木・竹・わら類)	-	2.91	0.030	1.37	1.87	0.096
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	2.91	0.030	1.37	1.87	0.096
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.45	0.003	0.21	0.20	0.137
可燃物類(プラスチック類)	-	1.71	0.063	0.81	3.87	0.027
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋	29	0.96	0.060	0.45	3.70	0.016
その他プラスチック類	30	0.75	0.003	0.36	0.17	0.279
可燃物類(その他)	31	5.76	0.009	2.72	0.54	0.655

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-11 組成分析調査結果2（東部地域：不燃ごみ）

項目	東部（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	173.41	1.040	81.99	64.15	0.167
金属類	-	58.91	0.407	27.86	25.09	0.145
スチール缶	32	0.33	0.005	0.15	0.33	0.061
スプレー缶	33	6.28	0.051	2.97	3.15	0.123
汚れたスチール缶	34	1.87	0.030	0.88	1.85	0.062
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36	0.05	0.001	0.02	0.03	0.104
その他金属類	37	50.40	0.320	23.83	19.73	0.157
ガラス類	-	38.95	0.153	18.42	9.42	0.255
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	0.11	0.0002	0.05	0.01	0.540
汚れたワンウェイびん	41	4.94	0.013	2.34	0.78	0.392
その他ガラス類	42	33.90	0.140	16.03	8.63	0.242
その他	-	75.55	0.481	35.72	29.63	0.157
陶磁器類	43	32.23	0.140	15.24	8.63	0.230
小型家電製品	44	35.25	0.300	16.67	18.50	0.117
複合素材	45	7.60	0.040	3.59	2.47	0.190
医療系	46					
乾電池	47	0.47	0.001	0.22	0.03	0.930
ボタン電池	48	0.01	0.00001	0.00	0.00	0.833
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52	0.05	0.0004	0.02	0.02	0.140
プラスチック類(分別回収対象)	-	16.89	0.310	7.99	19.09	0.055
レジ袋	-	0.43	0.050	0.20	3.08	0.009
リサイクルできるレジ袋	53					
リサイクルできないレジ袋	54	0.43	0.050	0.20	3.08	0.009
発泡トレイ	-	0.01	0.001	0.00	0.06	0.007
リサイクルできる発泡トレイ	55					
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.01	0.001	0.00	0.06	0.007
発泡スチロール	-	0.01	0.001	0.00	0.03	0.016
リサイクルできる発泡スチロール	57					
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.01	0.001	0.00	0.03	0.016
透明トレイ	-	0.01	0.001	0.01	0.06	0.011
リサイクルできる透明トレイ	59					
リサイクルできない透明トレイ	60	0.01	0.001	0.01	0.06	0.011
その他のプラ製容器包装	-	3.80	0.056	1.80	3.45	0.068
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61					
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	3.80	0.056	1.80	3.45	0.068
容器包装以外のプラスチック類	-	12.64	0.201	5.97	12.40	0.063
リサイクルできるもの	63	2.64	0.036	1.25	2.22	0.073
リサイクルできないもの	64	10.00	0.165	4.73	10.18	0.061
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.08	0.001	0.04	0.06	0.075
ペットボトル	-	0.08	0.001	0.04	0.06	0.075
リサイクルできるペットボトル	65					
リサイクルできないペットボトル	66	0.08	0.001	0.04	0.06	0.075
選別残渣	67	2.36	0.004	1.11	0.25	0.589
総合計		211.49	1.622	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

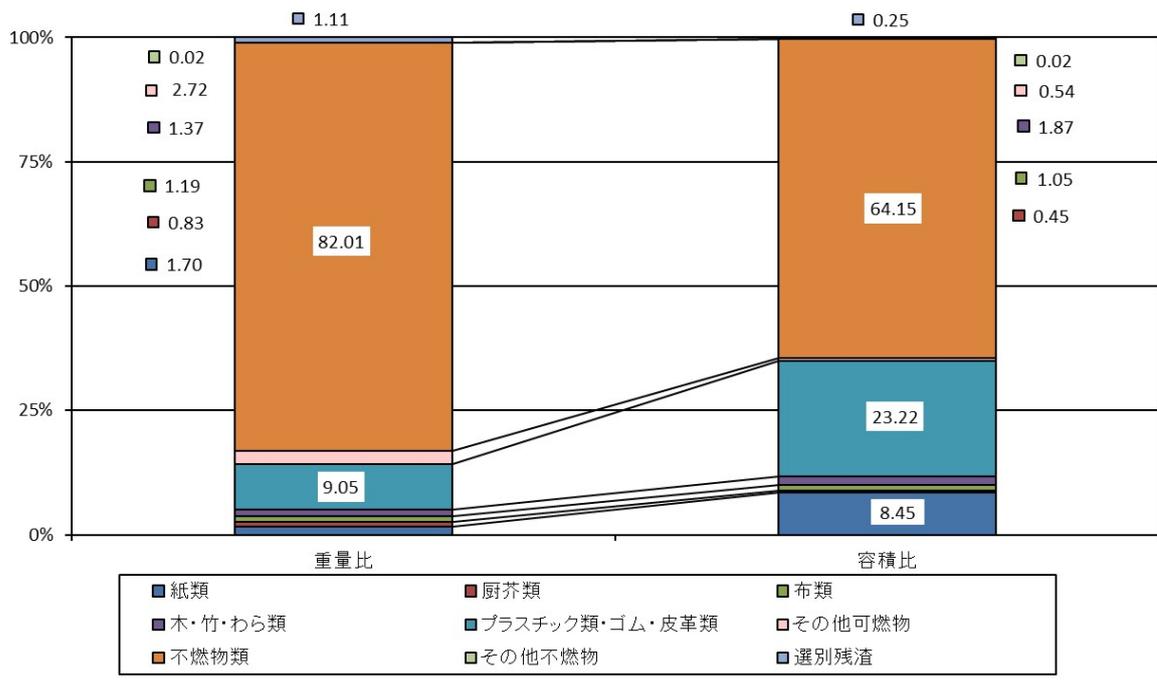


図2-19 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：不燃ごみ）

表2-12 大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

項目	東部-不燃ごみ(重量比)(%)					東部-不燃ごみ(容積比)(%)				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
紙類	0.59	0.78	0.75	0.90	1.70	2.07	5.30	5.21	6.81	8.45
厨芥類	0.06	0.74	1.03	1.76	0.83	0.01	0.12	0.09	0.39	0.45
布類	0.06	0.24	0.18	0.94	1.19	0.08	0.33	0.37	2.10	1.05
木・竹・わら類	0.79	0.04	0.05	1.68	1.37	0.13	0.02	3.24	2.09	1.87
プラスチック類・ゴム・皮革類	8.29	8.18	6.19	10.89	9.05	22.62	23.83	19.68	27.92	23.22
その他可燃物	0.11	0.57	0.51	0.11	2.72	0.02	0.07	0.10	0.03	0.54
不燃物類	89.38	88.68	89.33	81.36	82.01	74.64	69.96	70.45	60.01	64.15
その他不燃物	0.71	0.21	1.59	0.22	0.02	0.37	0.19	0.79	0.04	0.02
選別残渣	0.01	0.56	0.37	2.14	1.11	0.06	0.18	0.07	0.60	0.25
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

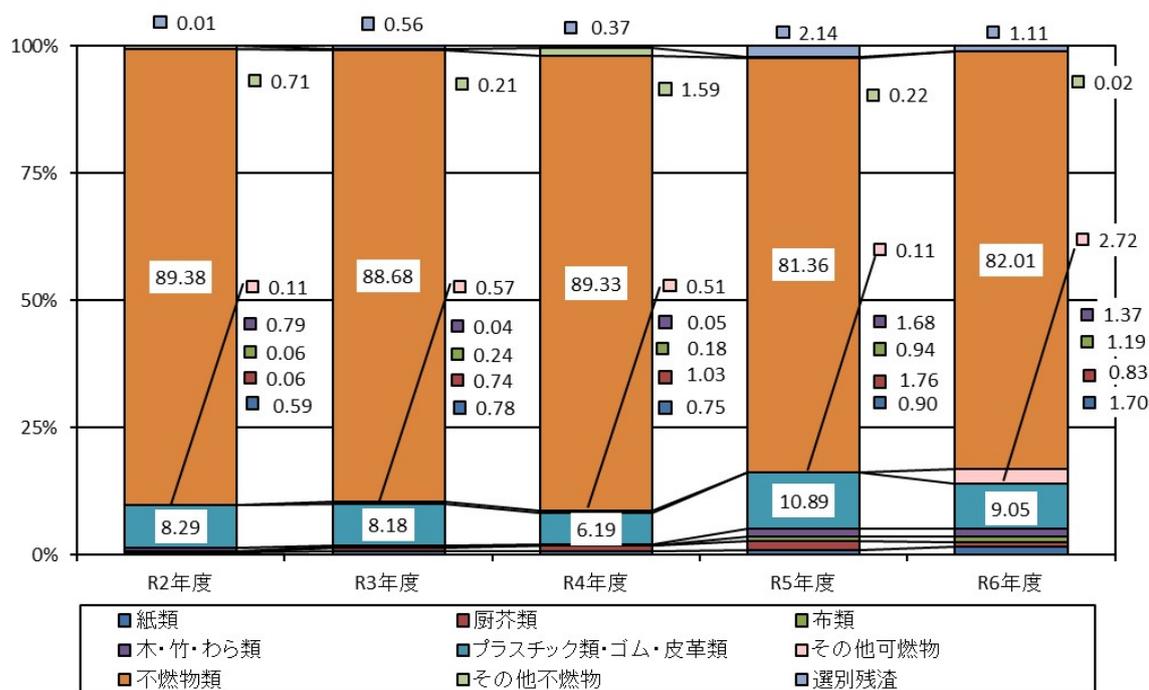


図2-20 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

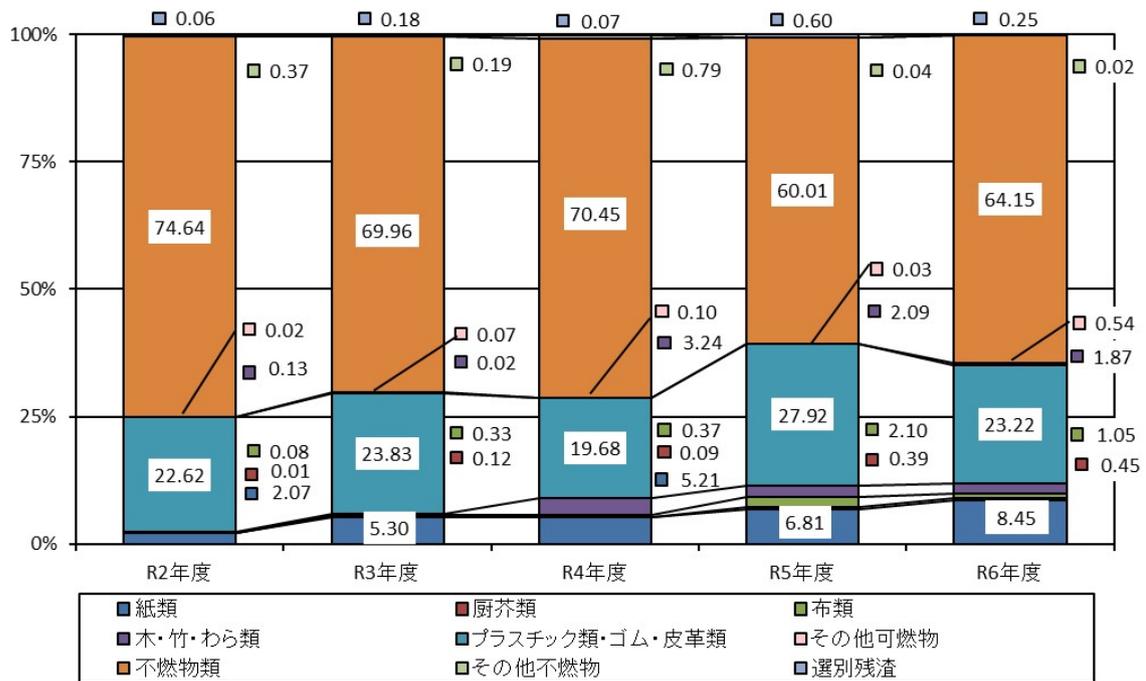


図2-21 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

（4）不燃ごみの排出特性の総括

令和2年度～令和6年度の本市全域（令和6年度分は西部地域・東部地域も掲載）の構成比を比較した結果を図2-22～23に示した。

今回の調査では、重量比では「不燃物類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。また、容積比では「紙類」、「不燃物類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

図2-24に不燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、令和5年度とほぼ同様であった。

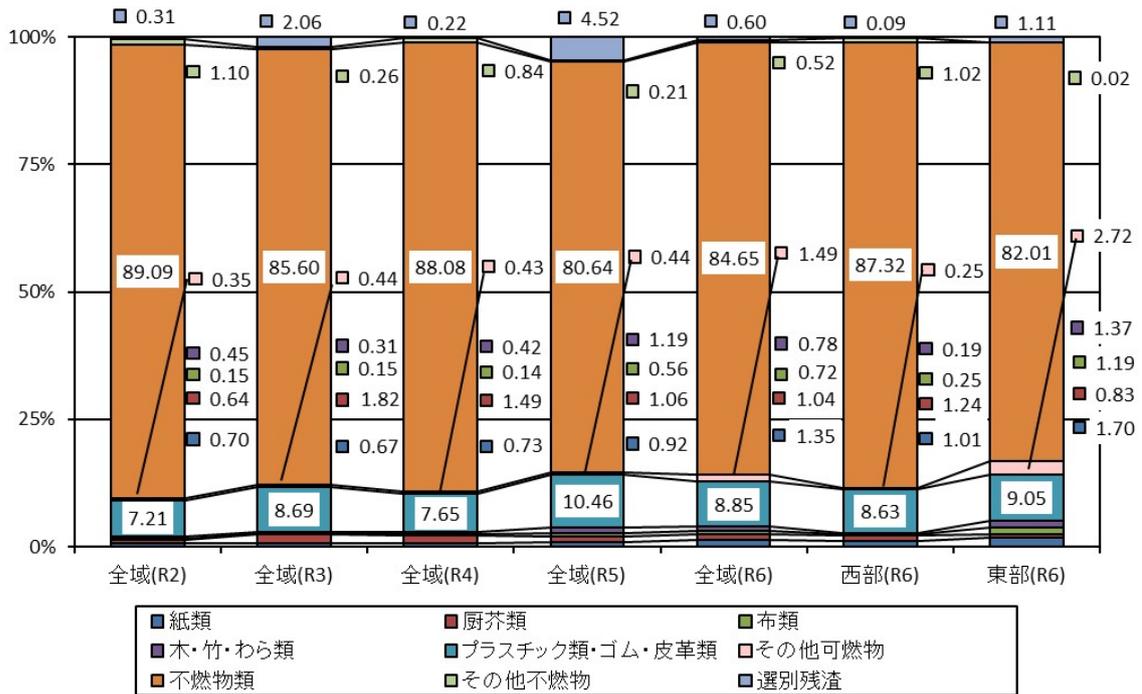


図2-22 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：不燃ごみ）

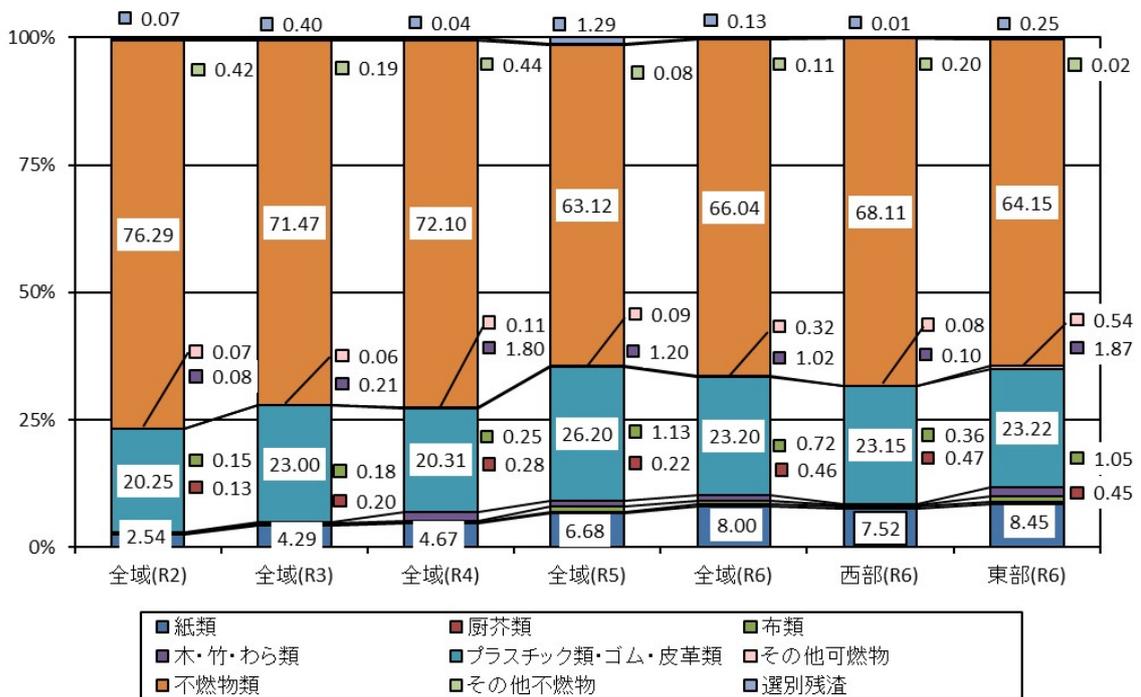


図2-23 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：不燃ごみ）

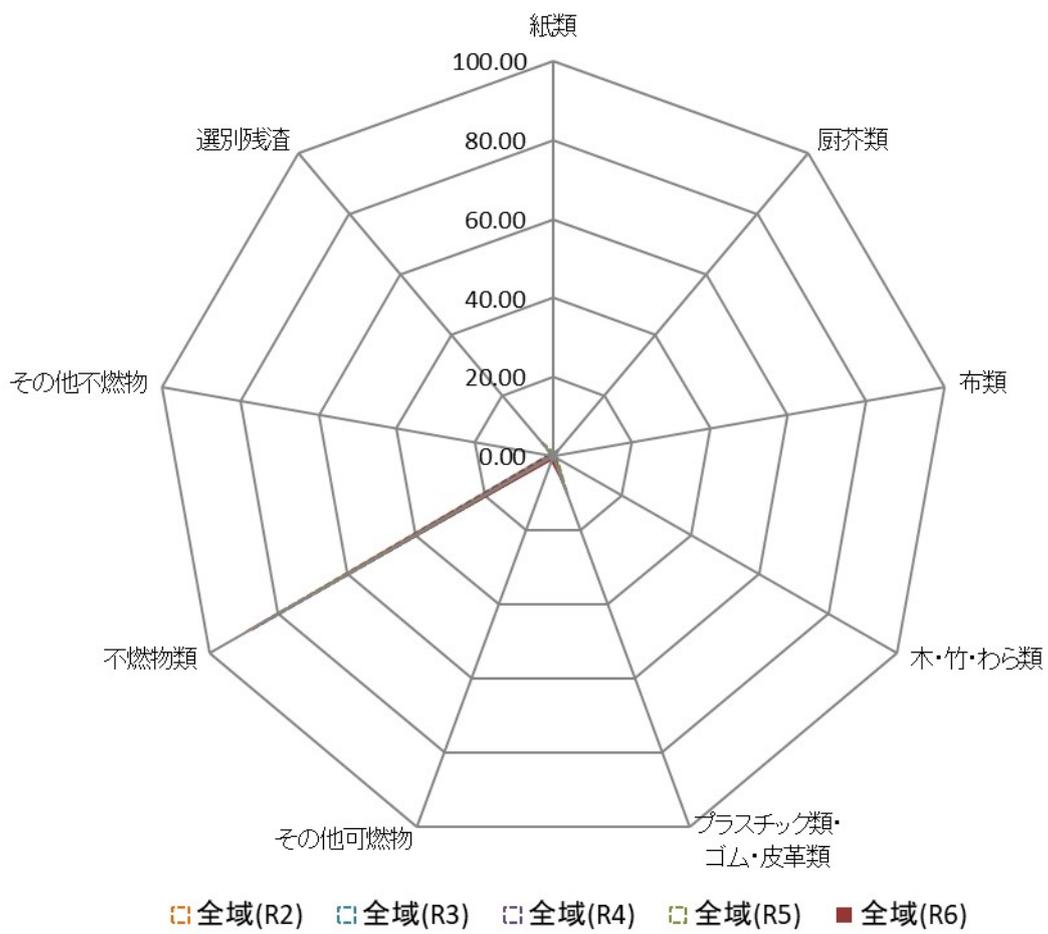


図2-24 不燃ごみの特性比較（重量比：全体図）

3 プラスチック資源の排出特性

(1) 本市全域

今調査では、令和6年3月から始まった「プラスチック資源」の分別回収について、「プラスチック資源」としてリサイクル対象となる「容器包装プラスチック」及び「製品プラスチック」の組成分析調査を実施したものである。

今回実施した本市全域のプラスチック資源の組成分析調査の調査結果を表 2-13 に示した。本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類(分別回収対象)」(92.5%)の1種類のみであった。

その内訳は食品や洗剤などを入れた容器として使用されていたプラスチック(容器包装プラスチック)の割合が72.7%、レジ袋や発泡スチロール、ストロー、コップなどプラスチックのみでできているもの(製品プラスチック)の割合が約19.8%であった(表 2-14 参照)。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの(50.4%)、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの(22.3%)、製品プラスチックでリサイクルできるもの(10.6%)、製品プラスチックでリサイクルできないもの(9.1%)の構成割合が高かった。

次に、本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類(分別回収対象)」(95.3%)の1種類のみであった。

その内訳は容器包装プラスチックの割合が約81.6%、製品プラスチックの割合が約13.7%であった(表 2-14 参照)。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの(59.6%)、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの(22.0%)の構成割合が高かった。

図 2-25 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともにプラスチック類(分別回収対象)の構成割合が高かった。また、プラスチック資源中の各品目の構成比を図 2-26~27 に示した。重量比、容積比ともに容器包装プラスチックでリサイクルできるものの構成割合が高いことがわかった。

次に、プラスチック資源中のリサイクルの可否に関する構成比を表 2-14、図 2-28~29 に示した。重量比においては、容器包装プラスチック・リサイクル可が50.4%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が22.3%で2番目に多かった。

容積比においても、容器包装プラスチック・リサイクル可が59.6%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が22.0%で2番目に多かった。

表2-13 組成分析調査結果 1 (本市全域：プラスチック資源)

項目	全域 (プラスチック資源)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	0.81	0.029	1.38	0.85	0.028
飲料用パック (アルミ不使用)	-	0.03	0.0004	0.05	0.01	0.070
500ml 以上	1					
500ml 未満	2	0.03	0.0004	0.05	0.01	0.070
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-					
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5					
チラシ	6					
再利用したチラシ	7					
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	0.02	0.00005	0.03	0.00	0.300
紙箱類	9	0.02	0.00005	0.03	0.00	0.300
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.77	0.029	1.31	0.84	0.027
紙おむつ以外	14	0.77	0.029	1.31	0.84	0.027
紙おむつ	15					
可燃物類(厨芥類)	-	0.14	0.0007	0.25	0.02	0.206
食品類	-	0.14	0.0007	0.25	0.02	0.206
手付かずの食品	16	0.03	0.0002	0.05	0.00	0.180
食べ残し	17	0.12	0.0006	0.20	0.02	0.213
調理くず (可食部分)	18					
調理くず (不可食部分)	19					
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	0.02	0.0002	0.04	0.01	0.120
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	0.02	0.0002	0.04	0.01	0.120
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.01	0.00006	0.02	0.00	0.167
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	0.01	0.00006	0.02	0.00	0.167
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.33	0.003	0.56	0.10	0.098
可燃物類(プラスチック類)	-	1.44	0.0808	2.44	2.34	0.018
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋(収集袋)	29	1.23	0.080	2.09	2.32	0.015
その他プラスチック類	30	0.21	0.0008	0.35	0.02	0.244
可燃物類(その他)	31	0.28	0.001	0.48	0.03	0.295

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表 2-13 組成分析調査結果 2 (本市全域：プラスチック資源)

項目	全域 (プラスチック資源)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	0.26	0.0007	0.44	0.02	0.370
金属類	-	0.14	0.0005	0.24	0.01	0.280
スチール缶	32					
スプレー缶	33	0.14	0.0005	0.24	0.01	0.280
汚れたスチール缶	34					
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36					
その他金属類	37					
ガラス類	-	0.08	0.0001	0.14	0.00	0.800
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	0.08	0.0001	0.14	0.00	0.800
汚れたワンウェイびん	41					
その他ガラス類	42					
その他	-	0.04	0.0001	0.07	0.00	0.390
陶磁器類	43					
小型家電製品	44	0.04	0.0001	0.07	0.00	0.390
複合素材	45					
医療系	46					
乾電池	47					
ボタン電池	48					
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52					
プラスチック類(分別回収対象)	-	54.32	3.287	92.47	95.29	0.017
レジ袋	-	0.88	0.063	1.50	1.83	0.014
リサイクルできるレジ袋	53	0.02	0.001	0.03	0.03	0.015
リサイクルできないレジ袋	54	0.87	0.062	1.48	1.80	0.014
発泡トレイ	-	3.10	0.610	5.28	17.69	0.005
リサイクルできる発泡トレイ	55	2.24	0.455	3.80	13.19	0.005
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.87	0.155	1.47	4.49	0.006
発泡スチロール	-	0.38	0.044	0.65	1.26	0.009
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.32	0.037	0.55	1.07	0.009
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.06	0.007	0.11	0.19	0.009
透明トレイ	-	7.67	0.795	13.05	23.05	0.010
リサイクルできる透明トレイ	59	5.72	0.585	9.73	16.96	0.010
リサイクルできない透明トレイ	60	1.95	0.210	3.32	6.09	0.009
その他のプラ製容器包装	-	31.94	1.410	54.37	40.88	0.023
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	21.64	1.015	36.83	29.43	0.021
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	10.30	0.395	17.53	11.45	0.026
容器包装以外のプラスチック類	-	10.35	0.365	17.62	10.58	0.028
リサイクルできるもの	63	5.91	0.225	10.06	6.52	0.026
リサイクルできないもの	64	4.44	0.140	7.56	4.06	0.032
プラスチック類(分別回収対象外)	-	1.13	0.046	1.92	1.34	0.024
ペットボトル	-	1.13	0.046	1.92	1.34	0.024
リサイクルできるペットボトル	65	0.62	0.025	1.06	0.71	0.025
リサイクルできないペットボトル	66	0.51	0.022	0.87	0.63	0.024
選別残渣	67					
総合計		58.74	3.449	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

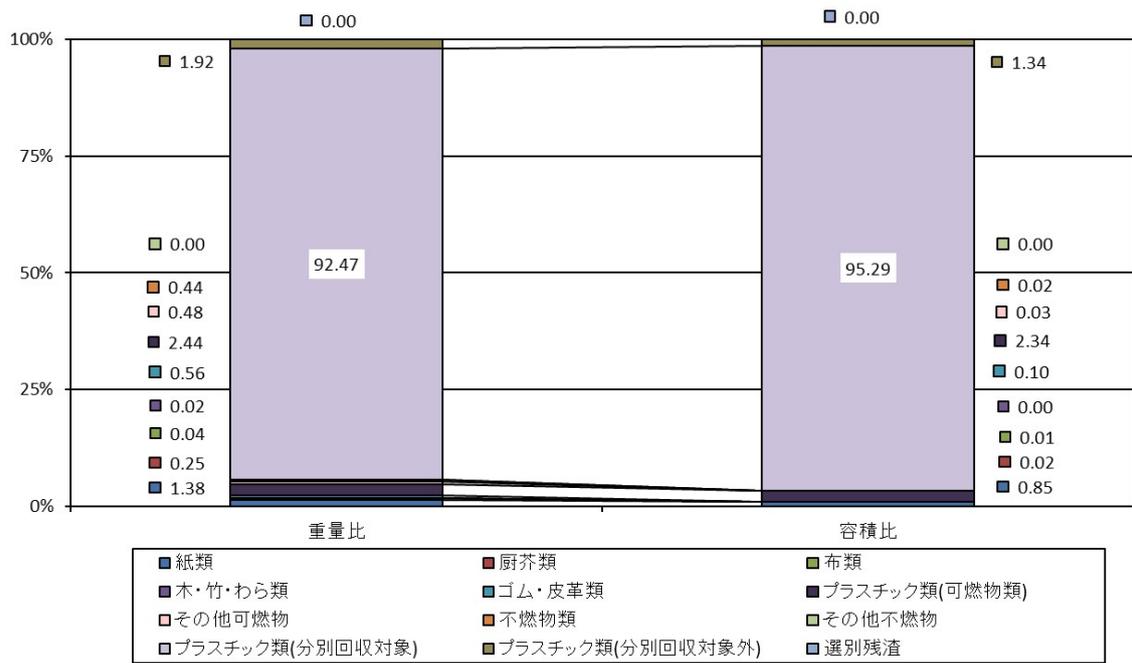


図2-25 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：プラスチック資源）

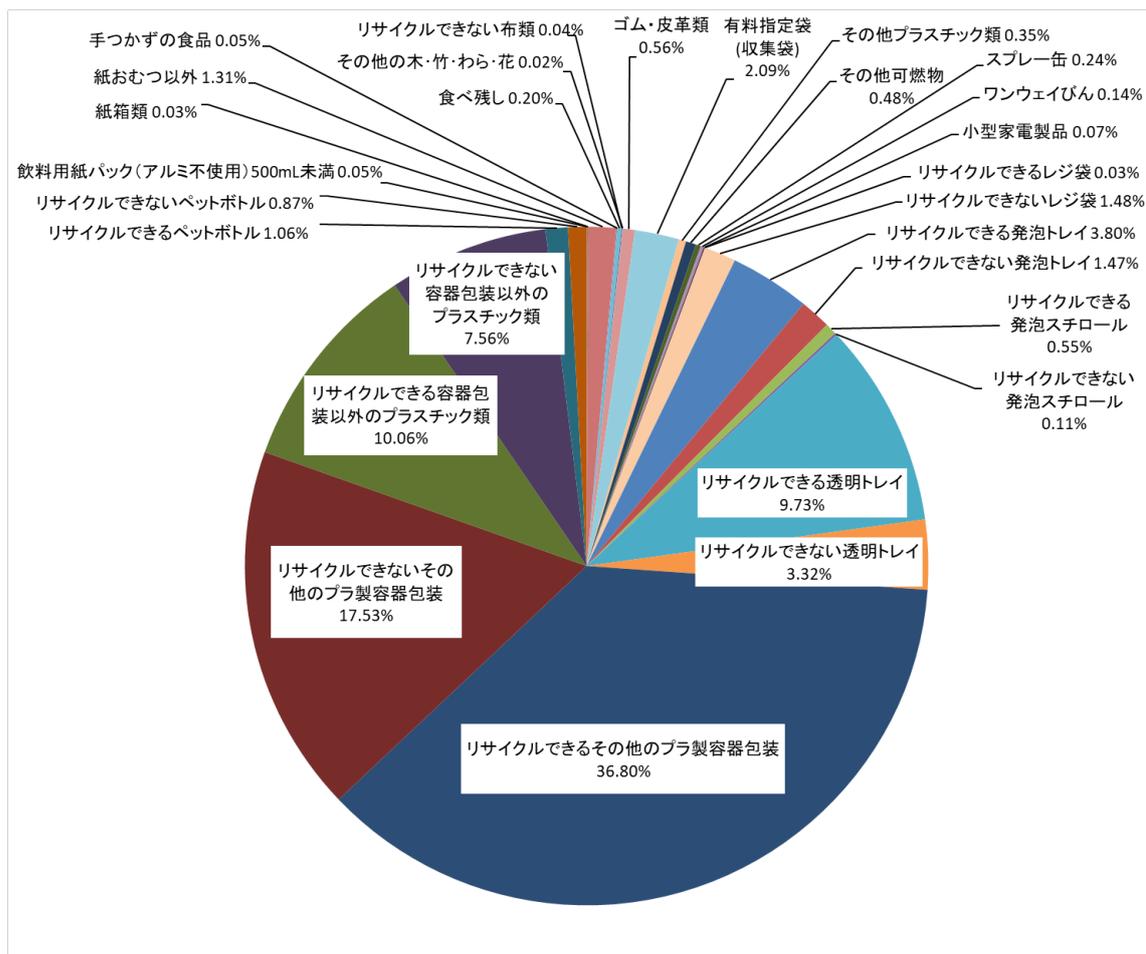


図2-26 プラスチック資源中の各品目の構成比（重量比：本市全域）

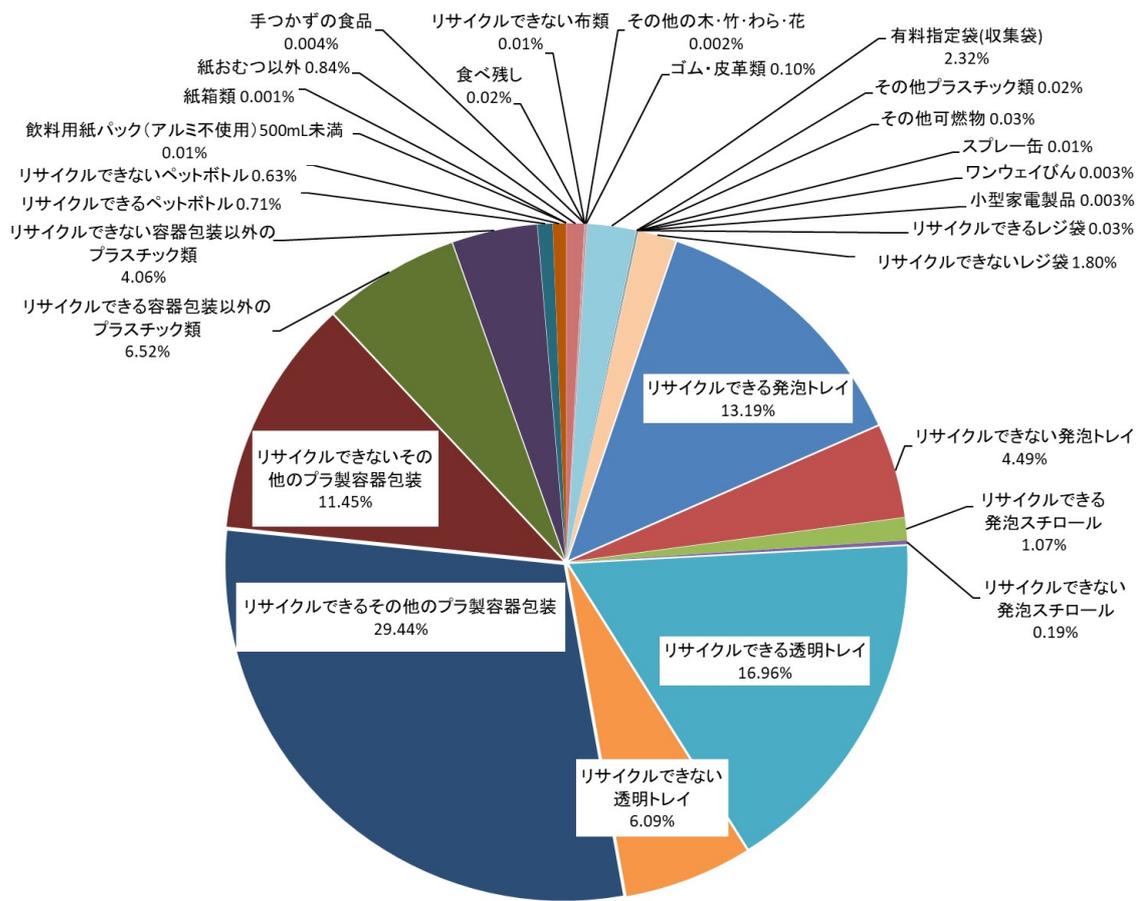


図2-27 プラスチック資源中の各品目の構成比（容積比：本市全域）

表2-14 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する組成分析調査結果

(本市全域：プラスチック資源)

項目	本市全域（プラスチック資源）			
	重量・容積		重量比・容積比	
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)
容器包装プラスチック	42.70	2.815	72.69	81.62
発泡トレイ	3.10	0.610	5.28	17.69
リサイクルできる発泡トレイ	2.24	0.455	3.80	13.19
リサイクルできない発泡トレイ	0.87	0.155	1.47	4.49
透明トレイ	7.67	0.795	13.05	23.05
リサイクルできる透明トレイ	5.72	0.585	9.73	16.96
リサイクルできない透明トレイ	1.95	0.210	3.32	6.09
その他のプラ製容器包装	31.94	1.410	54.37	40.88
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	21.64	1.015	36.83	29.43
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	10.30	0.395	17.53	11.45
製品プラスチック	11.62	0.472	19.77	13.67
レジ袋	0.88	0.063	1.50	1.83
リサイクルできるレジ袋	0.02	0.001	0.03	0.03
リサイクルできないレジ袋	0.87	0.062	1.48	1.80
発泡スチロール	0.38	0.044	0.65	1.26
リサイクルできる発泡スチロール	0.32	0.037	0.55	1.07
リサイクルできない発泡スチロール	0.06	0.007	0.11	0.19
容器包装以外のプラスチック類	10.35	0.365	17.62	10.58
リサイクルできるもの	5.91	0.225	10.06	6.52
リサイクルできないもの	4.44	0.140	7.56	4.06
プラスチック資源(非該当)	3.20	0.082	5.44	2.39
食べ残しなど「プラスチック資源」以外のもの	2.07	0.036	3.52	1.05
ペットボトル	1.13	0.046	1.92	1.34
有料指定袋(収集袋)	1.23	0.080	2.09	2.32
合計	58.74	3.449	100	100

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

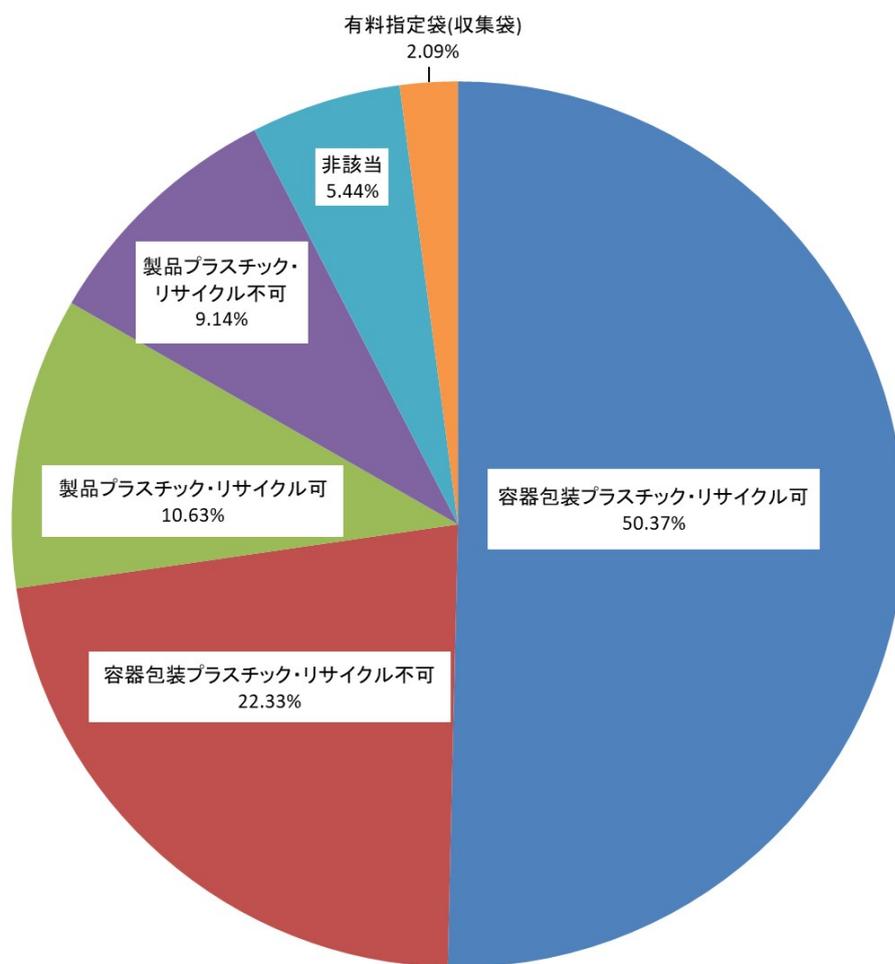


図2-28 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（重量比：本市全域）

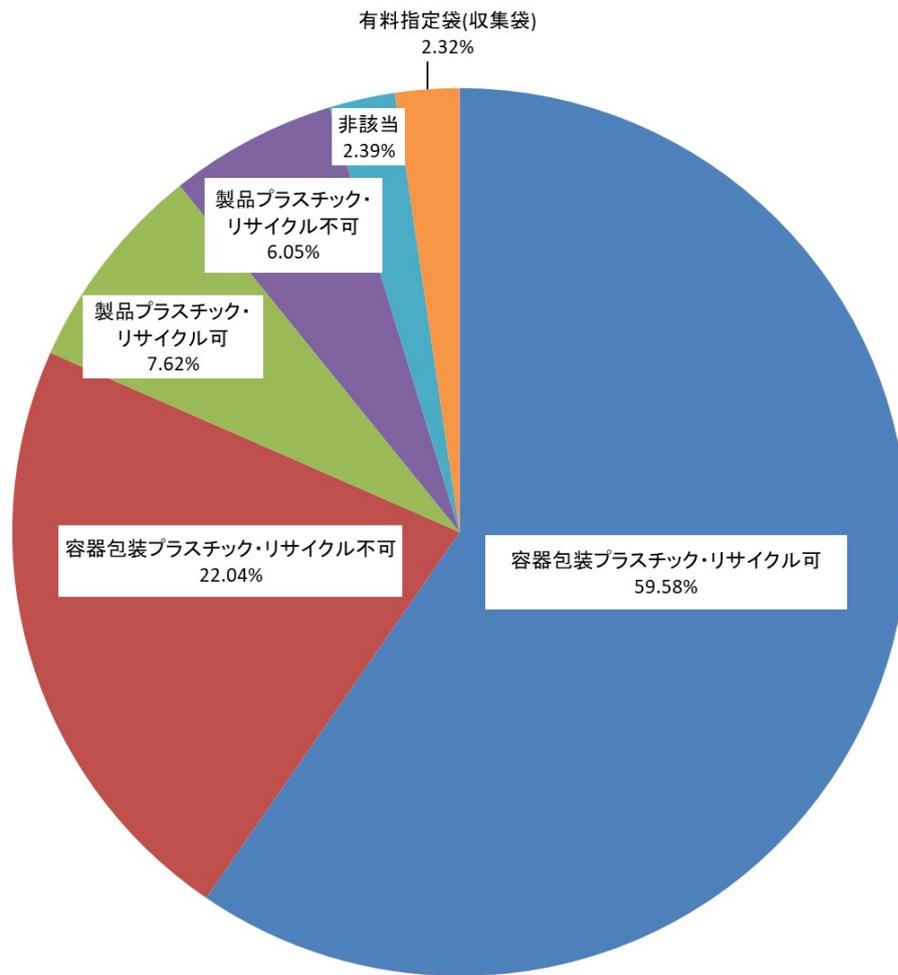


図2-29 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（容積比：本市全域）

(2) 西部地域

今回実施した西部地域のプラスチック資源の組成分析調査の調査結果を表 2-15 に示した。西部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（93.5%）の 1 種類のみであった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 71.8%、製品プラスチックの割合が約 21.7%であった（表 2-16 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（51.4%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（20.4%）、製品プラスチックでリサイクルできるもの（12.5%）の構成割合が高かった。

次に西部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（94.7%）の 1 種類のみであった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 80.6%、製品プラスチックの割合が約 14.2%であった（表 2-16 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（61.6%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（18.9%）の構成割合が高かった。

図 2-30 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともにプラスチック類（分別回収対象）の構成割合が高かった。また、プラスチック資源中の各品目の構成比を図 2-31～32 に示した。重量比、容積比ともに容器包装プラスチックでリサイクルできるものの構成割合が高いことがわかった。

次に、プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比を表 2-16、図 2-33～34 に示した。重量比においては、容器包装プラスチック・リサイクル可が 51.4%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 20.4%で 2 番目に多かった。容積比においても、容器包装プラスチック・リサイクル可が 61.6%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 18.9%で 2 番目に多かった。

表2-15 組成分析調査結果 1 (西部地域：プラスチック資源)

項目	西部 (プラスチック資源)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	0.37	0.016	1.25	0.98	0.023
飲料用パック (アルミ不使用)	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-					
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5					
チラシ	6					
再利用したチラシ	7					
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	0.02	0.0001	0.05	0.00	0.300
紙箱類	9	0.02	0.0001	0.05	0.00	0.300
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.35	0.016	1.20	0.98	0.022
紙おむつ以外	14	0.35	0.016	1.20	0.98	0.022
紙おむつ	15					
可燃物類(厨芥類)	-	0.08	0.0004	0.29	0.03	0.200
食品類	-	0.08	0.0004	0.29	0.03	0.200
手付かずの食品	16	0.004	0.000	0.01	0.00	0.200
食べ残し	17	0.08	0.000	0.27	0.02	0.200
調理くず (可食部分)	18					
調理くず (不可食部分)	19					
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	0.004	0.0001	0.01	0.01	0.040
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	0.004	0.0001	0.01	0.01	0.040
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.004	0.00001	0.01	0.00	0.400
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	0.004	0.00001	0.01	0.00	0.400
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.142	0.0021	0.48	0.13	0.066
可燃物類(プラスチック類)	-	0.62	0.0391	2.12	2.39	0.016
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋(収集袋)	29	0.60	0.039	2.04	2.38	0.015
その他プラスチック類	30	0.02	0.0001	0.07	0.01	0.157
可燃物類(その他)	31	0.07	0.0004	0.25	0.02	0.206

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-15 組成分析調査結果2（西部地域：プラスチック資源）

項目	西部（プラスチック資源）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-					
金属類	-					
スチール缶	32					
スプレー缶	33					
汚れたスチール缶	34					
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36					
その他金属類	37					
ガラス類	-					
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40					
汚れたワンウェイびん	41					
その他ガラス類	42					
その他	-					
陶磁器類	43					
小型家電製品	44					
複合素材	45					
医療系	46					
乾電池	47					
ボタン電池	48					
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52					
プラスチック類(分別回収対象)	-	27.45	1.552	93.49	94.72	0.018
レジ袋	-	0.46	0.034	1.56	2.08	0.013
リサイクルできるレジ袋	53	0.02	0.001	0.05	0.06	0.015
リサイクルできないレジ袋	54	0.44	0.033	1.51	2.01	0.013
発泡トレイ	-	1.44	0.295	4.89	18.00	0.005
リサイクルできる発泡トレイ	55	1.05	0.230	3.56	14.04	0.005
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.39	0.065	1.33	3.97	0.006
発泡スチロール	-	0.28	0.032	0.95	1.95	0.009
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.27	0.031	0.91	1.89	0.009
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.01	0.001	0.04	0.06	0.013
透明トレイ	-	3.54	0.355	12.06	21.67	0.010
リサイクルできる透明トレイ	59	2.73	0.275	9.30	16.78	0.010
リサイクルできない透明トレイ	60	0.81	0.080	2.76	4.88	0.010
その他のプラ製容器包装	-	16.10	0.670	54.83	40.89	0.024
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	11.31	0.505	38.52	30.82	0.022
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	4.79	0.165	16.31	10.07	0.029
容器包装以外のプラスチック類	-	5.64	0.166	19.20	10.13	0.034
リサイクルできるもの	63	3.40	0.095	11.56	5.80	0.036
リサイクルできないもの	64	2.24	0.071	7.64	4.33	0.032
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.62	0.028	2.09	1.73	0.022
ペットボトル	-	0.62	0.028	2.09	1.73	0.022
リサイクルできるペットボトル	65	0.19	0.008	0.63	0.49	0.023
リサイクルできないペットボトル	66	0.43	0.020	1.46	1.24	0.021
選別残渣	67					
総合計		29.36	1.639	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

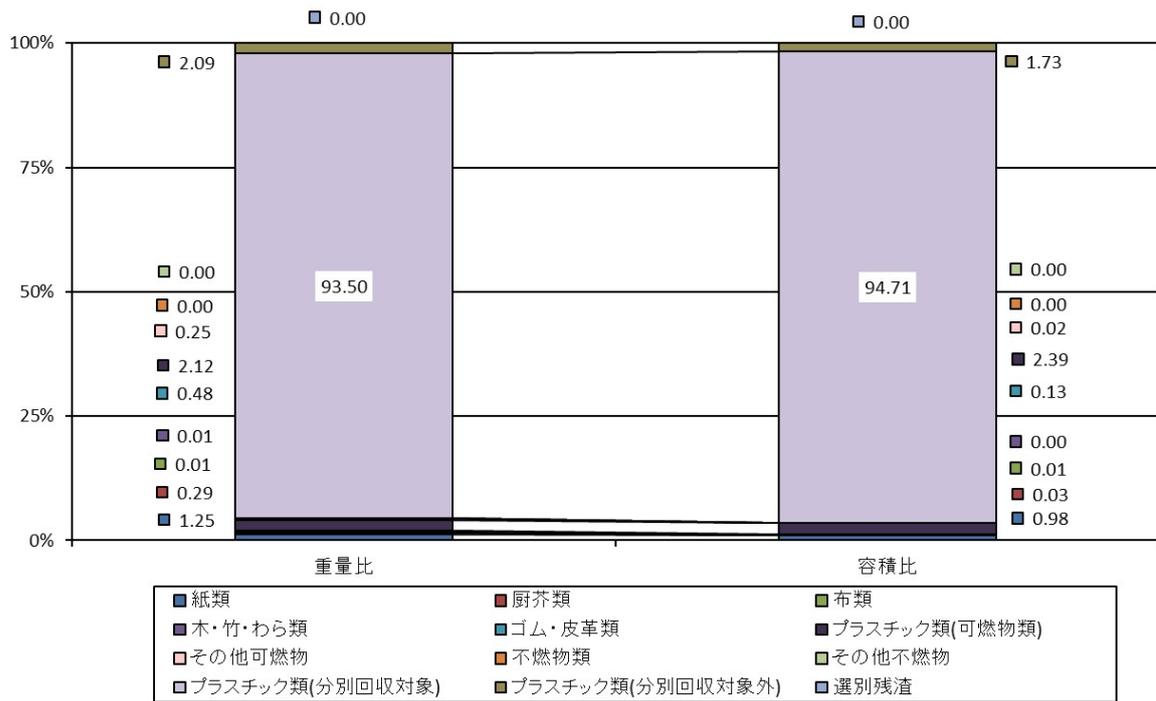


図2-30 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：プラスチック資源）

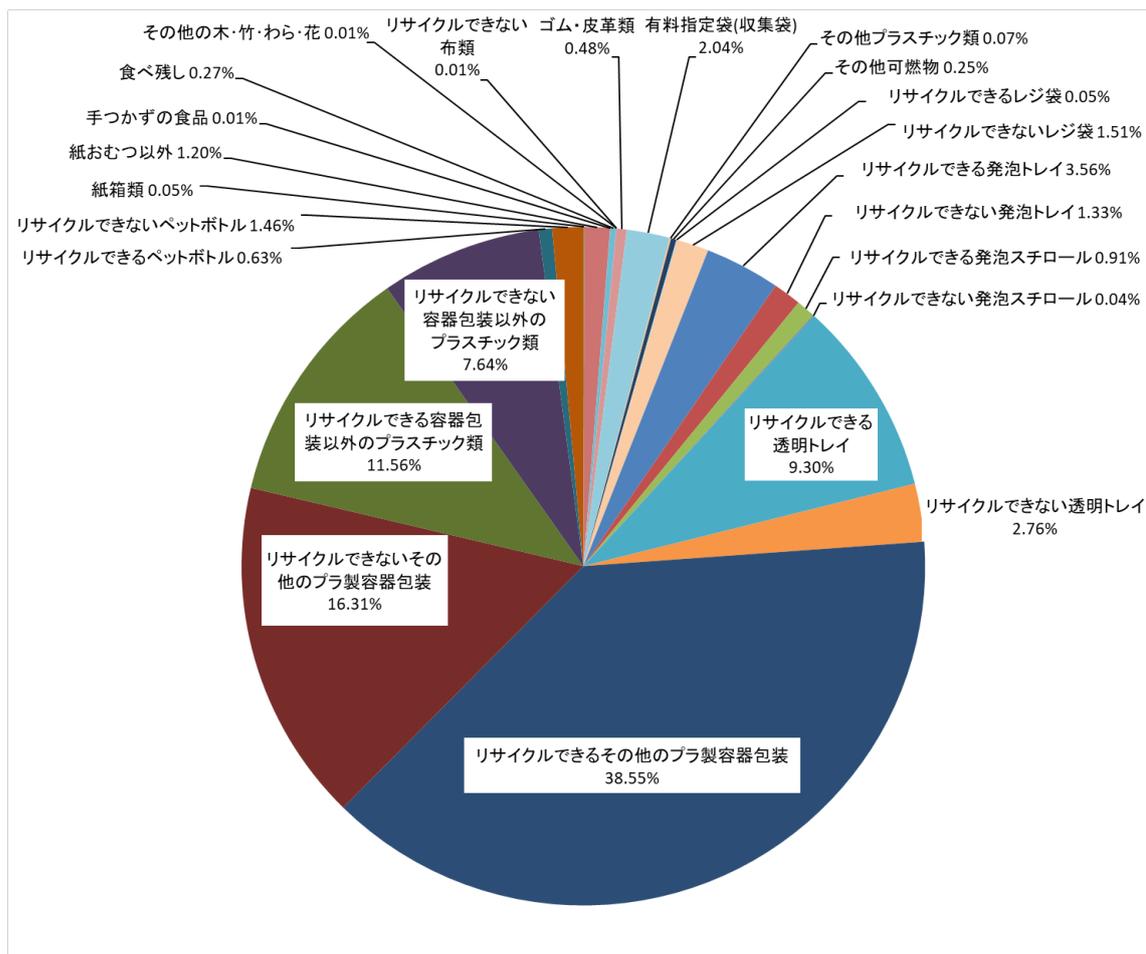


図2-31 プラスチック資源中の各品目の構成比（重量比：西部地域）

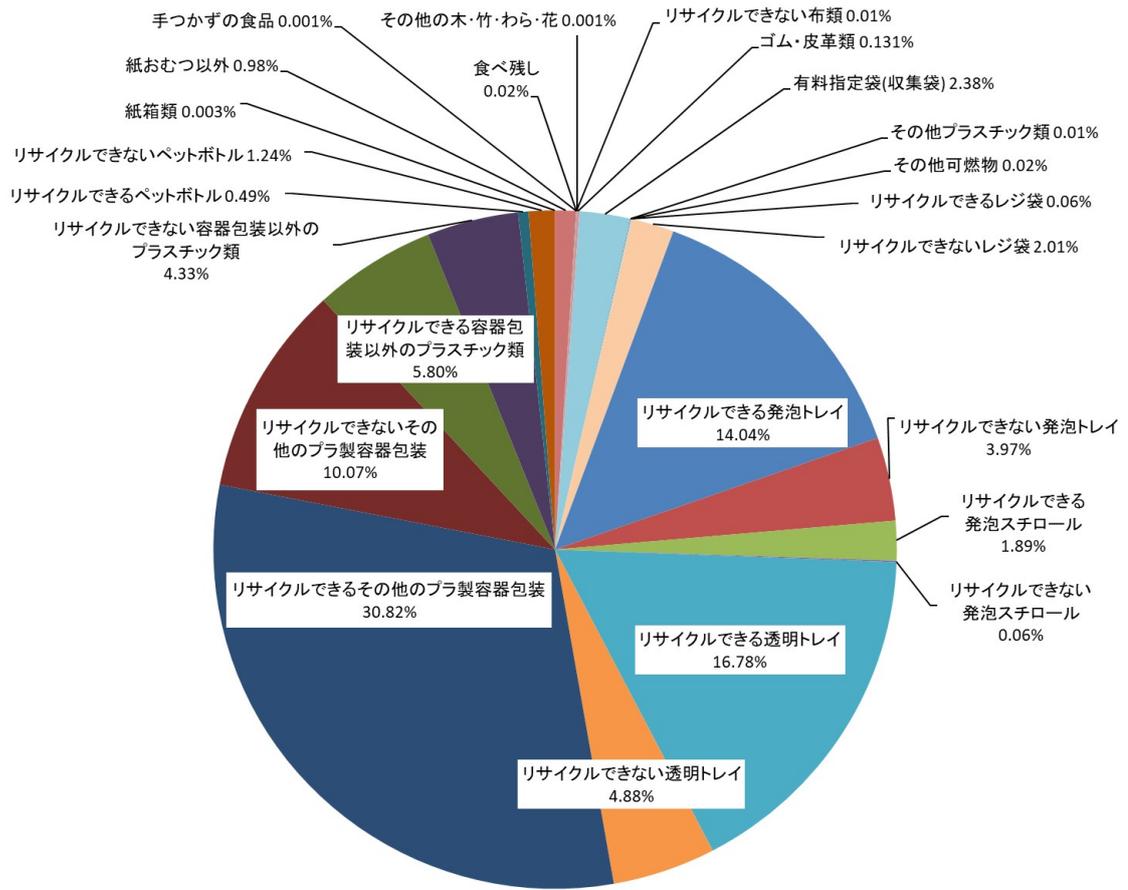


図2-32 プラスチック資源中の各品目の構成比（容積比：西部地域）

表 2-16 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する組成分析調査結果
(西部地域：プラスチック資源)

項目	西部（プラスチック資源）			
	重量・容積		重量比・容積比	
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)
容器包装プラスチック	21.08	1.320	71.77	80.56
発泡トレイ	1.44	0.295	4.89	18.00
リサイクルできる発泡トレイ	1.05	0.230	3.56	14.04
リサイクルできない発泡トレイ	0.39	0.065	1.33	3.97
透明トレイ	3.54	0.355	12.06	21.67
リサイクルできる透明トレイ	2.73	0.275	9.30	16.78
リサイクルできない透明トレイ	0.81	0.080	2.76	4.88
その他のプラ製容器包装	16.10	0.670	54.83	40.89
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	11.31	0.505	38.52	30.82
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	4.79	0.165	16.31	10.07
製品プラスチック	6.38	0.232	21.71	14.16
レジ袋	0.46	0.034	1.56	2.08
リサイクルできるレジ袋	0.02	0.001	0.05	0.06
リサイクルできないレジ袋	0.44	0.033	1.51	2.01
発泡スチロール	0.28	0.032	0.95	1.95
リサイクルできる発泡スチロール	0.27	0.031	0.91	1.89
リサイクルできない発泡スチロール	0.01	0.001	0.04	0.06
容器包装以外のプラスチック類	5.64	0.166	19.20	10.13
リサイクルできるもの	3.40	0.095	11.56	5.80
リサイクルできないもの	2.24	0.071	7.64	4.33
プラスチック資源(非該当)	1.31	0.048	4.47	2.90
食べ残しなど「プラスチック資源」以外のもの	0.70	0.019	2.37	1.17
ペットボトル	0.62	0.028	2.09	1.73
有料指定袋(収集袋)	0.60	0.039	2.04	2.38
総合計	29.36	1.639	100	100

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

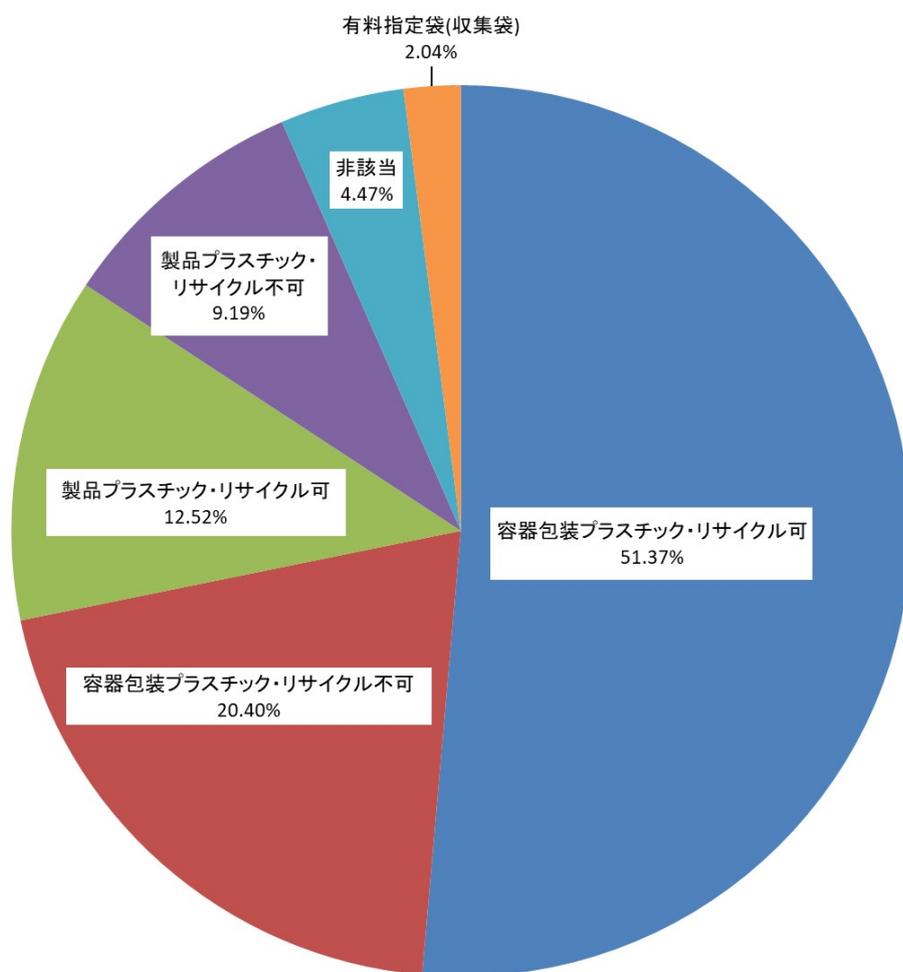


図2-33 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（重量比：西部地域）

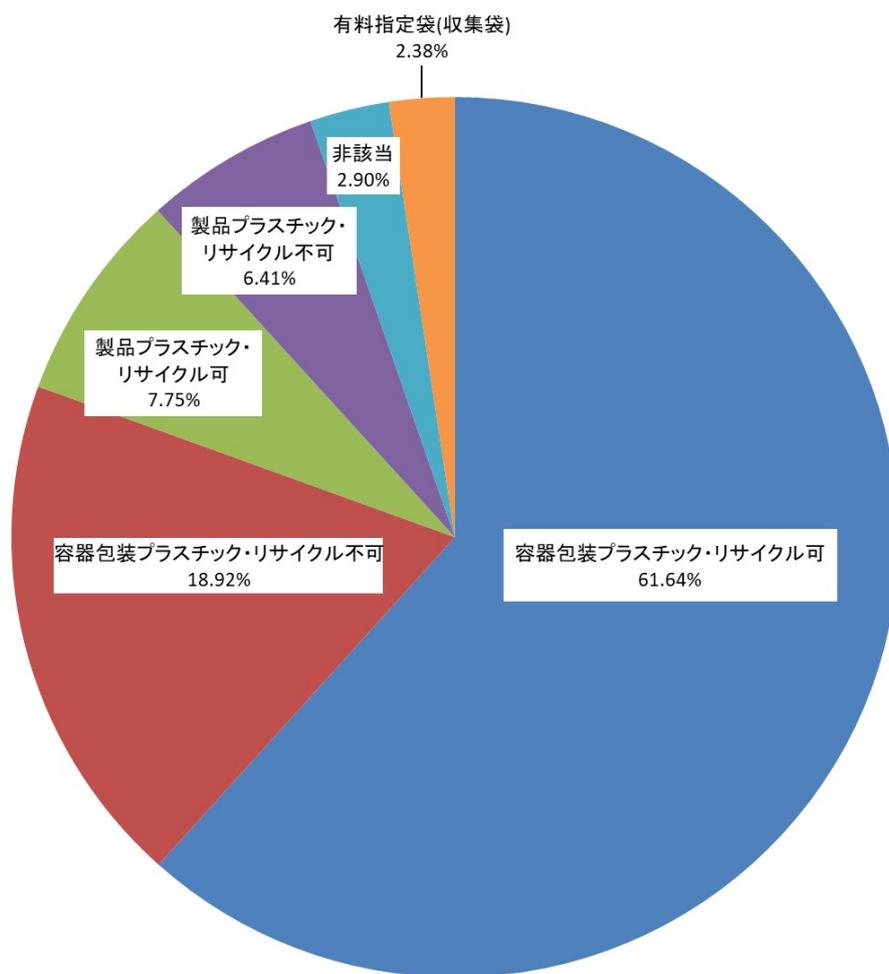


図2-34 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（容積比：西部地域）

(3) 東部地域

今回実施した東部地域のプラスチック資源の組成分析調査の調査結果を表 2-17 に示した。東部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（91.5%）の 1 種類のみであった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 73.6%、製品プラスチックの割合が約 17.8%であった（表 2-18 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（49.4%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（24.3%）の構成割合が高かった。

次に東部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（95.8%）の 1 種類であった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 82.6%、製品プラスチックの割合が約 13.2%であった（表 2-18 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（57.7%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（24.9%）の構成割合が高かった。

図 2-35 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともにプラスチック類（分別回収対象）の構成割合が高かった。また、プラスチック資源中の各品目の構成比を図 2-36～37 に示した。重量比、容積比ともに容器包装プラスチックでリサイクルできるものの構成割合が高いことがわかった。

次に、プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比を表 2-18、図 2-38～39 に示した。重量比においては、容器包装プラスチック・リサイクル可が 49.4%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 24.3%で 2 番目に多かった。容積比においても、容器包装プラスチック・リサイクル可が 57.7%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 24.9%で 2 番目に多かった。

表2-17 組成分析調査結果 1 (東部地域：プラスチック資源)

項目	東部 (プラスチック資源)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	0.45	0.013	1.52	0.74	0.033
飲料用パック (アルミ不使用)	-	0.03	0.000	0.10	0.02	0.070
500ml 以上	1					
500ml 未満	2	0.03	0.000	0.10	0.02	0.070
ダンボール	3					
新聞紙・チラシ	-					
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5					
チラシ	6					
再利用したチラシ	7					
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-					
紙箱類	9					
紙包装類	10					
OA用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.42	0.013	1.42	0.72	0.032
紙おむつ以外	14	0.42	0.013	1.42	0.72	0.032
紙おむつ	15					
可燃物類(厨芥類)	-	0.06	0.0003	0.20	0.02	0.214
食品類	-	0.06	0.0003	0.20	0.02	0.214
手付かずの食品	16	0.02	0.000	0.08	0.01	0.177
食べ残し	17	0.04	0.000	0.13	0.01	0.247
調理くず (可食部分)	18					
調理くず (不可食部分)	19					
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	0.02	0.0001	0.07	0.01	0.200
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	0.02	0.0001	0.07	0.01	0.200
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.006	0.00005	0.02	0.00	0.120
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	0.006	0.00005	0.02	0.00	0.120
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.19	0.0012	0.63	0.07	0.155
可燃物類(プラスチック類)	-	0.81	0.0417	2.77	2.30	0.019
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋(収集袋)	29	0.63	0.041	2.14	2.26	0.015
その他プラスチック類	30	0.18	0.0007	0.62	0.04	0.261
可燃物類(その他)	31	0.21	0.0006	0.71	0.03	0.348

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-17 組成分析調査結果2（東部地域：プラスチック資源）

項目	東部（プラスチック資源）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	0.26	0.001	0.88	0.04	0.370
金属類	-	0.14	0.001	0.48	0.03	0.280
スチール缶	32					
スプレー缶	33	0.14	0.001	0.48	0.03	0.280
汚れたスチール缶	34					
アルミ缶	35					
汚れたアルミ缶	36					
その他金属類	37					
ガラス類	-	0.08	0.0001	0.27	0.01	0.800
リターナブルびん	38					
汚れたリターナブルびん	39					
ワンウェイびん	40	0.08	0.0001	0.27	0.01	0.800
汚れたワンウェイびん	41					
その他ガラス類	42					
その他	-	0.04	0.0001	0.13	0.01	0.390
陶磁器類	43					
小型家電製品	44	0.04	0.0001	0.13	0.01	0.390
複合素材	45					
医療系	46					
乾電池	47					
ボタン電池	48					
リチウムイオン電池	49					
水銀入りの体温計・血圧計	50					
蛍光灯	51					
その他不燃物	52					
プラスチック類(分別回収対象)	-	26.86	1.735	91.45	95.80	0.015
レジ袋	-	0.43	0.029	1.45	1.60	0.015
リサイクルできるレジ袋	53					
リサイクルできないレジ袋	54	0.43	0.029	1.45	1.60	0.015
発泡トレイ	-	1.67	0.315	5.67	17.40	0.005
リサイクルできる発泡トレイ	55	1.19	0.225	4.05	12.43	0.005
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.48	0.090	1.62	4.97	0.005
発泡スチロール	-	0.10	0.012	0.35	0.64	0.009
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.06	0.006	0.19	0.33	0.009
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.05	0.006	0.17	0.31	0.009
透明トレイ	-	4.13	0.440	14.04	24.30	0.009
リサイクルできる透明トレイ	59	2.99	0.310	10.16	17.12	0.010
リサイクルできない透明トレイ	60	1.14	0.130	3.88	7.18	0.009
その他のプラ製容器包装	-	15.84	0.740	53.90	40.87	0.021
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	10.33	0.510	35.15	28.17	0.020
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	5.51	0.230	18.76	12.70	0.024
容器包装以外のプラスチック類	-	4.71	0.199	16.03	10.99	0.024
リサイクルできるもの	63	2.52	0.130	8.56	7.18	0.019
リサイクルできないもの	64	2.20	0.069	7.47	3.81	0.032
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.52	0.018	1.75	0.99	0.029
ペットボトル	-	0.52	0.018	1.75	0.99	0.029
リサイクルできるペットボトル	65	0.44	0.017	1.48	0.92	0.026
リサイクルできないペットボトル	66	0.08	0.001	0.27	0.07	0.062
選別残渣	67					
総合計		29.38	1.810	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

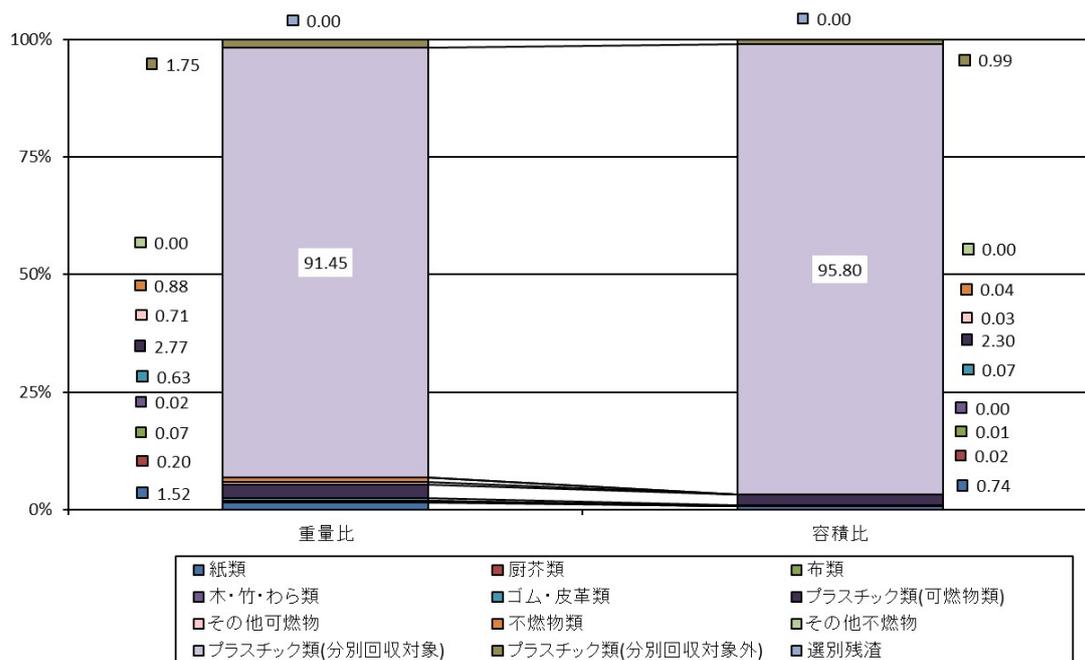


図2-35 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：プラスチック資源）

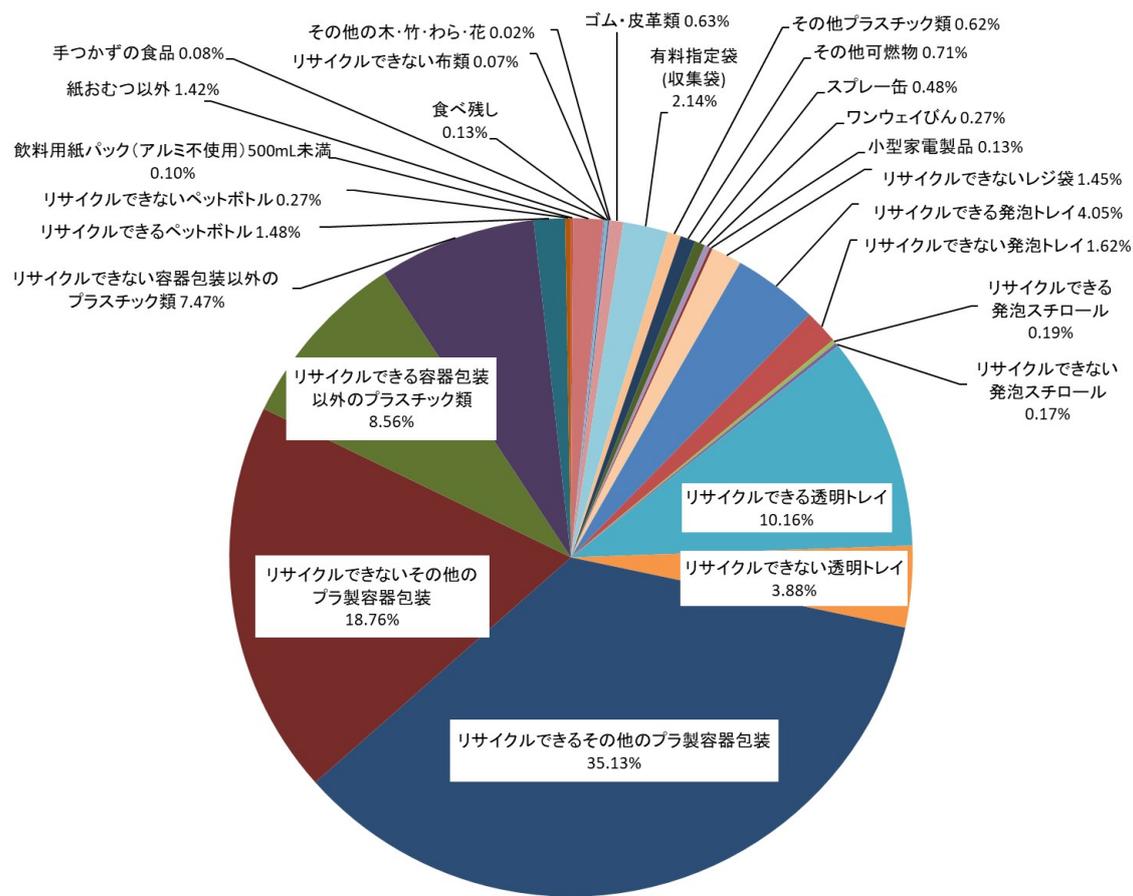


図2-36 プラスチック資源中の各品目の構成比（重量比：東部地域）

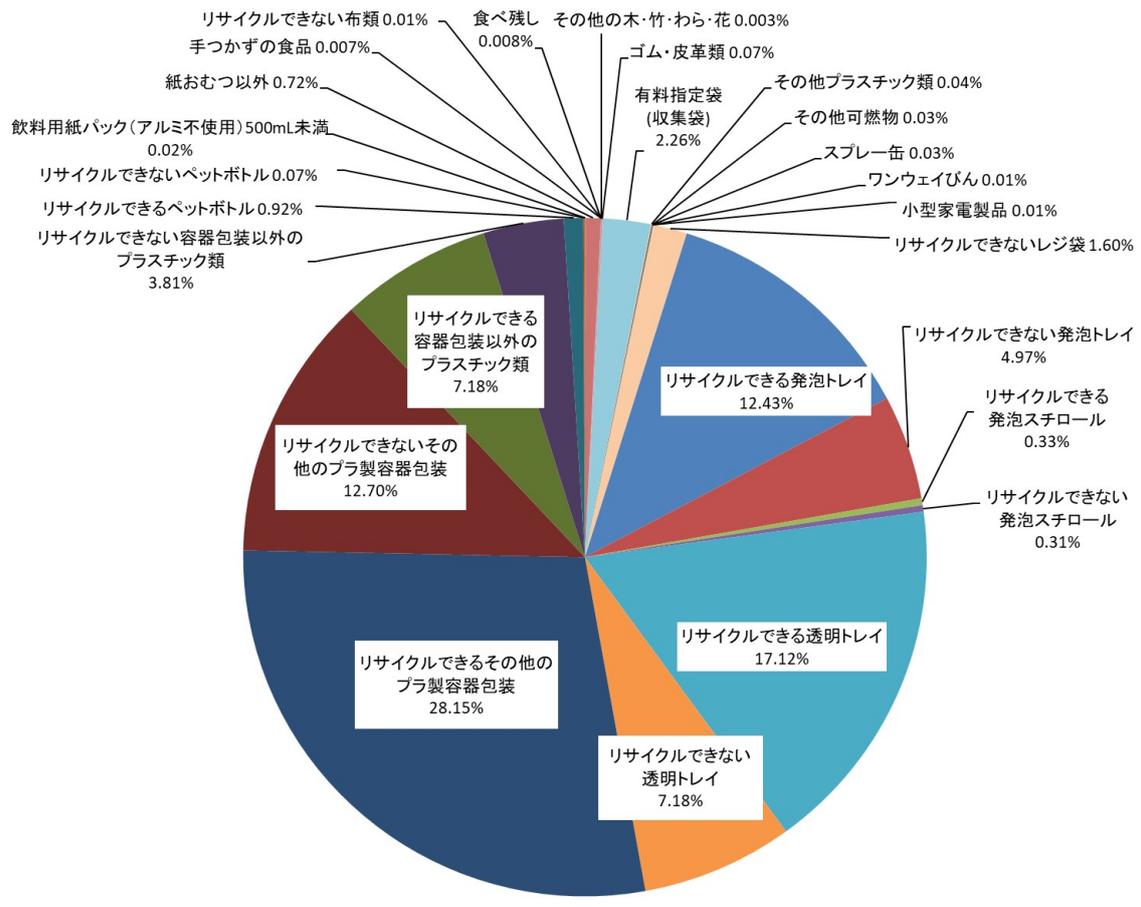


図2-37 プラスチック資源中の各品目の構成比（容積比：東部地域）

表 2-18 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する組成分析調査結果

(東部地域：プラスチック資源)

項目	東部（プラスチック資源）			
	重量・容積		重量比・容積比	
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)
容器包装プラスチック	21.63	1.495	73.61	82.58
発泡トレイ	1.67	0.315	5.67	17.40
リサイクルできる発泡トレイ	1.19	0.225	4.05	12.43
リサイクルできない発泡トレイ	0.48	0.090	1.62	4.97
透明トレイ	4.13	0.440	14.04	24.30
リサイクルできる透明トレイ	2.99	0.310	10.16	17.12
リサイクルできない透明トレイ	1.14	0.130	3.88	7.18
その他のプラ製容器包装	15.84	0.740	53.90	40.87
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	10.33	0.510	35.15	28.17
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	5.51	0.230	18.76	12.70
製品プラスチック	5.24	0.240	17.83	13.23
レジ袋	0.43	0.029	1.45	1.60
リサイクルできるレジ袋				
リサイクルできないレジ袋	0.43	0.029	1.45	1.60
発泡スチロール	0.10	0.012	0.35	0.64
リサイクルできる発泡スチロール	0.06	0.006	0.19	0.33
リサイクルできない発泡スチロール	0.05	0.006	0.17	0.31
容器包装以外のプラスチック類	4.71	0.199	16.03	10.99
リサイクルできるもの	2.52	0.130	8.56	7.18
リサイクルできないもの	2.20	0.069	7.47	3.81
プラスチック資源(非該当)	1.88	0.035	6.41	1.93
食べ残しなど「プラスチック資源」以外のもの	1.37	0.017	4.66	0.94
ペットボトル	0.52	0.018	1.75	0.99
有料指定袋(収集袋)	0.63	0.041	2.14	2.26
合計	29.38	1.810	100	100

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

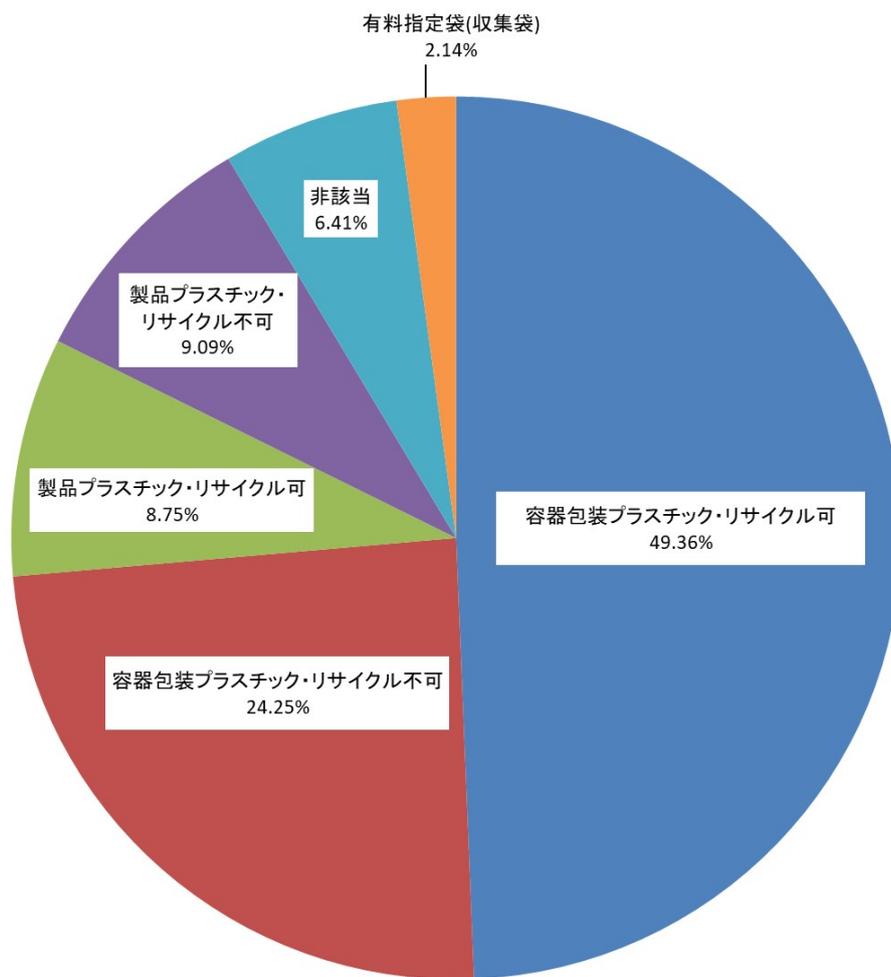


図2-38 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（重量比：東部地域）

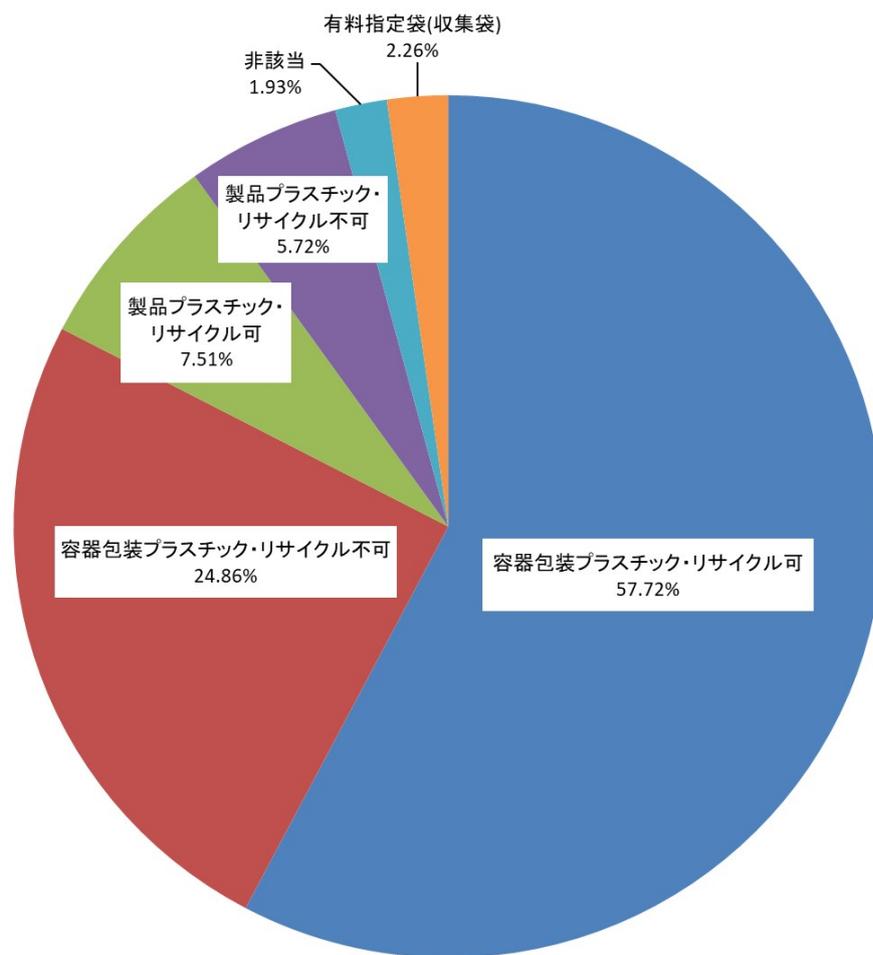


図2-39 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（容積比：東部地域）

(4) プラスチック資源組成調査結果の比較

今回実施した大分類組成分析調査結果を表 2-19、図 2-40～41 に示した。西部、東部、全域で重量比、容積比ともにプラスチック類(分別回収対象)が最も多く、続いてプラスチック類(分別回収対象外)が多かった。

表2-19 大分類組成分析調査結果の比較(プラスチック資源)

分類		項目	全域-プラスチック資源(重量比)(%)			全域-プラスチック資源(容積比)(%)		
			西部	東部	全域	西部	東部	全域
可燃物類	紙類		1.25	1.52	1.38	0.98	0.74	0.85
	厨芥類		0.29	0.20	0.25	0.03	0.02	0.02
	布類		0.01	0.07	0.04	0.01	0.01	0.01
	木・竹・わら類		0.01	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00
	ゴム・皮革類		0.48	0.63	0.56	0.13	0.07	0.10
	プラスチック類		2.12	2.77	2.44	2.39	2.30	2.34
	うち 有料指定袋(収集袋)		2.04	2.14	2.09	2.38	2.26	2.32
	その他		0.25	0.71	0.48	0.02	0.03	0.030
不燃物類	不燃物類		0.00	0.88	0.44	0.00	0.04	0.02
	その他(不燃物)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
プラスチック類	分別回収対象		93.50	91.45	92.47	94.71	95.80	95.29
	分別回収対象外		2.09	1.75	1.92	1.73	0.99	1.34
	選別残渣		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	合計		100	100	100	100	100	100

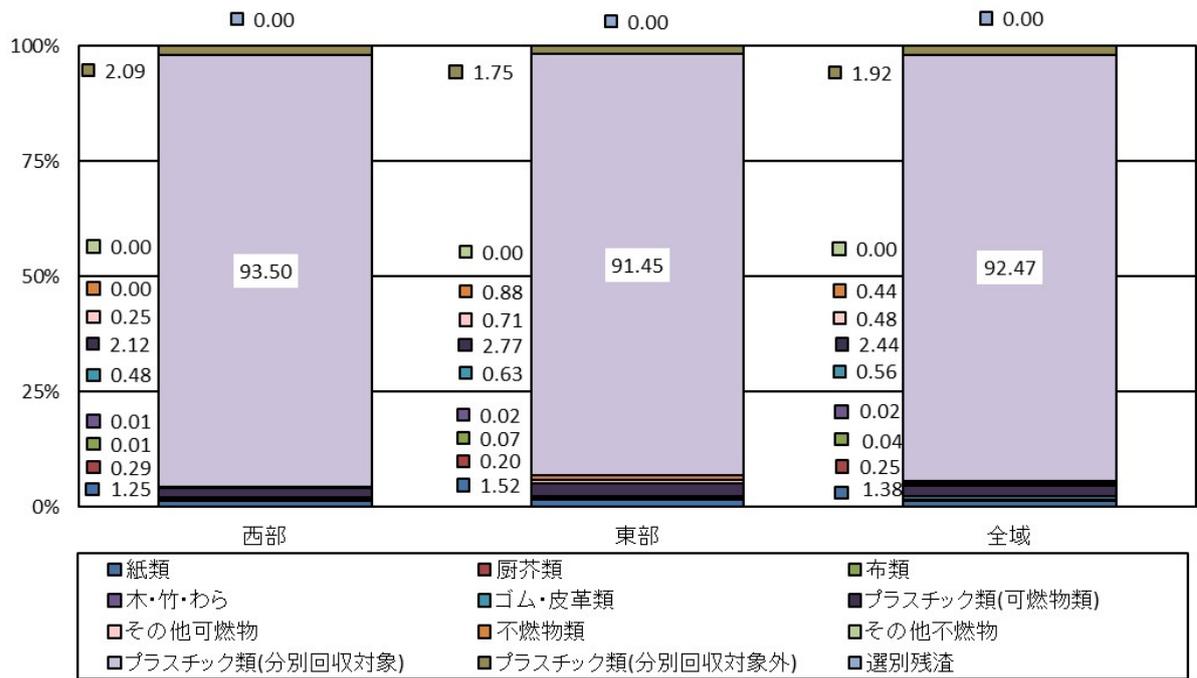


図2-40 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：プラスチック資源）

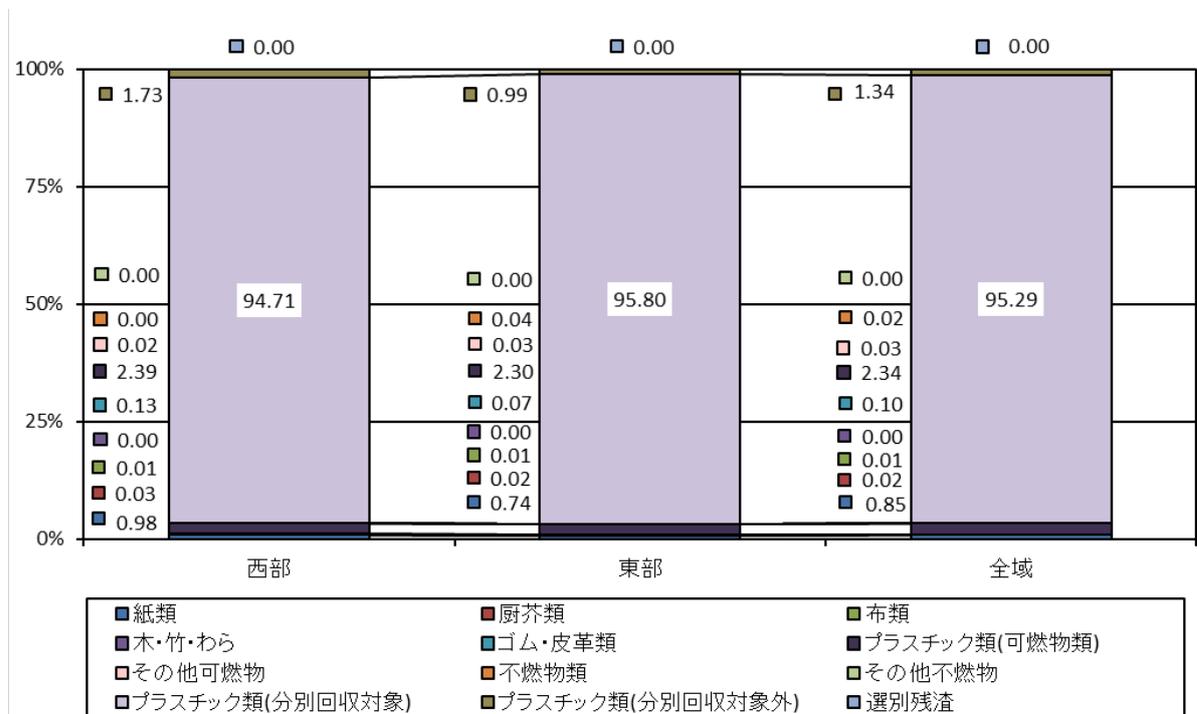


図2-41 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：プラスチック資源）

第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみの適正分別の状況把握を行っている。

1 可燃ごみの状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表2-20、図2-42に示した。

可燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地域で約93.5%（R5：88.2%）、東部地域で約94.3%（R5：88.4%）となっており、本市全域で見ると約93.9%（R5：88.3%）と、適正分別の構成比は増加していた。

可燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約5.5%（R5：9.7%）であり、昨年度の構成比と比較して減少していた。混入している資源化物としては、図2-43に示すように紙箱類の構成比が高かった。混入していた不燃ごみは、本市全域で約0.6%（R5：2.0%）と昨年度と比較して減少していた。

表2-20 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	6.07	4.97	5.52
飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml以上	0.50	0.71	0.61
ダンボール	0.61	0.56	0.59
新聞紙	0.00	0.22	0.11
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.11	0.05
紙箱類	2.53	2.13	2.33
紙包装類	0.01	0.01	0.01
OA用紙	0.44	0.05	0.25
シュレッダーくず	0.00	0.01	0.00
その他の雑紙	0.22	0.06	0.14
リサイクルできる布類	0.38	0.07	0.22
スチール缶	0.01	0.00	0.01
スプレー缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.05	0.18	0.12
小型家電製品	0.16	0.10	0.13
乾電池	0.04	0.04	0.04
ボタン電池	0.00	0.01	0.01
リチウムイオン電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.01	0.04	0.03
リサイクルできる発泡トレイ	0.01	0.01	0.01
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.02	0.01	0.02
リサイクルできるその他プラ製容器包装	0.11	0.19	0.15
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.69	0.29	0.49
リサイクルできるペットボトル	0.26	0.16	0.21
混入していた不燃ごみ	0.39	0.73	0.56
適正な分別(可燃ごみ)	93.54	94.29	93.92
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

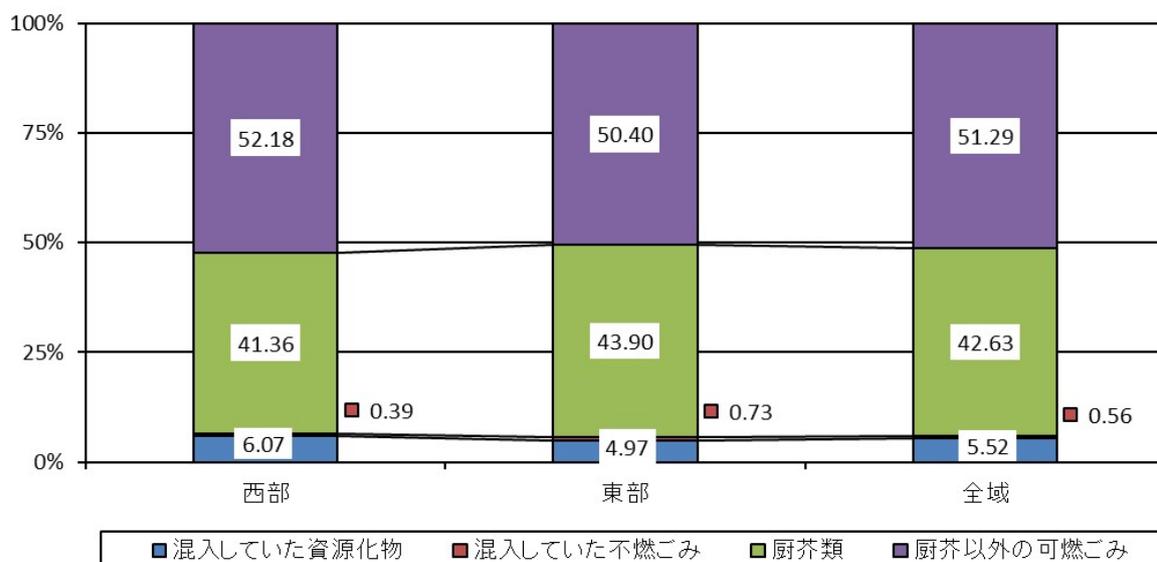


図2-42 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

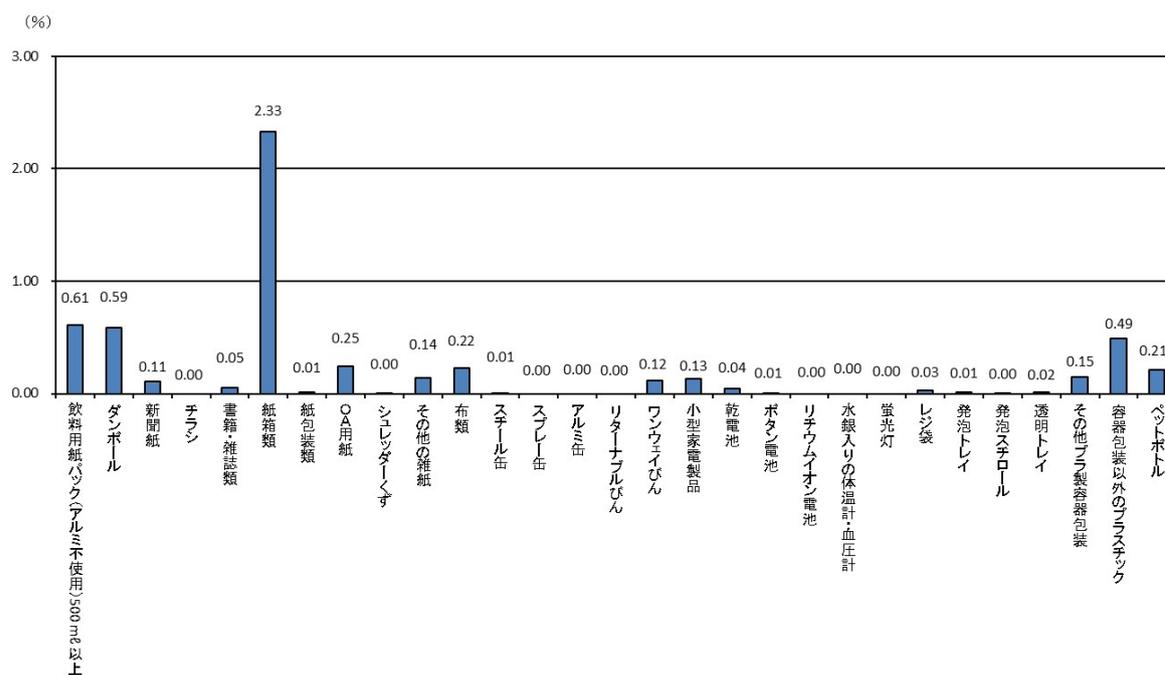


図2-43 可燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

2 不燃ごみの状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表 2-21、図 2-44 に示した。

不燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地域で約 70.8% (R5 : 71.8%)、東部地域で約 63.1% (R5 : 57.6%) となっており、本市全域で見ると約 66.9% (R5 : 64.5%) と、適正分別の構成比は増加していた。

不燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約 20.2% (R5 : 21.5%) であり、昨年度の構成比と比較して減少していた。混入している資源化物としては、図 2-45 に示すように小型家電製品が主体であった。混入していた可燃ごみは、本市全域で約 12.8% (R5 : 14.0%) と昨年度の構成比と比較してわずかに減少していた。

表2-21 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況 (重量比)

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
混入していた資源化物	18.94	21.53	20.24
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.00	0.00	0.00
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.06	0.00	0.03
紙箱類	0.29	0.22	0.26
紙包装類	0.08	0.00	0.04
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる布類	0.00	0.00	0.00
スチール缶	0.16	0.15	0.16
スプレー缶	1.72	2.97	2.35
アルミ缶	0.04	0.00	0.02
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.84	0.05	0.45
小型家電製品	14.60	16.67	15.64
乾電池	0.27	0.22	0.24
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウムイオン電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるその他プラ製容器包装	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.89	1.25	1.07
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
混入していた可燃ごみ	10.26	15.40	12.84
適正な分別(不燃ごみ)	70.80	63.07	66.92
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

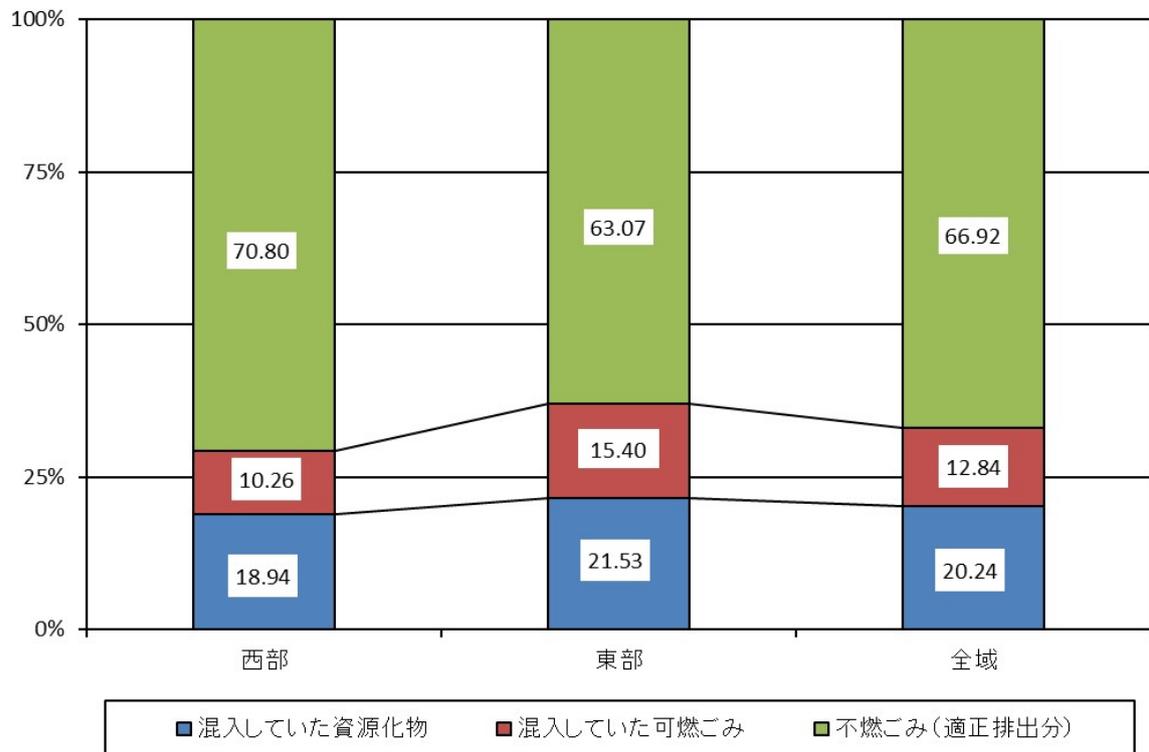


図2-44 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

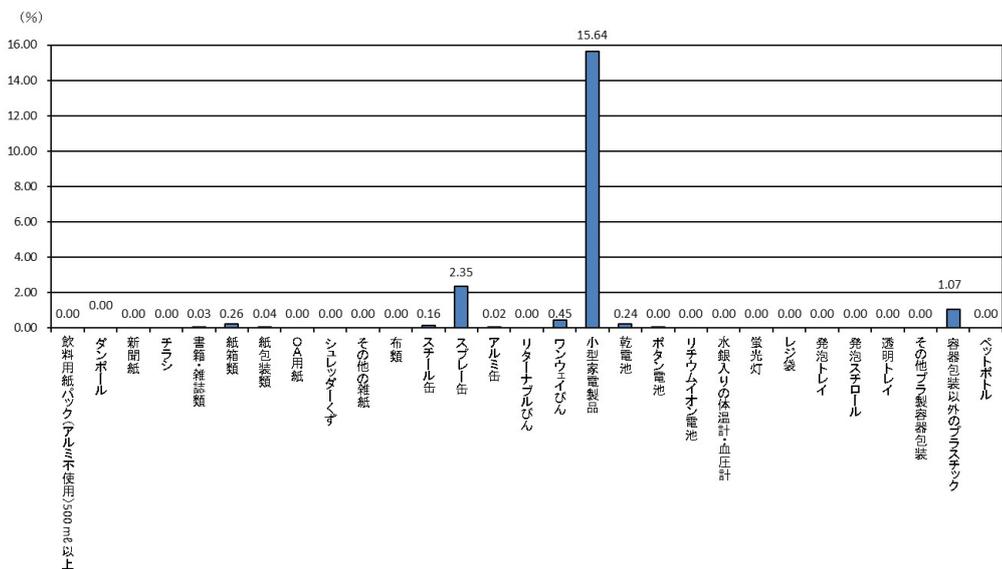


図2-45 不燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

3 プラスチック資源の状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域のプラスチック資源への区分以外の混入状況を、表 2-22、図 2-46 に示した。

プラスチック資源として適正に排出されている資源は西部地域で約 93.5%、東部地域で約 91.5%となっており、本市全域で見ると約 92.5%であった。

表2-22 プラスチック資源への区分以外の混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた可燃物類	4.42	5.92	5.17
混入していた不燃物類	0.00	0.88	0.44
混入していたプラスチック類(分別回収対象外)	2.09	1.75	1.92
リサイクルできるペットボトル	0.63	1.48	1.06
リサイクルできないペットボトル	1.46	0.27	0.87
分別対象回収(プラスチック資源)	93.49	91.45	92.47
リサイクルできるレジ袋	0.05	0.00	0.03
リサイクルできないレジ袋	1.51	1.45	1.48
リサイクルできる発泡トレイ	3.56	4.05	3.80
リサイクルできない発泡トレイ	1.33	1.62	1.47
リサイクルできる発泡スチロール	0.91	0.19	0.55
リサイクルできない発泡スチロール	0.04	0.17	0.11
リサイクルできる透明トレイ	9.30	10.16	9.73
リサイクルできない透明トレイ	2.76	3.88	3.32
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	38.52	35.15	36.83
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	16.31	18.76	17.53
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	11.56	8.56	10.06
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできないもの	7.64	7.47	7.56
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-13、表2-15、表2-17に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

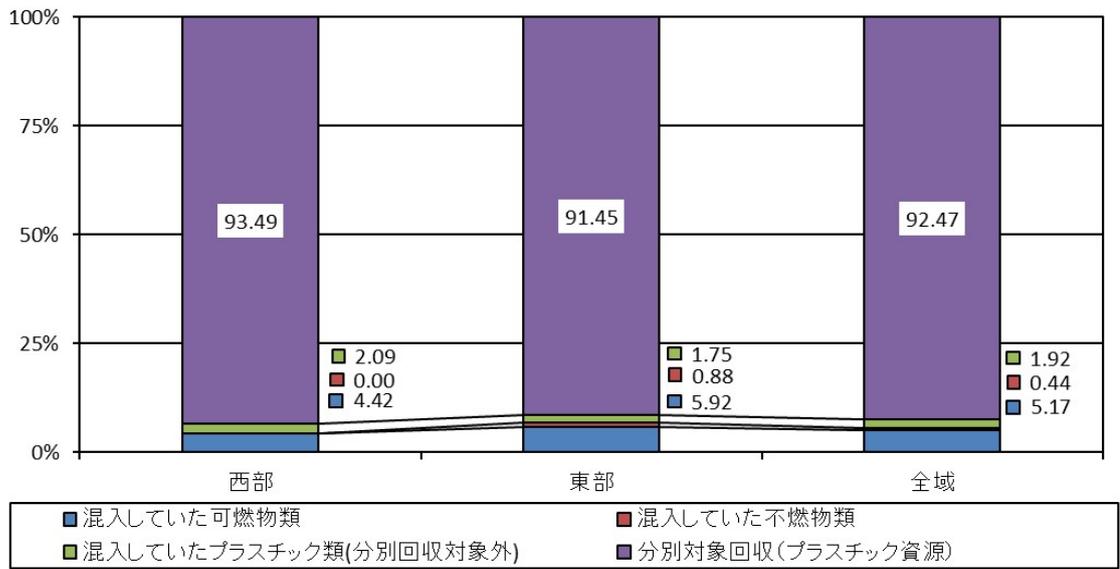


図2-46 プラスチック資源への区分以外のごみの混入状況（重量比）

4 小型家電製品の混入状況

昨年同様に混入していた小型家電製品を個別に調査した。小型家電製品の混入状況を表2-23に示した。今回の調査では、調査全体で161個の小型家電製品が混入していた。

表2-23 小型家電製品の混入状況（1）

番号	主な品名	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
		西部地域	東部地域	西部地域	東部地域	
1	電話機			1		1
2	ファクシミリ					
3	有線通信機					
4	携帯電話端末			2	4	6
5	PHS端末					
6	無線通信機			5		5
7	ラジオ受信機					
8	テレビ(家電リ法対象品以外)					
9	デジタルカメラ					
10	ビデオカメラ					
11	フィルムカメラ					
12	DVDレコーダ					
13	HDDレコーダ				1	1
14	BDレコーダ					
15	ビデオテープレコーダ					
16	チューナ			1		1
17	映像用機器					
18	携帯音楽プレーヤ					
19	MDプレーヤ					
20	CDプレーヤ			1	1	2
21	テープレコーダ					
22	ステレオセット					
23	ヘッドホン					
24	イヤホン			2	3	5
25	ICレコーダ					
26	補聴器					
27	電気音響機器					
28	パーソナルコンピュータ					
29	磁気ディスク装置			1	1	2
30	光ディスク装置					
31	USBメモリ・メモリーカード	1		1	6	8
32	パソコン用パーツ			4	2	6
33	記憶装置					
34	プリンタ					
35	印刷装置					
36	モニター				1	1
37	電子書籍端末					
38	電子辞書					
39	電子式卓上計算機					
40	事務用電気機器				1	1
41	ヘルスメーター					
42	計量用電気機器				1	1
43	測量用電気機器					
44	電子体温計					
45	電子血圧計					
46	電動式吸入器					
47	医療用電気機器				1	1
48	ヘアドライヤー			1		1
49	ヘアアイロン					
50	電気かみそり				1	1

表2-23 小型家電製品の混入状況（2）

番号	主な品名	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
		西部地域	東部地域	西部地域	東部地域	
51	電気バリカン					
52	電動歯ブラシ				1	1
53	理容用電気機器			2		2
54	懐中電灯				9	9
55	電子時計	1			1	2
56	電気時計			4	10	14
57	据置型ゲーム機			1		1
58	携帯型ゲーム機			1		1
59	ミニ電子ゲーム					
60	電子玩具				1	1
61	電動式玩具		1		3	4
62	カーナビ					
63	カーテレビ					
64	カーチューナ					
65	カーラジオ					
66	カーCDプレーヤ					
67	カーDVD					
68	カースピーカ					
69	カーアンプ					
70	ETC車載ユニット					
71	ACアダプタ	1		4	6	11
72	ケーブル・コード		1	8	9	18
73	プラグ・ジャック				4	4
74	充電器			3	1	4
75	リモコン	1		3		4
76	電動ミシン					
77	電気ドリル					
78	電動工具					
79	ジャー炊飯器					
80	電子レンジ					
81	台所用電気機器(家電リ法対象品以外)			5	9	14
82	扇風機			1		1
83	電気除湿機					
84	空調用電気機器(家電リ法対象品以外)					
85	電気アイロン					
86	電気掃除機					
87	衣料用電気機器			1		1
88	衛生用電気機器(家電リ法対象品以外)				1	1
89	電気こたつ					
90	電気ストーブ					
91	保温用電気機器				3	3
92	電気マッサージ器			6		6
93	ランニングマシン					
94	運動用電気機器					
95	電気芝刈機					
96	園芸用電気機器				2	2
97	蛍光灯器具(蛍光管を除く本体部分)					
98	電気照明器具(電球を除く本体部分)			4	4	8
99	電子楽器・電気楽器				1	1
100	その他小型家電 ※			2	3	5
合計		4	2	64	91	161

※ 上記以外のもの(例:エアレーションポンプ等)

第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみに混入する容器包装リサイクル法対象廃棄物の混入状況を把握している。

これは、プラスチック資源として排出されているプラスチックのうち容器包装プラスチックは本調査でも約73%（重量比）を占めていること、また容器包装廃棄物は使用后すぐに廃棄されるものが多く、汚れ等を除去し、適正に排出しやすいことから容器包装廃棄物に焦点をあてたものである。

1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表2-24、図2-47に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約12.2%（R5:18.0%）となっており、令和5年度と比較して減少していた。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、レジ袋、発泡トレイ、発泡スチロール、透明トレイ、その他のプラスチック製容器包装、スチール缶、スプレー缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が可燃ごみに占める割合は、本市全域で約12.2%であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、図2-46に示すように資源化対象としている紙箱類の構成比が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-24 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)	構成比(%) (本市全域)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.57	0.77	0.67	5.5	○
ダンボール	0.61	0.56	0.59	4.8	○
紙箱類	2.53	2.13	2.33	19.1	○
紙包装類	0.01	0.01	0.01	0.1	○
ペットボトル	0.56	0.70	0.63	5.2	○
レジ袋	1.14	0.97	1.06	8.7	○
発泡トレイ	0.46	0.40	0.43	3.5	○
発泡スチロール	0.01	0.02	0.01	0.1	○
透明トレイ	1.11	0.61	0.86	7.0	○
その他のプラ製容器包装	5.89	4.58	5.23	42.9	○
スチール缶	0.04	0.07	0.06	0.5	○
スプレー缶	0.00	0.00	0.00	0.0	○
アルミ缶	0.01	0.04	0.02	0.2	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	0.0	○
ワンウェイびん	0.05	0.56	0.31	2.5	○
合計	12.99	11.42	12.21	100	-

- ※ 上表のデータは表 2-1、表 2-3、表 2-5 に示した各種データを採用している。
- ※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。
- ※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 透明トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ その他のプラ製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 缶類は汚れた缶類を含む。
- ※ びん類は汚れたびん類を含む。

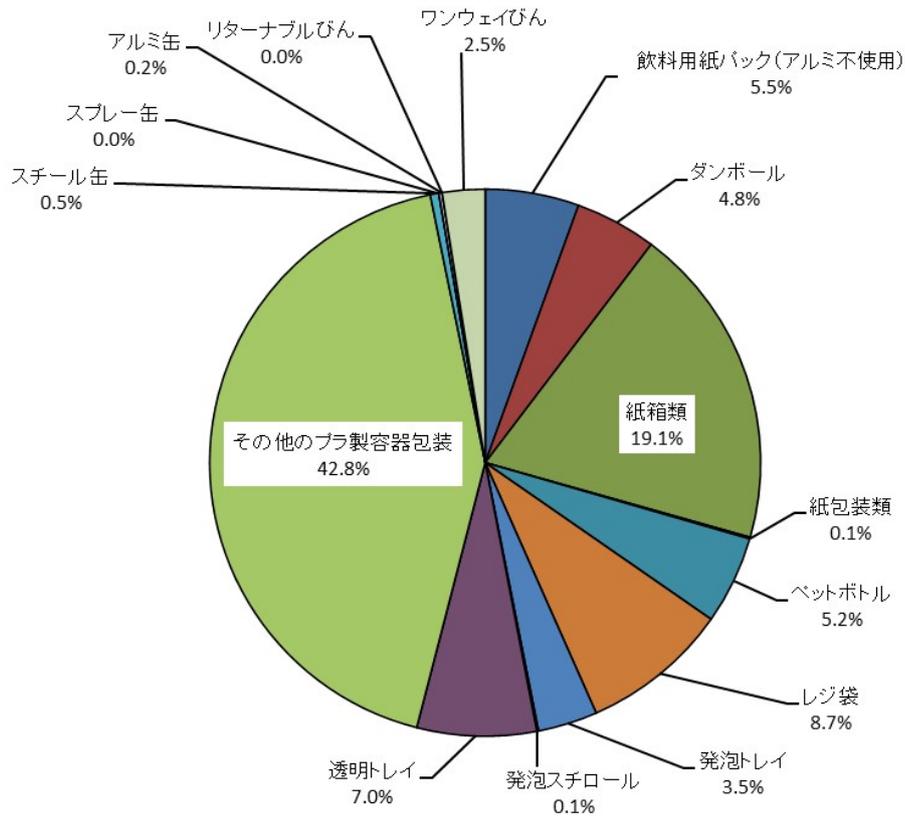


図 2-47 可燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（重量比:本市全域）

2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-25、図 2-48 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 9.1%（R5：17.7%）となっており、令和 5 年度と比較して大きく減少していた。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、レジ袋、発泡トレイ、発泡スチロール、透明トレイ、その他のプラスチック製容器包装、スチール缶、スプレー缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が不燃ごみに占める割合は、本市全域で約 9.1%であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、図 2-48 に示すようにスチール缶、スプレー缶、ワンウェイびんの構成比が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-25 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)	構成比(%) (本市全域)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.00	0.00	0.00	0.0	○
ダンボール	0.00	0.00	0.00	0.0	○
紙箱類	0.29	0.22	0.26	2.8	○
紙包装類	0.08	0.00	0.04	0.4	○
ペットボトル	0.00	0.04	0.02	0.2	○
レジ袋	0.14	0.20	0.17	1.9	○
発泡トレイ	0.00	0.00	0.00	0.0	○
発泡スチロール	0.04	0.00	0.02	0.2	○
透明トレイ	0.00	0.01	0.00	0.0	○
その他のプラ製容器包装	0.88	1.80	1.34	14.8	○
スチール缶	0.82	1.04	0.93	10.3	○
スプレー缶	1.72	2.97	2.35	25.9	○
アルミ缶	0.10	0.02	0.06	0.7	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	0.0	○
ワンウェイびん	5.35	2.39	3.86	42.8	○
合計	9.42	8.69	9.05	100	-

- ※ 上表のデータは表 2-7、表 2-9、表 2-11 に示した各種データを採用している。
- ※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。
- ※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は 500ml 以上と 500ml 未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 透明トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ その他のプラ製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 缶類は汚れた缶類を含む。
- ※ びん類は汚れたびん類を含む。

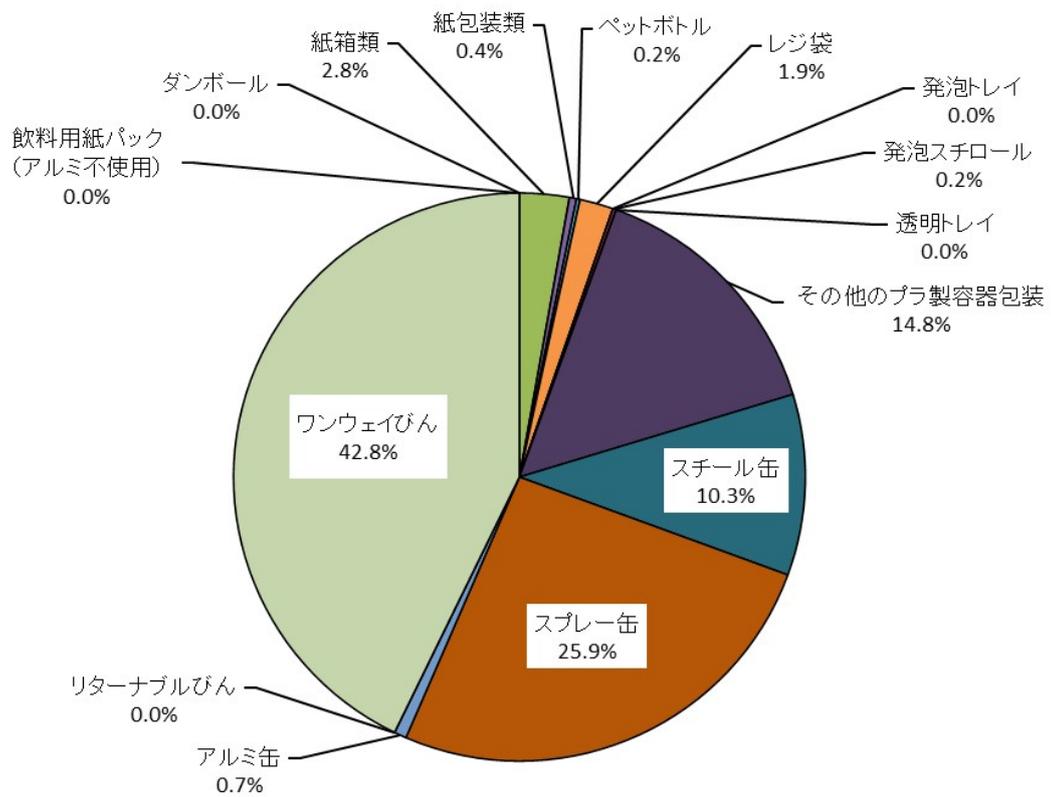


図2-48 不燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（重量比：本市全域）

第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみ中に混入している再資源化及び減量化が可能なもの全てを抽出し、再資源化や減量化がどの程度可能であるか状況の把握を行った。調査方法としては、汚れのないきれいなものと、汚れているもので組成品目を分類し、実際に再資源化できるかどうかという視点に立った検討を行っている。

1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-26 及び図 2-49、図 2-50 に示した。

本市から排出された可燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「紙類」で、全体の約 4.1% (R5 : 5.4%) を占めていた。「紙類」の構成比では、紙箱類の割合が高かった。

可燃ごみのうち再資源化・減量化が可能な分類としては、これまでの調査結果と同様に本市全域の約 40.3% (R5 : 30.6%) を占める「厨芥類」が挙げられる。本分類については、生ごみ処理容器購入費補助制度を実施していることや、厨芥類の水切りなどの啓発を実施しているが、本年度の調査結果は、昨年度と比較して増加していた。

表2-26 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100	100	100
可燃物類（紙類）	31.62	31.45	31.54
再資源化可能なもの	4.32	3.86	4.09
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.50	0.71	0.61
ダンボール	0.61	0.56	0.59
新聞紙	0.00	0.22	0.11
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.11	0.05
紙箱類	2.53	2.13	2.33
紙包装類	0.01	0.01	0.01
OA用紙	0.44	0.05	0.25
シュレッダーくず	0.00	0.01	0.00
その他の雑紙	0.22	0.06	0.14
再資源化不可能なもの	27.31	27.58	27.45
可燃物類（厨芥類）	41.36	43.90	42.63
再資源化・減量化が可能なもの	39.11	41.45	40.28
手付かずの食品	3.79	6.85	5.31
食べ残し	8.33	8.39	8.36
調理くず（可食部分）	2.97	4.19	3.58
調理くず（不可食部分）	24.02	22.02	23.02
再資源化・減量化が不可能なもの	2.25	2.45	2.35
可燃物類（布類）	3.20	2.55	2.88
再資源化可能なもの	0.38	0.07	0.22
再資源化不可能なもの	2.82	2.49	2.65
可燃物類（木・竹・わら類）	1.96	1.64	1.80
可燃物類（ゴム・皮革類）	0.37	0.11	0.24
可燃物類（プラスチック類）	18.49	15.25	16.87
再資源化可能なもの	1.11	0.71	0.91
リサイクルできるレジ袋	0.01	0.04	0.03
リサイクルできる発泡トレイ	0.01	0.01	0.01
リサイクルできる発泡スチロール	0.002	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.02	0.01	0.02
その他プラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.11	0.19	0.15
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	0.69	0.29	0.49
リサイクルできるペットボトル	0.26	0.16	0.21
再資源化不可能なもの	17.38	14.54	15.96
可燃物類（その他）	2.34	4.01	3.18
不燃物類	0.48	1.07	0.77
再資源化可能なもの	0.32	0.42	0.37
スチール缶	0.01	0.00	0.01
スプレー缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
その他金属類	0.06	0.08	0.07
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.05	0.18	0.12
小型家電製品	0.16	0.10	0.13
乾電池	0.04	0.04	0.04
ボタン電池	0.00	0.01	0.01
リチウムイオン電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	0.16	0.65	0.41
その他不燃物	0.17	0.00	0.09
選別残渣（その他分類できないもの）	0.00	0.03	0.01

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

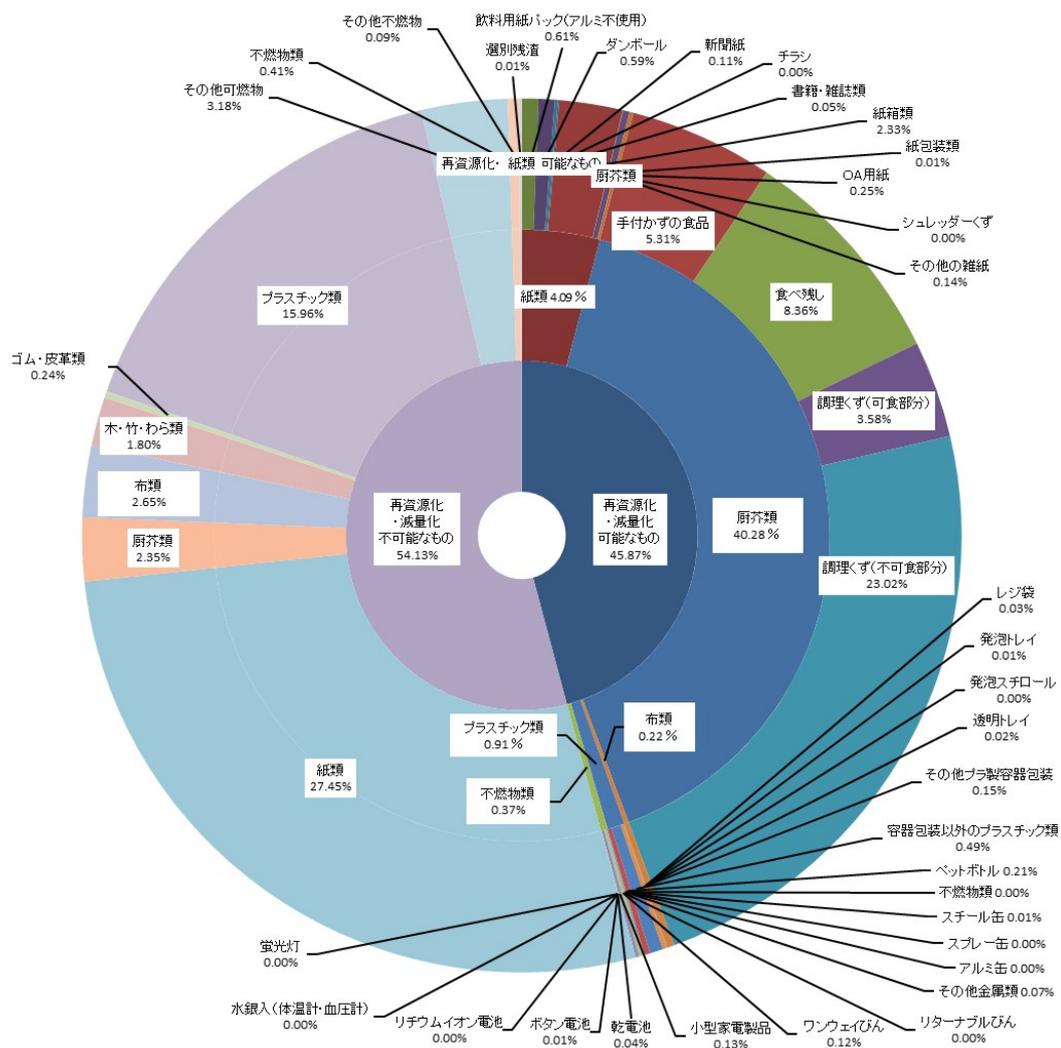


図2-49 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（重量比：本市全域）

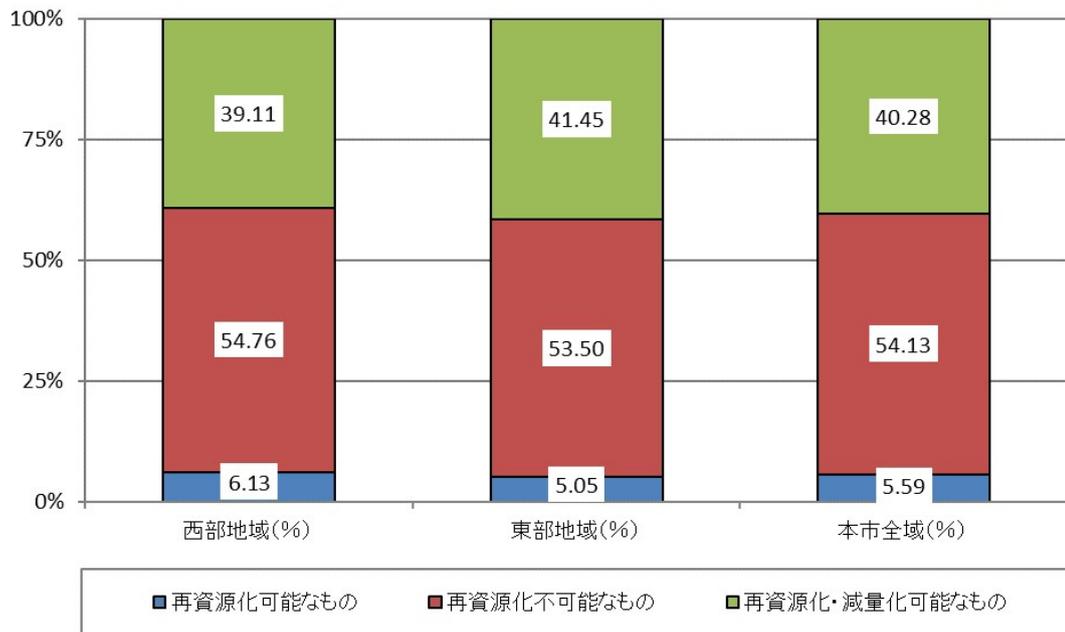


図2-50 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表 2-27 及び図 2-51、図 2-52 に示した。

本市から排出された不燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「不燃物類」であり、その他金属類、小型家電製品の占める割合が高かった。「不燃物類」の構成比は、全体の約 45.0%（R5：35.9%）を占めていた。「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」のうち再資源化が可能なものの構成比は、それぞれ約 0.3%（R5：0.6%）と約 1.1%（R5：0.0%）であった。

表2-27 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
不燃ごみ	100	100	100
可燃物類（紙類）	1.01	1.70	1.35
再資源化可能なもの	0.42	0.22	0.32
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.00	0.00	0.00
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.06	0.00	0.03
紙箱類	0.29	0.22	0.26
紙包装類	0.08	0.00	0.04
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	0.58	1.48	1.03
可燃物類（厨芥類）	1.24	0.83	1.04
再資源化・減量化が可能なもの	1.24	0.83	1.04
手付かずの食品	0.79	0.36	0.57
食べ残し	0.45	0.43	0.44
調理くず（可食部分）	0.00	0.00	0.00
調理くず（不可食部分）	0.00	0.04	0.02
再資源化・減量化が不可能なもの	0.00	0.00	0.00
可燃物類（布類）	0.25	1.19	0.72
再資源化可能なもの	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	0.25	1.19	0.72
可燃物類（木・竹・わら類）	0.19	1.37	0.78
可燃物類（ゴム・皮革類）	0.50	0.21	0.36
可燃物類（プラスチック類）	8.13	8.83	8.48
再資源化可能なもの	0.89	1.25	1.07
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
その他プラ製容器包装でリサイクルできるもの	0.00	0.00	0.00
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	0.89	1.25	1.07
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	7.24	7.58	7.41
可燃物類（その他）	0.25	2.72	1.49
不燃物類	87.32	81.99	84.65
再資源化可能なもの	46.02	43.89	44.95
スチール缶	0.16	0.15	0.16
スプレー缶	1.72	2.97	2.35
アルミ缶	0.04	0.00	0.02
その他金属類	28.39	23.83	26.10
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.84	0.05	0.45
小型家電製品	14.60	16.67	15.64
乾電池	0.27	0.22	0.24
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウムイオン電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なもの	41.30	38.10	39.70
その他不燃物	1.02	0.02	0.52
選別残渣（その他分類できないもの）	0.09	1.11	0.60

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

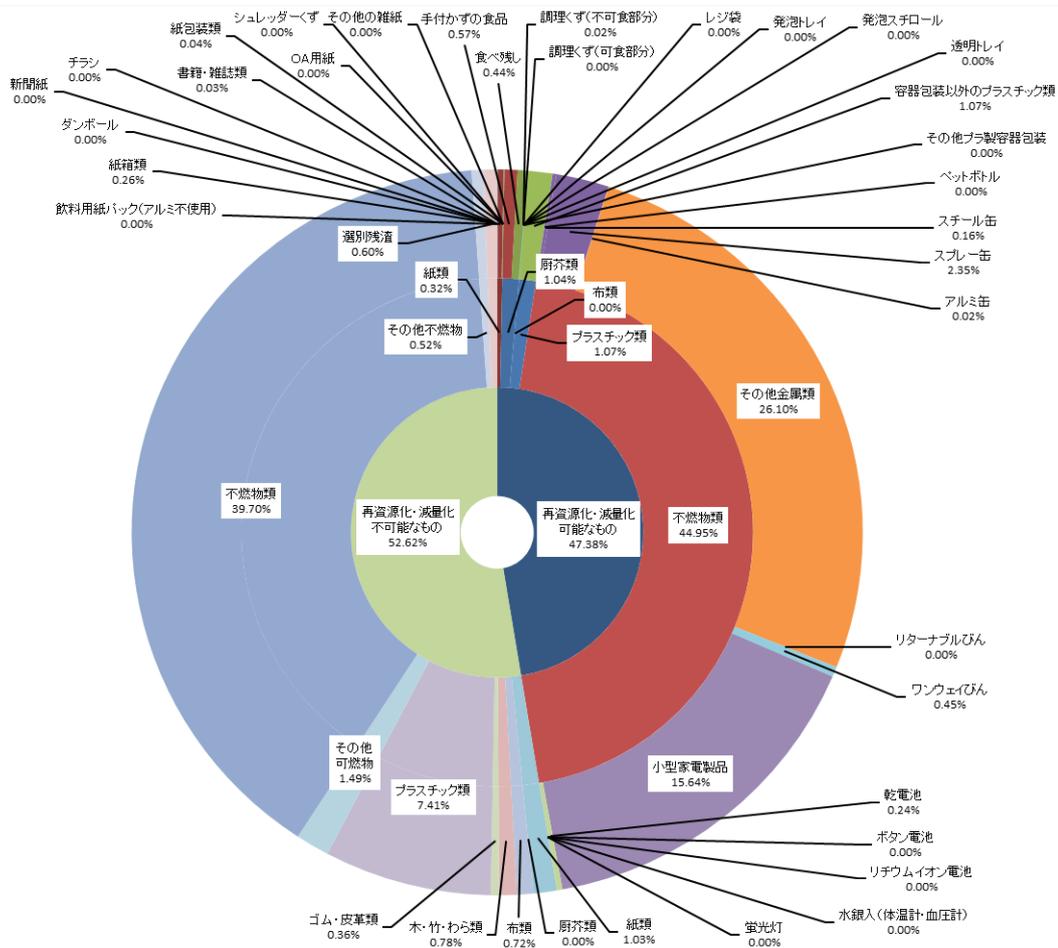


図 2-51 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（重量比：本市全域）

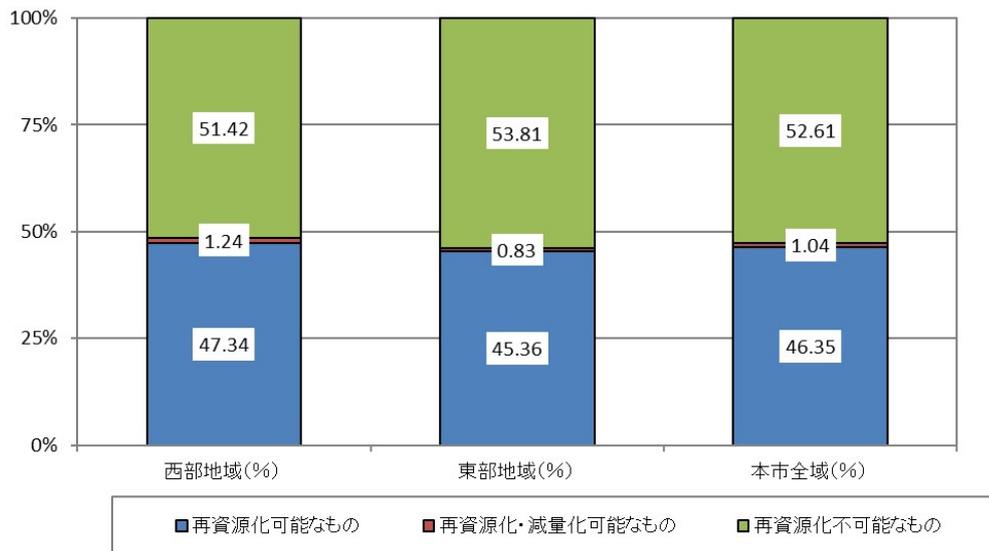


図2-52 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

本節では、450（大袋）・300（中袋）・200（小袋）・100（特小袋）・50（超特小袋）の有料指定袋について、それぞれ1袋当たりの投入量を確認した。

1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地域及び東部地域の可燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-28に示した。

450（大袋）1袋につき西部地域では1.2～6.4kg、東部地域では2.5～8.9kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.3kgが投入されていた。

300（中袋）1袋につき西部地域では0.7～5.1kg、東部地域では1.2～5.0kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.0kgが投入されていた。

200（小袋）1袋につき西部地域では0.3～5.5kg、東部地域では0.5～6.5kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.7kgが投入されていた。

100（特小袋）1袋につき西部地域では0.3～5.5kg、東部地域では0.6～3.8kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.9kgが投入されていた。

50（超特小袋）1袋につき西部地域では0.3～2.2kg、東部地域で0.8～1.9kgの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.2kgが投入されていた。

次に、図2-53に可燃ごみの投入量の分布状況を示した。450（大袋）については5kg以上、300（中袋）については2～3kg、200（小袋）については1～2kg、100（特小袋）については1～2kg、50（超特小袋）については1kg未満の投入が主となっていた。

表2-28 可燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	14	10	18	12	25	27	21	17	9	7
総重量(kg)	49.74	53.80	51.07	38.04	61.38	77.54	38.96	32.98	10.20	8.96
1袋当たりの重量(kg/袋)	3.55	5.38	2.84	3.17	2.46	2.87	1.86	1.94	1.13	1.28
備考	(市域全体) 4.31kg/袋		(市域全体) 2.97kg/袋		(市域全体) 2.67kg/袋		(市域全体) 1.89kg/袋		(市域全体) 1.20kg/袋	

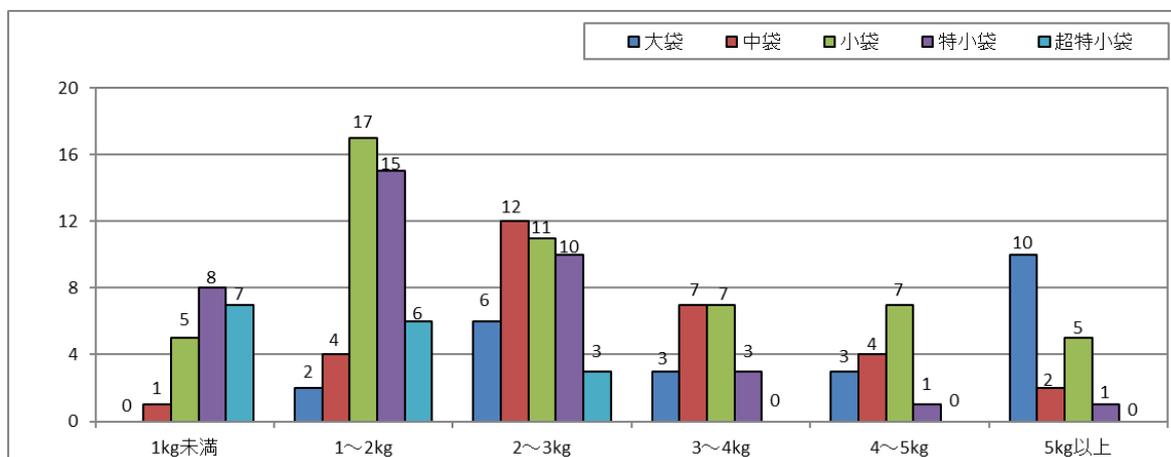


図2-53 可燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地域及び東部地域の可燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-29に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地域では40~75ℓ、東部地域では35~90ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約55.0ℓが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地域では15~45ℓ、東部地域では9~40ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約29.8ℓが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地域では10~35ℓ、東部地域では15~35ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約22.5ℓが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地域では7~15ℓ、東部地域では5~15ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約11.9ℓが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地域では5~10ℓ、東部地域では5~8ℓの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.9ℓが投入されていた。

次に、図2-54に可燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)については50ℓ以上、30ℓ(中袋)については30~40ℓ、20ℓ(小袋)については20~30ℓ、10ℓ(特小袋)については10~20ℓ、5ℓ(超特小袋)については10ℓ未満の投入が主体となっていた。

表2-29 可燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	14	10	18	12	25	27	21	17	9	7
総容量(ℓ)	755	565	535	359	532	640	248	203	62	48
1袋当たりの容量(ℓ/袋)	53.93	56.50	29.72	29.92	21.28	23.70	11.81	11.94	6.89	6.86
備考	(市域全体) 55.00ℓ/袋		(市域全体) 29.80ℓ/袋		(市域全体) 22.54ℓ/袋		(市域全体) 11.87ℓ/袋		(市域全体) 6.88ℓ/袋	

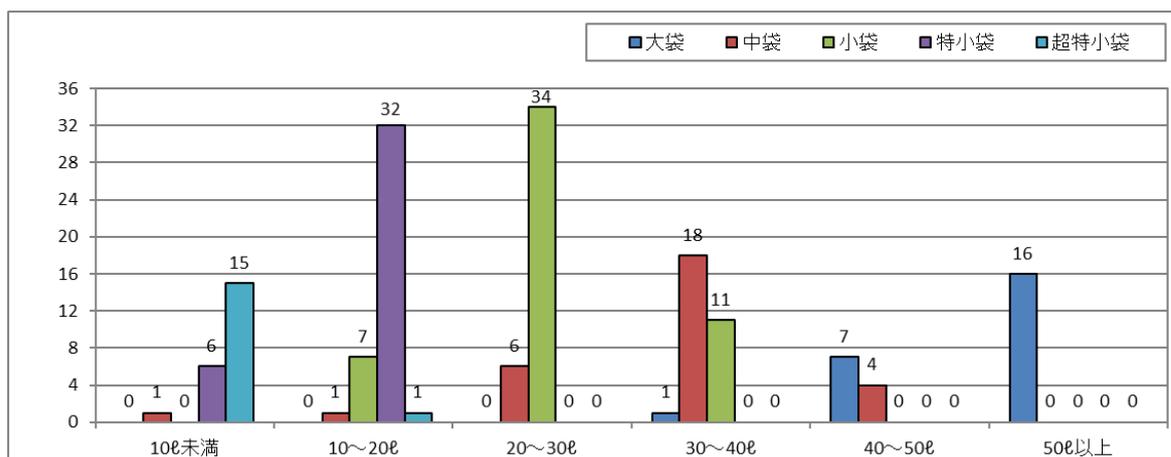


図2-54 可燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地域及び東部地域の不燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-30に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地域では2.3~7.7kg、東部地域では0.5~15.9kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.3kgが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地域では2.2~6.7kg、東部地域では4.1~9.9kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.0kgが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地域では1.0~8.7kg、東部地域では1.4~9.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.3kgが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地域では0.4~5.7kg、東部地域では1.0~5.4kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.4kgが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地域では0.6~3.0kg、東部地域では0.3~2.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.4kgが投入されていた。

次に、図2-55に不燃ごみの投入量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)、30ℓ(中袋)、20ℓ(小袋)については5kg以上、10ℓ(特小袋)、5ℓ(超特小袋)については1~2kgの投入が主体となっていた。

表2-30 不燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部								
袋の数(袋)	7	7	5	7	24	17	16	10	7	10
総重量(kg)	39.02	49.06	23.24	48.75	104.39	72.67	35.11	27.26	9.28	14.21
1袋当たりの重量(kg/袋)	5.57	7.01	4.65	6.96	4.35	4.27	2.19	2.73	1.33	1.42
備考	(市域全体) 6.29kg/袋		(市域全体) 6.00kg/袋		(市域全体) 4.32kg/袋		(市域全体) 2.40kg/袋		(市域全体) 1.38kg/袋	

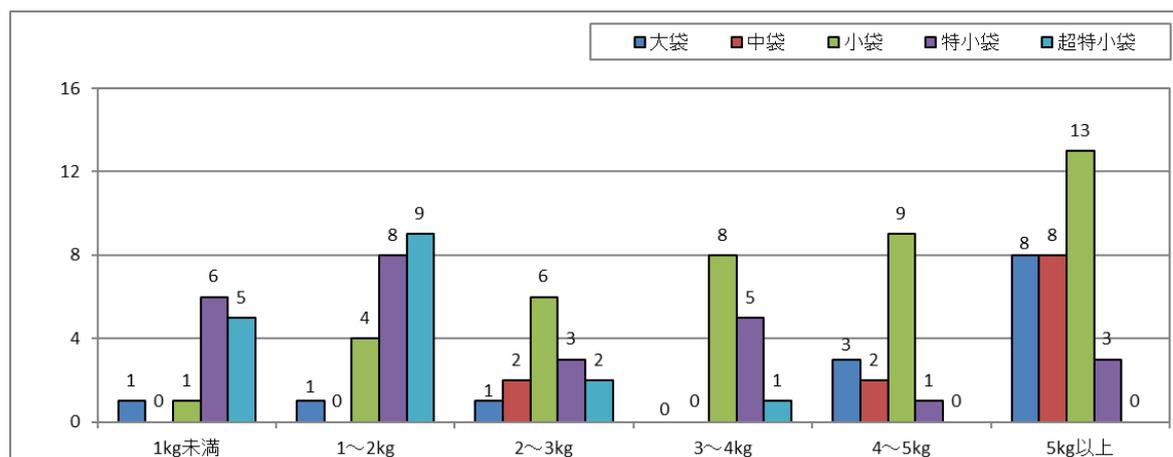


図2-55 不燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地域及び東部地域の不燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-31に示した。

45ℓ（大袋）1袋につき西部地域では25～65ℓ、東部地域では8～70ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約45.2ℓが投入されていた。

30ℓ（中袋）1袋につき西部地域では30～50ℓ、東部地域では35～50ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約42.1ℓが投入されていた。

20ℓ（小袋）1袋につき西部地域では10～50ℓ、東部地域では13～40ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約25.3ℓが投入されていた。

10ℓ（特小袋）1袋につき西部地域では2～20ℓ、東部地域では6～20ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約11.8ℓが投入されていた。

5ℓ（超特小袋）1袋につき西部地域では3～9ℓ、東部地域では3～10ℓが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.7ℓが投入されていた。

次に、図2-56に不燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45ℓ（大袋）、30ℓ（中袋）については50ℓ以上、20ℓ（小袋）については20～30ℓ、10ℓ（特小袋）については10～20ℓ、5ℓ（超特小袋）については10ℓ未満の投入が主であった。

表2-31 不燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	7	7	5	7	24	17	16	10	7	10
総容量(ℓ)	325	308	200	305	605	433	182	125	46	67
1袋当たりの容量(ℓ/袋)	46.43	44.00	40.00	43.57	25.21	25.47	11.38	12.50	6.57	6.70
備考	(市域全体) 45.21ℓ/袋		(市域全体) 42.08ℓ/袋		(市域全体) 25.32ℓ/袋		(市域全体) 11.81ℓ/袋		(市域全体) 6.65ℓ/袋	

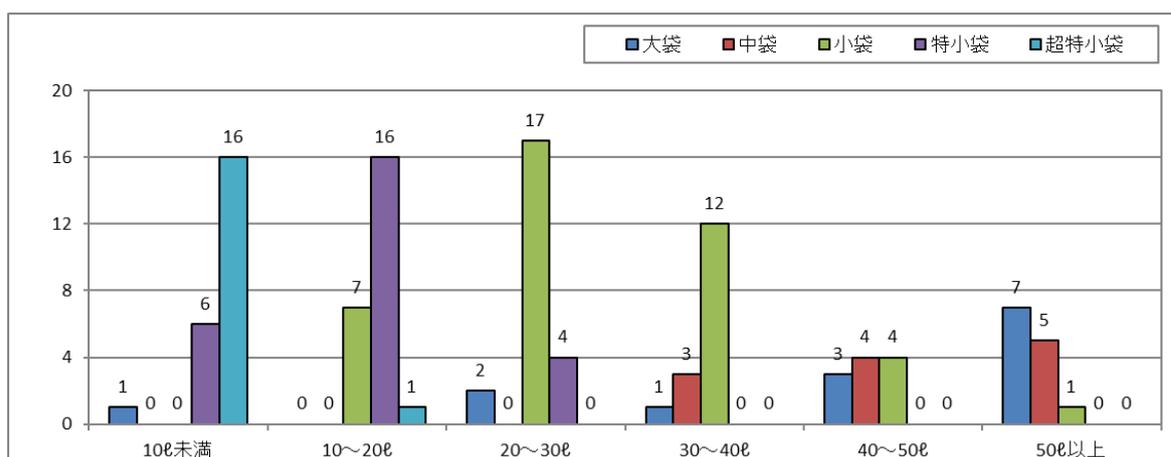


図2-56 不燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

3 プラスチック資源の1袋当たりの投入量・投入容量

(1) プラスチック資源の1袋当たりの投入量

今回実施した本市全域のプラスチック資源の投入量の調査結果を表2-32に示した。また、西部、東部のプラスチック資源の袋の個数を図2-57、プラスチック資源の投入量の状況を図2-58にそれぞれ示した。

プラスチック資源の袋の調査個数は、西部40袋、東部42袋、全域で82袋であった。

プラスチック資源の調査総重量は、西部30.56kg、東部30.57kg、全域で61.13kgであった。

プラスチック資源の1袋当たりの重量は、西部0.76kg、東部0.73kg、全域で0.75kgであった。

表2-32 プラスチック資源の1袋当たりの投入量

項目	西部	東部	全域
袋の数(袋)	40	42	82
総重量(kg)	30.56	30.57	61.13
1袋当たりの重量(kg/袋)	0.76	0.73	0.75

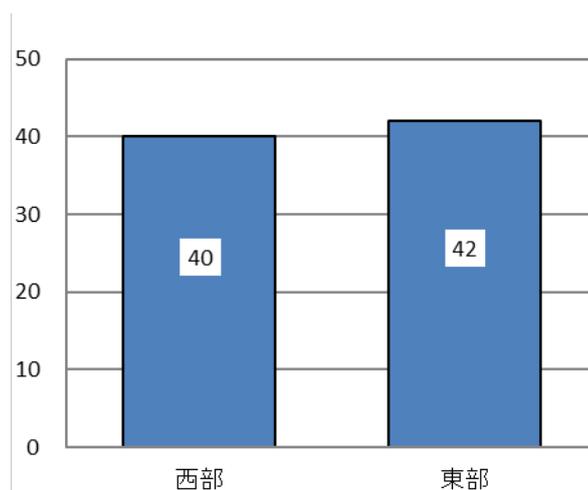


図2-57 プラスチック資源の袋の個数

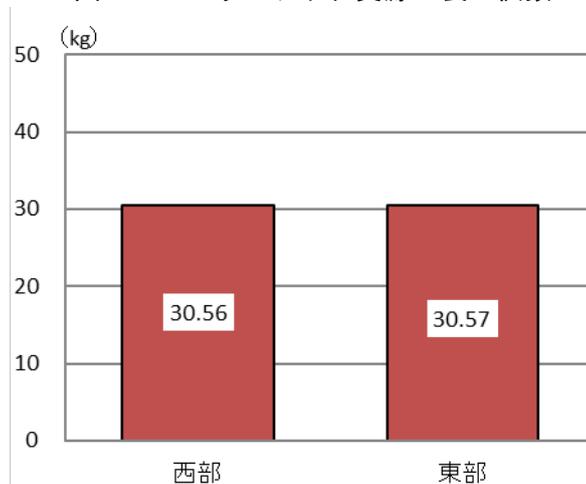


図2-58 プラスチック資源の投入量の状況

(2) プラスチック資源の1袋当たりの投入容量

今回実施した本市全域のプラスチック資源の投入容量の調査結果を表2-33に示した。また、西部、東部のプラスチック資源の投入容量の状況を図2-59に示した。

プラスチック資源の調査総容量は、西部1,526ℓ、東部1,666ℓ、全域で3,192ℓであった。

プラスチック資源の1袋当たりの容量は、西部38.15ℓ、東部39.67ℓ、全域で38.93ℓであった。

表2-33 プラスチック資源の1袋当たりの投入容量

項目	西部	東部	全域
袋の数(袋)	40	42	82
総容量(L)	1,526	1,666	3,192
1袋当たりの容量(L/袋)	38.15	39.67	38.93

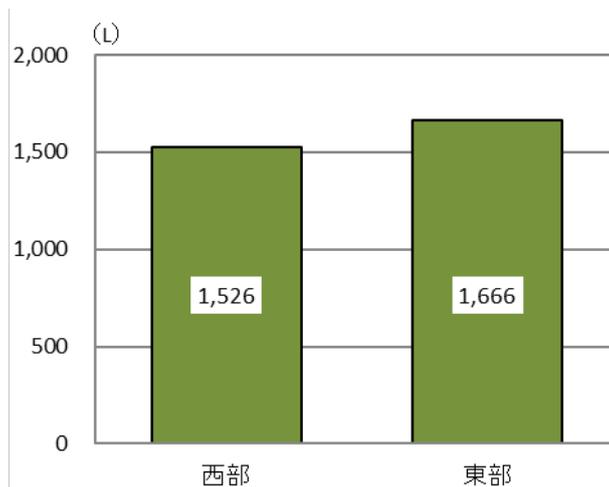


図2-59 プラスチック資源の投入量の状況

家庭ごみ組成分析調査結果の総括

第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

今回実施した調査分析結果の総括を以下に整理した。

1 地域的なごみの排出特性の把握

可燃ごみの重量比については、西部地域では「紙類」、「厨芥類」、「木・竹・わら類」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「布類」の構成比が減少していた。東部地域では、「厨芥類」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「紙類」、「布類」、「木・竹・わら類」の構成比が減少していた。

不燃ごみの重量比については、西部地域では「不燃物類」、「厨芥類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。東部地域では「不燃物類」、「紙類」、「布類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「厨芥類」の構成比が減少していた。

本市全域の可燃ごみ及び不燃ごみの排出特性としては、可燃ごみでは「厨芥類」、「木・竹・わら類」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「紙類」、「布類」の構成比が減少していた。不燃ごみでは「不燃物類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

可燃ごみ、不燃ごみとも「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が大きく減少しており、令和6年3月から始めたプラスチック資源の分別回収の効果が見られた。

2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本市における分別状況において、可燃ごみの調査結果（93.9%）は、令和5年度の調査結果（R5:88.3%）と比較して適正分別に関する構成比が増加していた。また、混入していた資源化物の構成比が約5.5%（R5:9.7%）と減少しているが、今後も適正分別に関する啓発活動を継続していく必要があると考えられる。可燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約5.5%、不燃ごみが約0.6%となっていた。（表3-1、図3-1参照）

不燃ごみの調査結果（66.9%）は、令和5年度の調査結果（R5:64.5%）と比較して適正分別に関する構成比が増加していた。また、混入していた資源化物の構成比が約20.2%（R5:21.5%）と減少しているが、今後も適正分別に関する啓発活動を継続していく必要があると考えられる。不燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約20.2%、可燃ごみが約12.8%となっていた。（表3-2、図3-2参照）

令和6年3月から回収を始めたプラスチック資源の調査結果は約92.5%であった。プラスチック資源に混入していた不適正な分別区分の内訳としては、可燃物類が約5.2%、不燃物類が約0.4%、分別対象外のプラスチック類が約1.9%となっていた。(表3-3、図3-3参照)

プラスチック資源として適正に排出された92.5%の割合は容器包装プラスチック(72.7%)、製品プラスチック(19.8%)であった。

プラスチック資源の排出は概ね適正になされていたが、その内訳を見ると汚れの除去等が不十分なものがあるという結果となった。

これは、食べ残しなどの厨芥類が投入されていた(表2-14参照)ことで他のきれいなプラスチックを汚してしまいリサイクル対象とできなかった、規格を上回るサイズの製品プラスチックの混入があったなどが原因として考えられるが、プラスチック資源のリサイクルにおける洗浄の重要性等について啓発の必要があると言える。

本調査において、プラスチック資源は分別回収開始してから初めての調査となることや、サンプリング調査である点をふまえ、排出動向を引き続き注視していく予定である。

表3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	6.07	4.97	5.52
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml以上	0.50	0.71	0.61
ダンボール	0.61	0.56	0.59
新聞紙	0.00	0.22	0.11
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.11	0.05
紙箱類	2.53	2.13	2.33
紙包装類	0.01	0.01	0.01
OA用紙	0.44	0.05	0.25
シュレッダーくず	0.00	0.01	0.00
その他の雑紙	0.22	0.06	0.14
リサイクルできる布類	0.38	0.07	0.22
スチール缶	0.01	0.00	0.01
スプレー缶	0.00	0.00	0.00
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.05	0.18	0.12
小型家電製品	0.16	0.10	0.13
乾電池	0.04	0.04	0.04
ボタン電池	0.00	0.01	0.01
リチウムイオン電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.01	0.04	0.03
リサイクルできる発泡トレイ	0.01	0.01	0.01
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.02	0.01	0.02
リサイクルできる其他プラ製容器包装	0.11	0.19	0.15
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.69	0.29	0.49
リサイクルできるペットボトル	0.26	0.16	0.21
混入していた不燃ごみ	0.39	0.73	0.56
適正な分別(可燃ごみ)	93.54	94.29	93.92
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

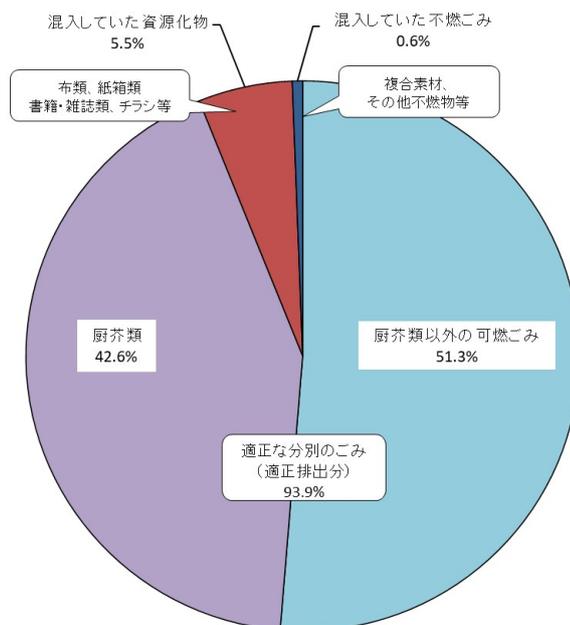


図3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	18.94	21.53	20.24
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml以上	0.00	0.00	0.00
ダンボール	0.00	0.00	0.00
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.06	0.00	0.03
紙箱類	0.29	0.22	0.26
紙包装類	0.08	0.00	0.04
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる布類	0.00	0.00	0.00
スチール缶	0.16	0.15	0.16
スプレー缶	1.72	2.97	2.35
アルミ缶	0.04	0.00	0.02
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.84	0.05	0.45
小型家電製品	14.60	16.67	15.64
乾電池	0.27	0.22	0.24
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウムイオン電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるその他プラ製容器包装	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.89	1.25	1.07
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
混入していた可燃ごみ	10.26	15.40	12.84
適正な分別(不燃ごみ)	70.80	63.07	66.92
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

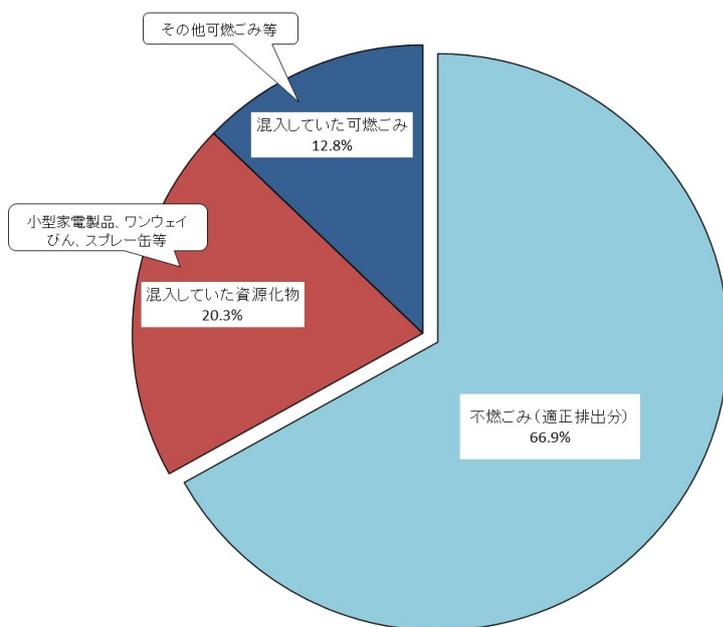


図3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-3 プラスチック資源への区分以外の混入状況（重量比）

区分	本市全域(%)
混入していた可燃物類	5.17
混入していた不燃物類	0.44
混入していたプラスチック類(分別回収対象外)	1.92
リサイクルできるペットボトル	1.06
リサイクルできないペットボトル	0.87
分別対象回収(プラスチック資源)	92.47
リサイクルできるレジ袋	0.03
リサイクルできないレジ袋	1.48
リサイクルできる発泡トレイ	3.80
リサイクルできない発泡トレイ	1.47
リサイクルできる発泡スチロール	0.55
リサイクルできない発泡スチロール	0.11
リサイクルできる透明トレイ	9.73
リサイクルできない透明トレイ	3.32
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	36.83
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	17.53
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	10.06
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできないもの	7.56
合計	100

※ 上表のデータは表2-13、表2-15、表2-17に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

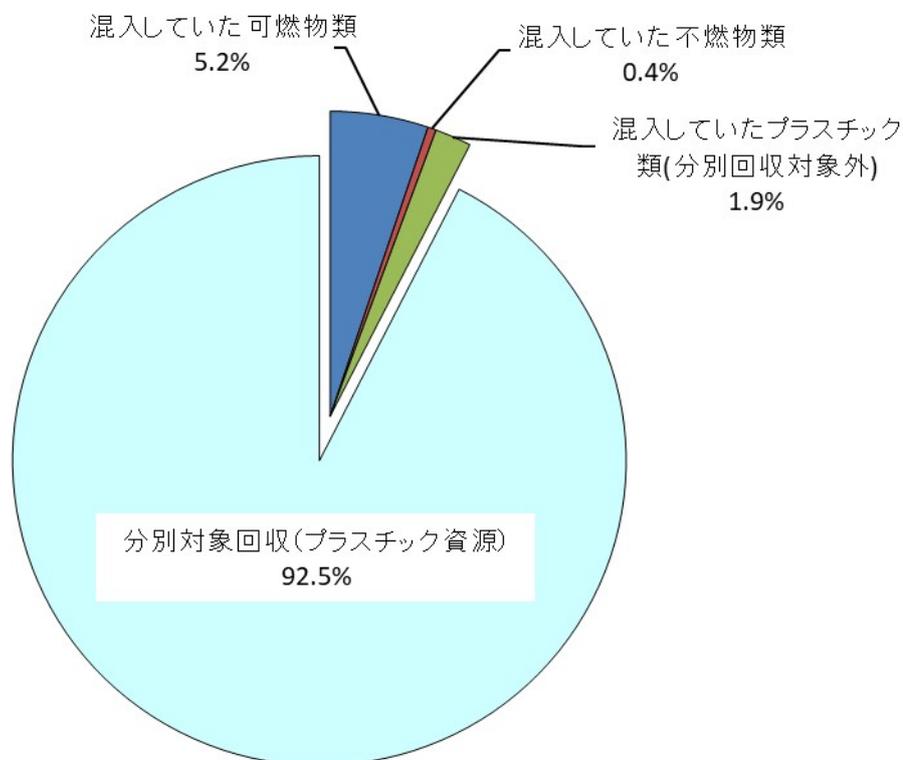


図3-3 プラスチック資源への区分以外の混入状況（重量比）

3 容器包装廃棄物の混入状況の把握

可燃ごみ及び不燃ごみに占める容器包装廃棄物の混入状況は、本市全域で見ると、可燃ごみで約 12.2% (R5:18.0%)、不燃ごみで約 9.1% (R5:17.7%) であり、令和 5 年度と比較して減少していた。

可燃ごみについては紙箱類、ペットボトル、レジ袋など、不燃ごみについてはワンウェイびん、スチール缶など比較的容易に分別可能な品目も混入していることから今後も啓発を実施していく必要があると考えられる。

今回の調査から、「プラスチック資源」として容器包装プラスチック及び製品プラスチックの組成分析を実施した。

「プラスチック資源」が可燃ごみから適切に分別排出されたことで可燃ごみ及び不燃ごみに占める「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が下がった。一方、排出された「プラスチック資源」は容器包装プラスチック(72.7%)の内、約 22.3%はリサイクルできないもの、製品プラスチック(19.8%)の内、約 9.1%はリサイクルできないものという結果となった。(図 2-28 参照)

「プラスチック資源」におけるリサイクルの可否を分ける基準は汚れの付着の程度である。「プラスチック資源」分別回収にあたりより細やかな周知広報の必要性を示す結果となった。

4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

可燃ごみ及び不燃ごみに占める再資源化、減量化の可能性に関する状況としては、本市全域で見ると、可燃ごみで約 45.9% (R5:40.6%) (図 2-50 参照)、不燃ごみで約 47.4% (R5:37.6%) (図 2-51 参照)という状況であった。

可燃ごみのうち再資源化が可能な項目としては「紙類」の構成比が高い状況であり、雑紙回収、リサイクル回収などを推進することにより本項目の構成比の上昇を抑制することができると考えられる。減量化が可能な項目としては「厨芥類」の構成比が高く、全体の約 40.3%を占めていた。本年度の調査においても昨年度と同様の傾向が確認されたことから、来年度においても確認していく必要がある。

不燃ごみについては、その他金属類、小型家電製品の構成比が高くなっており、適正分別に向けた啓発を継続していく必要がある。特に平成 26 年度から始めた小型家電製品の回収の利用に向けた啓発を推進していくことも必要である。

5 ごみ袋 1 袋当たりの投入量等に関する状況把握

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみの投入量としては、可燃ごみでは 45ℓ(大袋)が 4.3kg/袋、30ℓ(中袋)が 3.0kg/袋、20ℓ(小袋)が 2.7kg/袋、10ℓ(特小袋)が 1.9kg/袋、5ℓ(超特小袋)が 1.2kg/袋、不燃ごみでは 45ℓ(大袋)が 6.3kg/袋、30ℓ(中袋)が 6.0kg/袋、20ℓ(小袋)が 4.3kg/袋、10ℓ(特小袋)が 2.4kg/袋、5ℓ(超特小袋)が 1.4kg/袋という状況であった。

ごみ袋1袋あたりに投入するごみの投入容量としては、可燃ごみでは45ℓ(大袋)が55.0ℓ/袋、30ℓ(中袋)が29.8ℓ/袋、20ℓ(小袋)が22.5ℓ/袋、10ℓ(特小袋)が11.9ℓ/袋、5ℓ(超特小袋)が6.9ℓ/袋、不燃ごみでは45ℓ(大袋)が45.2ℓ/袋、30ℓ(中袋)が42.1ℓ/袋、20ℓ(小袋)が25.3ℓ/袋、10ℓ(特小袋)が11.8ℓ/袋、5ℓ(超特小袋)が6.7ℓ/袋という状況であった。

6 今後の課題

本市においては有料指定袋の導入、雑紙の分別開始、各種の支援制度の導入、適正分別の啓発等、ごみの減量化・資源化に係る施策を継続的に実施している。本年度の調査においても、これらの施策が浸透していきつつあることが確認できるが、項目によっては改善されていないものもあるため、適正分別に関する啓発を一層進めていく必要があると考えられる。

本市では令和6年3月から新たに「プラスチック資源」の分別回収がはじまった。

「プラスチック資源」におけるリサイクルの可否は汚れの除去の程度で決まるが、本調査では「プラスチック資源」として排出されたもののうち、容器包装プラスチック(72.7%)の約22.3%はリサイクルできないもの、製品プラスチック(19.8%)の約9.1%はリサイクルできないもので、汚れの除去が不十分でありリサイクルに不適という結果であった。

この結果を受けて、汚れの除去の程度がイメージしやすい周知広報が重要であると考えられる。

《ごみ組成分析調査の流れ1》

	状況写真	概要
収集段階		<p>各ごみステーションから調査サンプルを収集する。</p>
調査実施場所へ搬入	 <p>業務名: 岡山市家庭ごみ組成分析調査業務委託 地区名: 西部可燃(津島地区) 状況: 調査検体(全体) 令和6年 10月8日 日本エクスラン工業(株)</p>	<p>調査実施場所へ搬入したサンプルを大小に分けて並べ、奇数番号のごみ袋を取り出し、調査検体とする。</p>

《ごみ組成分析調査の流れ2》

	状況写真	概要
分別作業段階		<p>重量と容積を計量した調査検体を、表 1-2 に示した品目に分別する。</p>
計量段階		<p>分別した調査検体を、品目ごとに計量する。計量は、分別を行った全ての品目に対して実施している。</p>
<p>以上の作業を、西部地域及び東部地域の可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチック資源に対して実施した。</p>		